

# 尾崎町郷土芸能伝承施設改築工事 設計図

図 面 目 録	
図面番号	図 面 内 容
A-01	図面リスト
A-02	特記仕様書（1）
A-03	特記仕様書（2）
A-04	特記仕様書（3）
A-05	特記仕様書（4）
A-06	付近見取図・全体配置図・設計概要
A-07	敷地・建築・延床面積算定図
A-08	仕上表
A-09	地下1階配置図兼平面図
A-10	1階配置図兼平面図
A-11	立面図
A-12	断面図
A-13	矩計図1 部分詳細図
A-14	矩計図2 外部階段詳細図
A-15	屋根伏図
A-16	天井伏図
A-17	展開図No.1
A-18	展開図No.2
A-19	建具キープラン 建具表（アルミ・木製）
A-20	家具キープラン 家具表No. 1
A-21	家具表No. 2
A-22	サイン計画図・各部詳細図
A-23	外構図

図 面 目 録	
図面番号	図 面 内 容
A-24	【解体】解体建物平面図・立面図
A-25	【現況】既存建物現況図
A-26	【現況】部分平面測量図
A-27	法規チェック図No.1
A-28	法規チェック図No.2
RS-01	構造特記仕様書
RS-02	鉄筋コンクリート構造配筋標準図1
RS-03	鉄筋コンクリート構造配筋標準図2
RS-04	鉄筋コンクリート構造配筋標準図3
RS-05	鉄筋コンクリート構造配筋標準図4
RS-06	鉄筋コンクリート構造配筋標準図5
RS-07	RC伏図
RS-08	軸組図
RS-09	断面リスト
RS-10	擁壁詳細図
WS-01	木質工事特記仕様書
WS-02	木造軸組接合部標準図（1）
WS-03	木造軸組接合部標準図（2）
WS-04	木造軸組接合部標準図（3）
WS-05	木造軸組接合部標準図（4）
WS-06	金物リスト（1）

図 面 目 録	
図面番号	図 面 内 容
WS-07	金物リスト（2）
WS-08	部材リスト
WS-09	土台伏図・梁伏図・小屋伏図
WS-10	柱・耐力壁伏図
WS-11	軸組図（1）
WS-12	軸組図（2）
E-01	特記仕様書
E-02	照明器具姿図・分電盤結線図
E-03	地下1階 幹線・コンセント設備配線図
E-04	1階 幹線・コンセント設備配線図
E-05	1階 電灯設備 配線図
E-06	地下1階 弱電・防火設備 配線図
E-07	1階 弱電・防火設備 配線図
M-01	特記仕様書
M-02	屋外給水設備配管図
M-03	1階 給水・給湯・ガス設備配管図
M-04	1階・屋外 排水設備配管図
M-05	地下1階 空調・換気設備配管図
M-06	1階 空調・換気設備配管図
M-07	屋外階段 排水配管図（参考図）

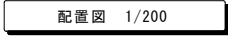




年 度	工事名称		管理建築士	統括	製	一級建築士 第 374554号	多田 和 広 印	製作日	区 分	図面内容	縮 尺	図面番号
1	尾崎町郷土芸能施設改築工事		一級建築士事務所 第277号 株式会社 カクタ設計 岩手県遠野市松崎町白岩字地蔵23-1 カクタ設計金石営業所 重石市大蔵町1丁目1-1 中央ビル2F	多田 製 担当 図				令和 2年 3月	意 匠 工事種別 新築	特記仕様書No.3	----	A-04








付近見取図

■ 設 計 概 要						
一 般 事 項	工 事 名 称	尾崎町郷土芸能伝承施設改築工事	建 物 概 要	規 模	階 数	2
	工 事 場 所	岩手県釜石市浜町2丁目63番			耐 火 構 造 等	その他
	地 名 地 番	同上			軒 高	3.290m
	工 事 種 別	新築			最 高 高 さ	7.200m
	主 要 用 途	その他（地域集会所）			建 築 面 積	35.68㎡
	敷 地 面 積	図示による			延 床 面 積	54.45㎡
	用 途 指 定	第一種中高層住居専用地域			構 造 概 要	構 造
	建 ペ イ 率	6 0 %	設 計 地 耐 力	構造図参照		
	容 積 率	1 7 1 %		そ の 他		
	防 火 指 定	準防火地域				
	そ の 他	—				

年 度	工事名称		管理建築士	統括	多田 製	1級建築士 第374554号 多田 和広 印	製 作 日	区 分	図 面 内 容	縮 尺	図面番号
1	尾崎町郷土芸能伝承施設改築工事		株式会社 カクタ設計 岩手県遠野市松崎町白岩字地倉23-1 カクタ設計金石営業所 番石市大渡町1丁目1-1 中央ビル2F	1級建築士 登録第16846号	担当	多田 園	令和2年 3月	意 匠 工事種別 新 築	付近見取図 配置図 設計概要	A2:1/200 (A3印刷71%縮小)	A-06

年 度	工 事 名 称		一級建築士事務所 第277号	管理建築士	統括	多田	製	1級建築士 第374554号 多田 和広 印	製作日	区 分	図 面 内 容	縮 尺	図面番号
1	尾崎町郷土芸能伝承施設改築工事		株式会社 カクタ設計 岩手県遠野市松崎町白岩字地蔵23-1 カクタ設計金石営業所 岩手県遠野市松崎町白岩字地蔵23-1	1級建築士 登録第168469号 佐野 文男	担当	多田	図		令和2年 3月	意 匠 工事種別 新 築	敷地面積算定図 【新築部】延床・建築面積算定図	A2:1/300 1/100 (A3印刷71%縮小)	A-07

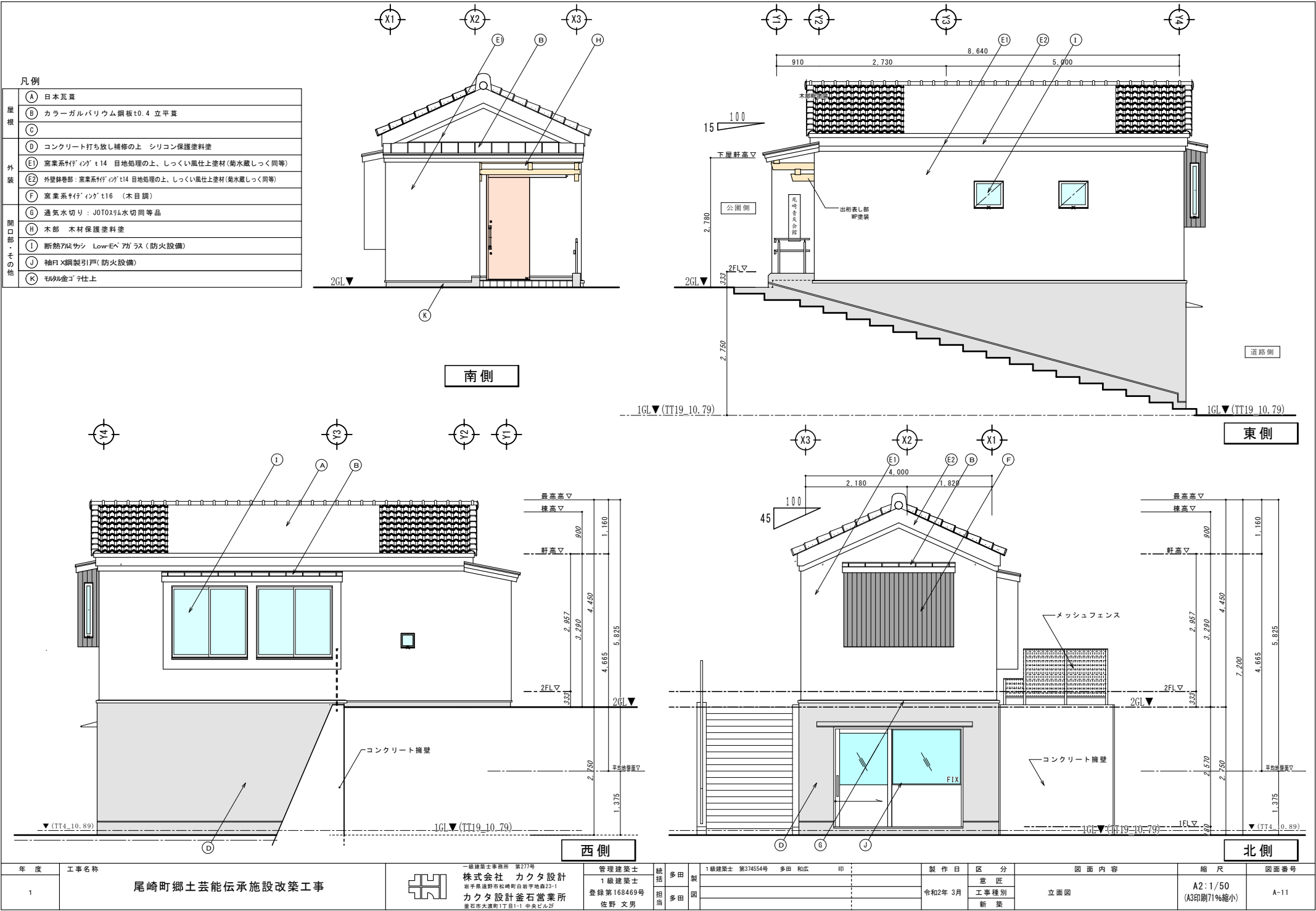
外部仕上表					
部 位	仕 様	認定番号	部 位	仕 様	
屋 根	一般部：日本瓦葺 棟瓦：雁振瓦のみ(乾式工法)	---	基礎廻り	1階：コンクリート打放し補修の上、アクリルシリコン塗装仕上げ	
	下屋部及び出窓部：カラーガルバリウム鋼板 <sup>※</sup> 0.4（立平葺）	---		2階：同上	
	下葺（共通）：アスファルトルーフィング940 下地：構造用合板 <sup>※</sup> 12	---	1階断熱材	外壁土中部：押出法 <sup>※</sup> リステレンフォーム保温板 <sup>※</sup> 50 建具回り及び室内周囲現場発泡ウレタンフォーム充填	
軒 天	仕上：2階玄関 <sup>※</sup> 一部化粧軒天 <sup>※</sup> 12	---	2階断熱材	1階内壁：ポリスチレンフォーム複合板t50	
外 壁	1階：コンクリート打放し補修の上、アクリルシリコン塗装仕上げ	---		天井：同上	
	2階：窯業系サイディング <sup>※</sup> 14（目地処理）の上、漆喰調塗装仕上げ	---		床：グラスウールボード32k/m3 t80 壁：高性能グラスウール 14kg/m3 t100 天井：同上 t155	
下地：通気構造（通気胴縁14×45）＋透湿防水シート	---	サイン工事	外部：施設銘板 津波避難所サイン 既存サイン取外しの上再取付 内部：切文字サイン		
開 口 部	アルミ樹脂カラーサッシ（複層ガラス） 一部鋼製戸	防火設備			
2階ポーチ	磁器質タイル150角				

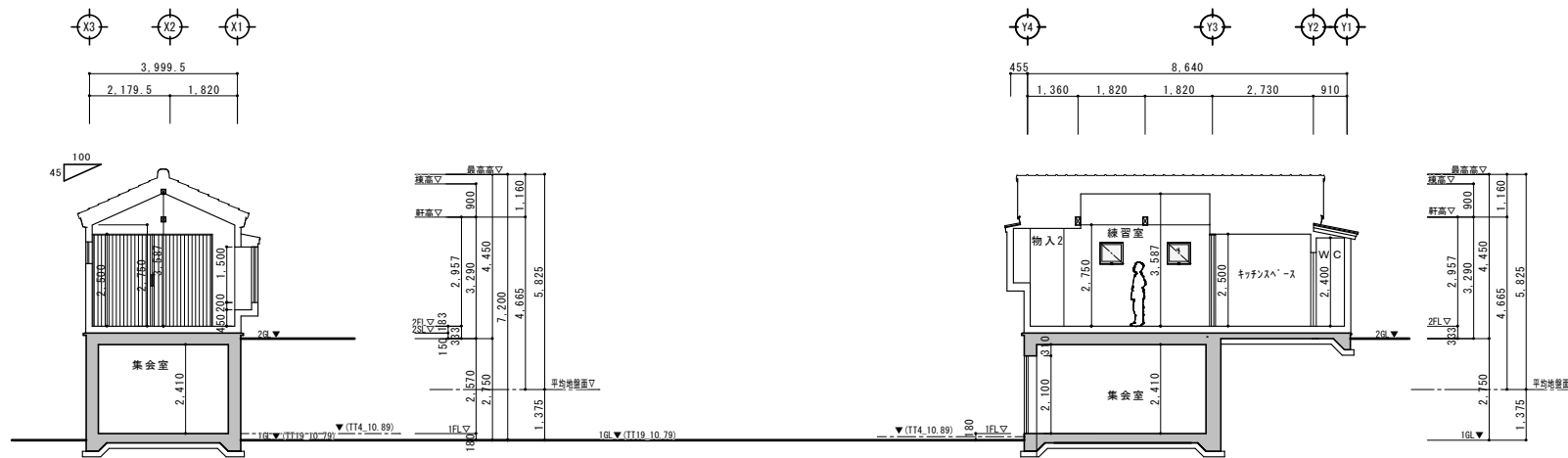
内部仕上表									
階	室 名	床	巾 木	壁	天 井		家具・ユニット工事	大工工事・その他	備考欄
		仕 上	仕 上	仕 上	仕 上	天 井 高			
		下 地		下 地	下 地	廻 縁			
1	沓 脱	モルタル金 <sup>※</sup> テ コンクリート直均し	ビニル巾木H=60	ビニルクロス	ビニルクロス	2,410	下足棚 －	－	
	集 会 室	複合フローリング <sup>※</sup> t12 <sup>※</sup> フォーム同等品H50+ <sup>※</sup> リステンフォームt0.15	ビニル巾木H=60	石膏ボード <sup>※</sup> 12.5+ポリエチレンフォーム <sup>※</sup> 50（複合板）	石膏ボード <sup>※</sup> 9.5+ポリエチレンフォーム <sup>※</sup> 50（複合板）	シール納め	－ －	－ －	
2	沓 脱	磁器質タイル150角 モルタル	磁器質タイル150角	ビニルクロス 石膏ボード <sup>※</sup> 12.5	ビニルクロス 石膏ボード <sup>※</sup> 9.5	2,500 塩ビ	下足棚・吊戸棚 －	－ －	
	ト イ レ	ビニール床シート <sup>※</sup> 2.0（抗菌仕様） 構造用合板 <sup>※</sup> 28＋構造用合板 <sup>※</sup> 2.0	ビニル巾木H=60	化粧ケイカル板t6 石膏ボード <sup>※</sup> 12.5	ビニルクロス 石膏ボード <sup>※</sup> 9.5	2,400 塩ビ	上部棚 －	配管バック膳板：SUS包み －	
	キッチンスペース	複合フローリング <sup>※</sup> t15 構造用合板 <sup>※</sup> 28	ビニル巾木H=60	化粧ケイカル板t6 石膏ボード <sup>※</sup> 12.5	ビニルクロス 石膏ボード <sup>※</sup> 9.5	2,500 塩ビ	ミニキッチンW1650・吊戸棚 水切台	配管バック膳板：SUS包み －	
	練 習 室	畳敷 <sup>※</sup> 15 一部複合フローリング <sup>※</sup> t15 畳寄 構造用合板 <sup>※</sup> 28	ビニル巾木H=60	ビニルクロス 石膏ボード <sup>※</sup> 12.5	ビニルクロス 石膏ボード <sup>※</sup> 9.5	2,760～3,600 塩ビ	出窓ベンチ・神棚カウンター －	カーテンレール・カーテン 提灯掛 転落防止背板	
	物 入 1・2	複合フローリング <sup>※</sup> t15 構造用合板 <sup>※</sup> 28	ビニル巾木H=60	ビニルクロス 石膏ボード <sup>※</sup> 12.5	ビニルクロス 石膏ボード <sup>※</sup> 9.5	2,500 塩ビ	中棚・枕棚 －	－ －	
※認定番号 石膏ボード <sup>※</sup> 9.5（準不燃：QM-9828） 石膏ボード <sup>※</sup> 12.5（不燃：NM-8619） シーリング石膏ボード <sup>※</sup> 9.5（準不燃：QM-9826） 不燃化粧板 <sup>※</sup> 3（不燃：NM-9447） 化粧石膏ボード <sup>※</sup> 9.5（準不燃：QM-9824） 化粧石膏ボード <sup>※</sup> 9.5（準不燃：QM-0524） 押入ボード <sup>※</sup> 9.5（準不燃：QM-0172） 化粧けい酸カルシウム板t6(NM-8579)							※特記  ※使用建材は全て、告示対象外 もしくは F☆☆☆☆  ※火気使用室の内装 壁：PB12.5+Vクロス（準不燃 QM0803） 天井：PB9.5+Vクロス（準不燃 QM-0803）		

年 度	工事名称		一級建築士事務所 第277号 株式会社 カクタ設計 岩手県遠野市松崎町白岩字地蔵23-1 カクタ設計釜石営業所 釜石市大渡町1丁目1-1 中央ビル2F	管理建築士 1級建築士 登録第168469号 佐野 文男	統括 多田 賢 担当 多田 賢	製 図	1級建築士 第374554号 多田 和広 印	製作日	区 分	図 面 内 容	縮 尺	図面番号
1	尾崎町郷土芸能伝承施設改築工事							令和2年 3月	意 匠 工事種別 新 築	仕上表	－	A-08






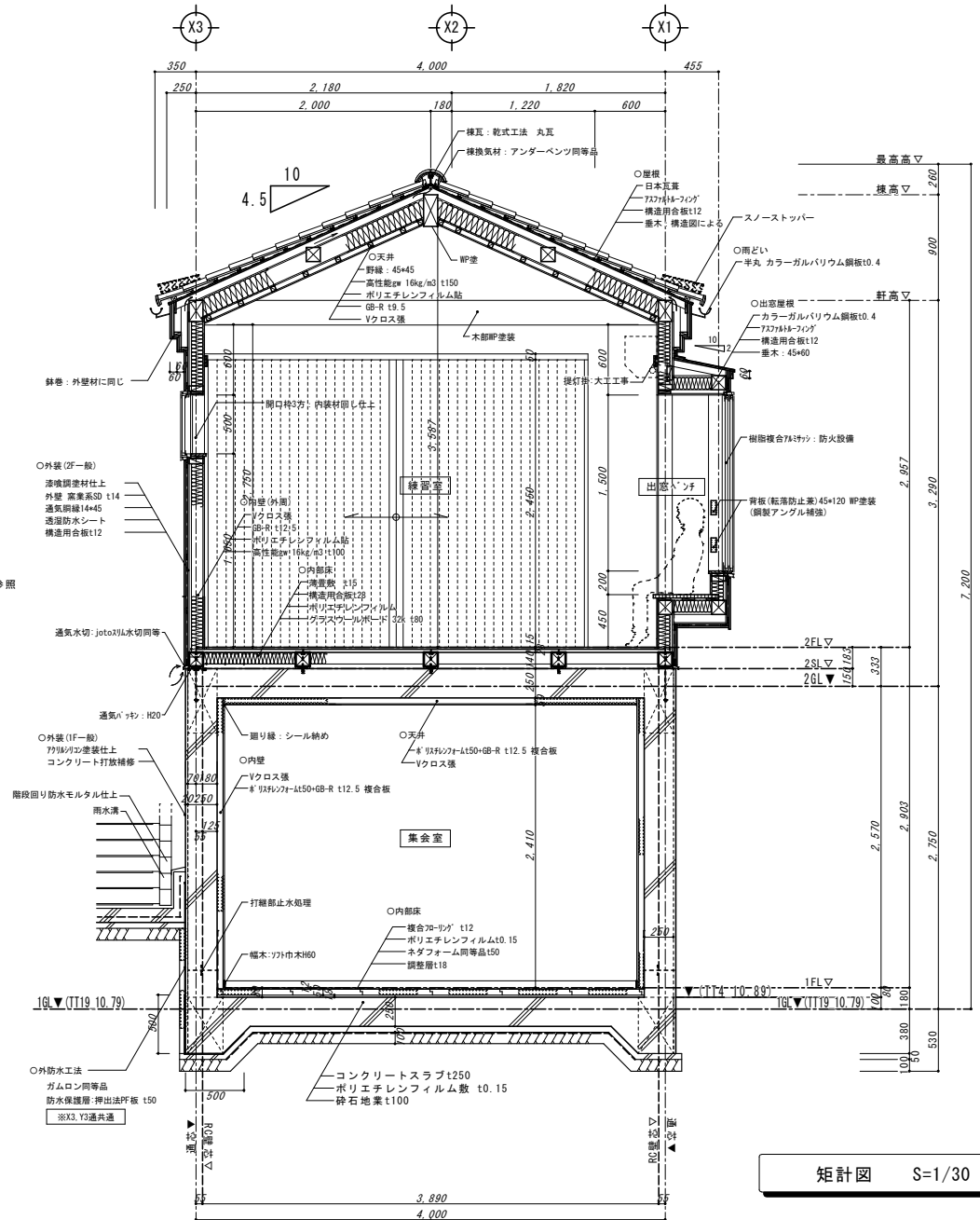
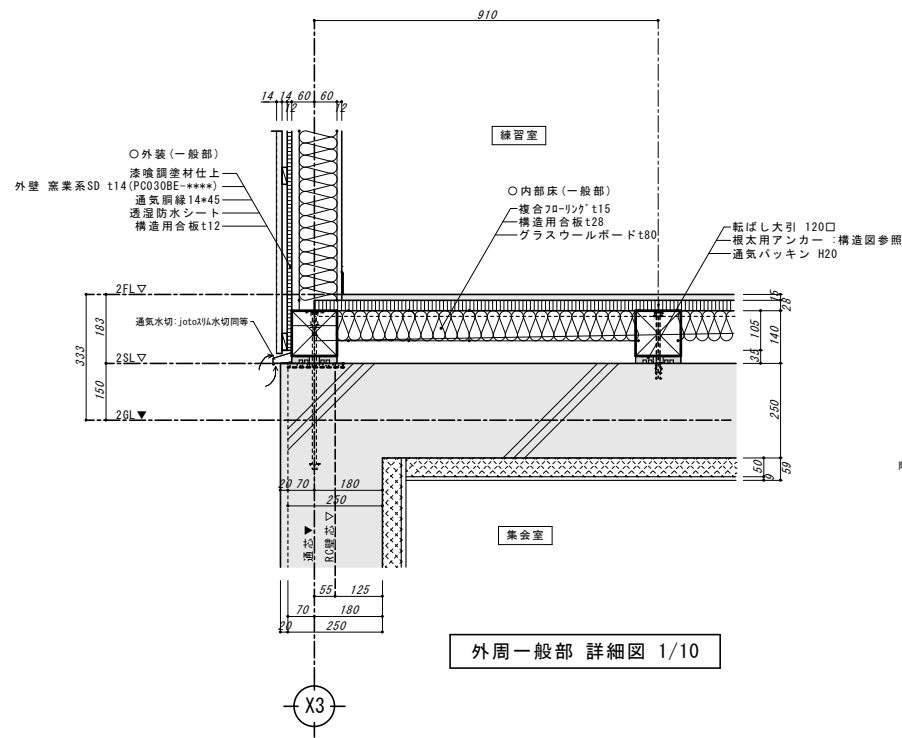




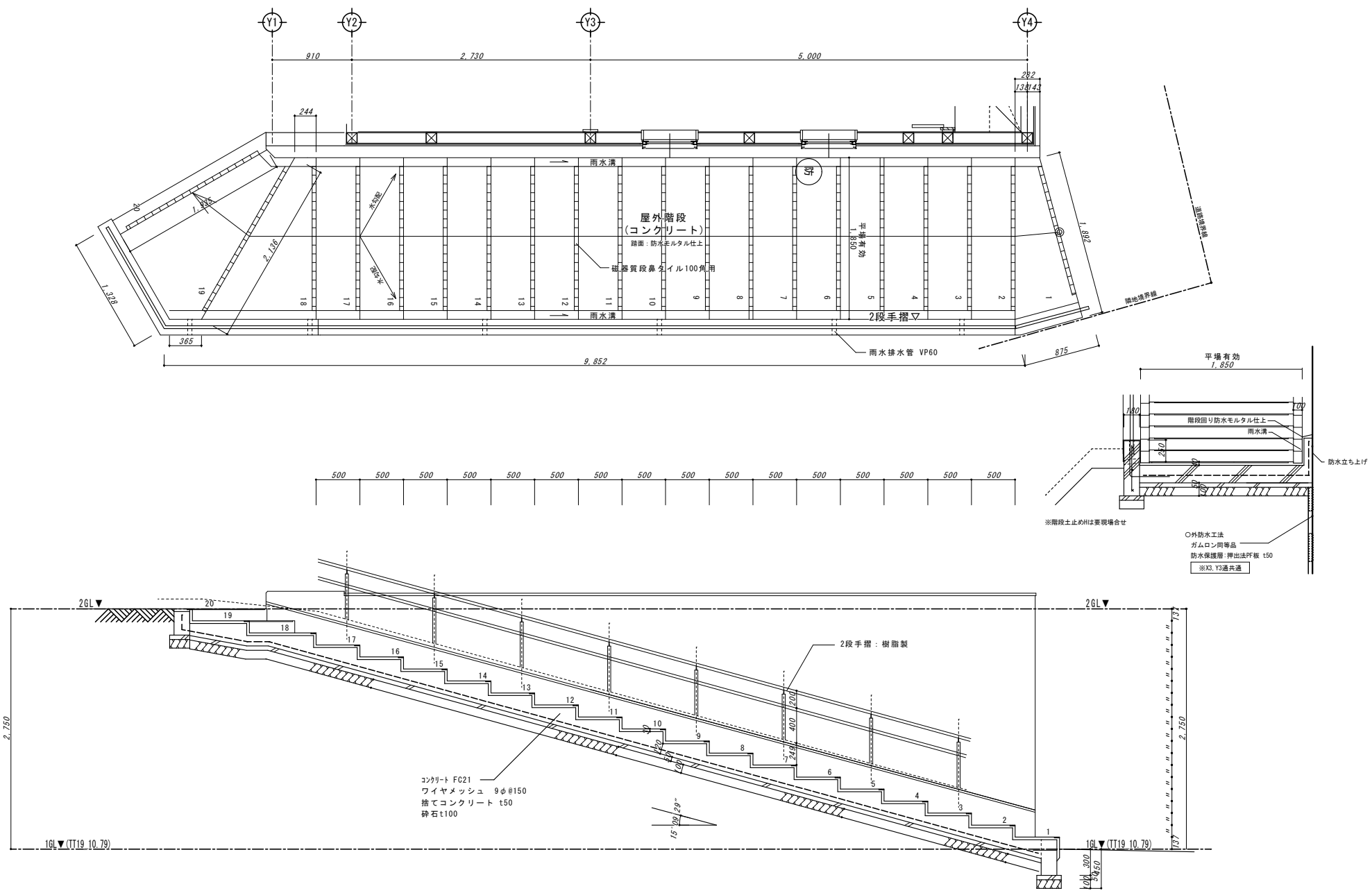
断面図 1/100

年度	工事名称		一級建築士事務所 第277号 株式会社 カクタ設計 岩手県滝野市松崎町白根平地23-1 カクタ設計金石営業所 盛石市大渡町1丁目1-1 中央ビル2F	管理建築士	統括	多田	製	1級建築士 第374554号 多田 和広 印	製作日	区分	図面内容	縮尺	図面番号
1	尾崎町郷土芸能伝承施設改築工事			1級建築士 登録第168469号 佐野 文男	担当	多田	図		令和2年 3月	意匠 工事種別 新築	断面図	A2:1/100 (A3印刷71%縮小)	A-12



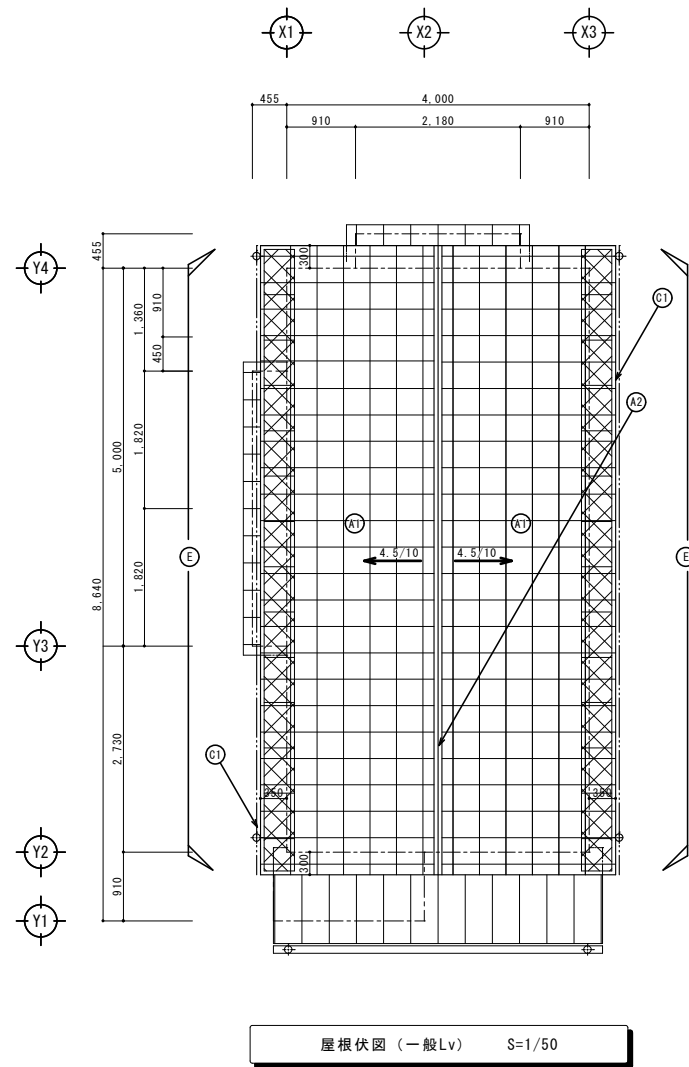
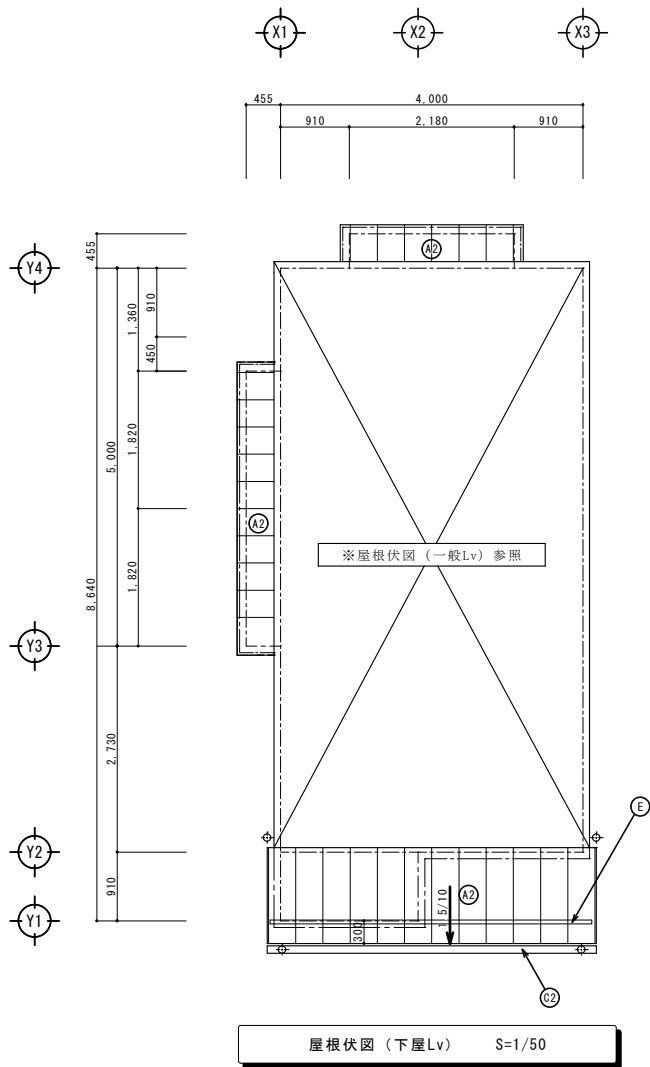


年度	工事名称	一級建築士事務所 第277号	管理建築士	統括	製	1級建築士 第3754号	多田 和広	印	製作日	区分	図面内容	縮尺	図面番号
1	尾崎町郷土芸能伝承施設改築工事	株式会社 カクタ設計 岩手県遠野市松崎町白岩字地蔵23-1 カクタ設計釜石営業所 釜石市大湊町1丁目1-1 中央ビル2F	1級建築士 登録第168469号 佐野 文男	多田 和広 多田 和広	製				令和2年 3月	意匠 工事種別 新築	矩計図1 部分詳細図	A2:1/30 1/10 (A3印刷71%縮小)	A-13

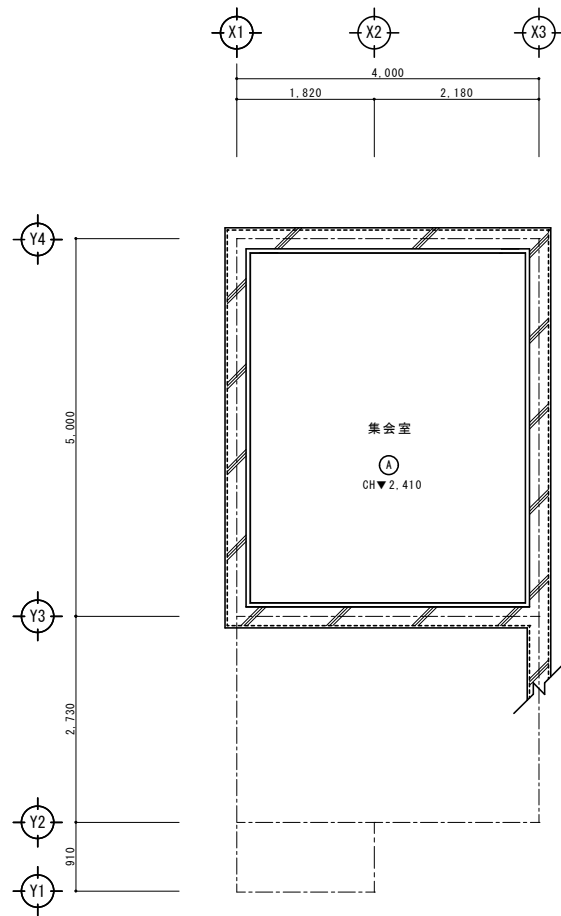


屋外階段詳細図 1/30

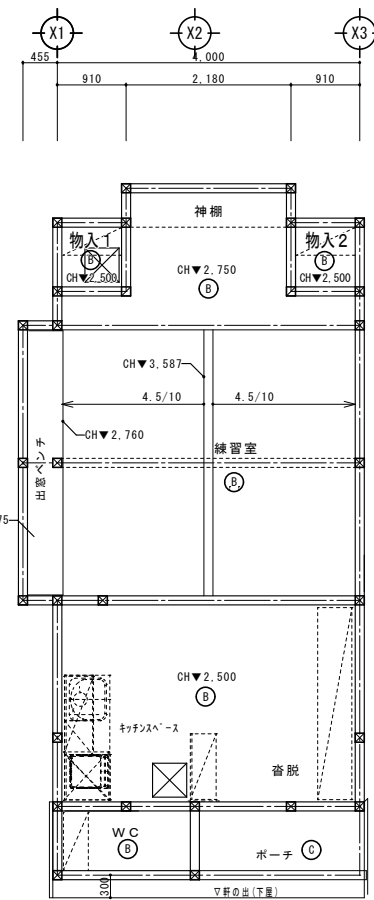
年度	工事名称	設計者	監理者	製作者	区分	図面内容	縮尺	図面番号
1	尾崎町郷土芸能伝承施設改築工事	株式会社 カクタ設計 岩手県遠野市松崎町白根字地蔵森23-1 カクタ設計釜石営業所 釜石市大湊町1丁目1-1 中央ビル2F	管理建築士 1級建築士 登録第168469号 佐野 文男	統括 多田 担当 多田	製 図 1級建築士 第374554号 多田 和広 印	製作日 令和2年 3月 意匠 工事種別 新築	屋外階段詳細図 A2:1/30 (A3印刷71%縮小)	A-14



凡 例	A1	屋根	日本瓦葺（J型）（雪止め瓦付）	C1	雨樋	カラーガルバリウム鋼板雨どい 半丸75φ
	A2	棟瓦	丸瓦 乾式工法（様換気材通気工法）	C2	雨樋	カラーガルバリウム鋼板雨どい（ハナツツキ同等）
	B1	下屋	ｶﾗｰｶﾞﾙﾊﾞﾘｳﾑ鋼板t0.4 立平葺	D	鋼板屋根部雪止	雪止アングル 亜鉛メッキ仕上
				E	瓦屋根部雪止	軒先スノーストッパー



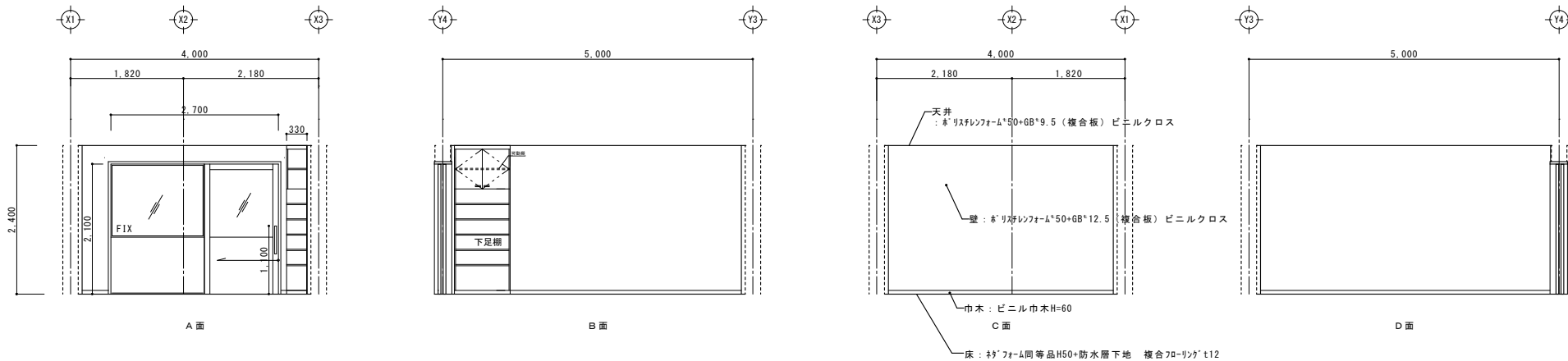
1階天井伏図 S=1/50



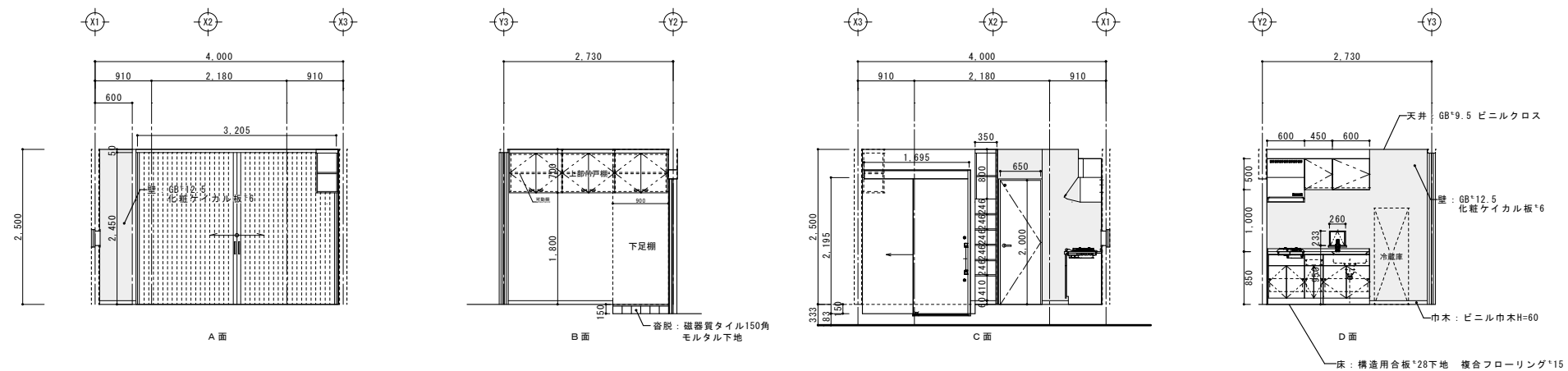
2階天井伏図 S=1/50

凡	(A)	* リスチンフォーム+GB複合板 (50+9.5) の上V90x		天井点検口450口(取付場所は協議による)
	(B)	GB9.5の上V90x		
例	(C)	木目リッ化粧軒天(既製品) t14	備考	
	(D)			


年度	工事名称		一級建築士事務所 第277号 株式会社 カクタ設計 岩手県奥州市和崎町白根平地番23-1 カクタ設計金石営業所 盛岡市大渡町1丁目1-1 中央ビル2F	管理建築士	統括	多田 製	1級建築士 第374554号	多田 和広	印	製作日	区分	図面内容	縮尺	図面番号
1	尾崎町郷土芸能伝承施設改築工事			1級建築士	担当	多田 園				令和2年 3月	意匠 工事種別 新築	天井伏図	A2:1/50 (A3印刷71%縮小)	A-16

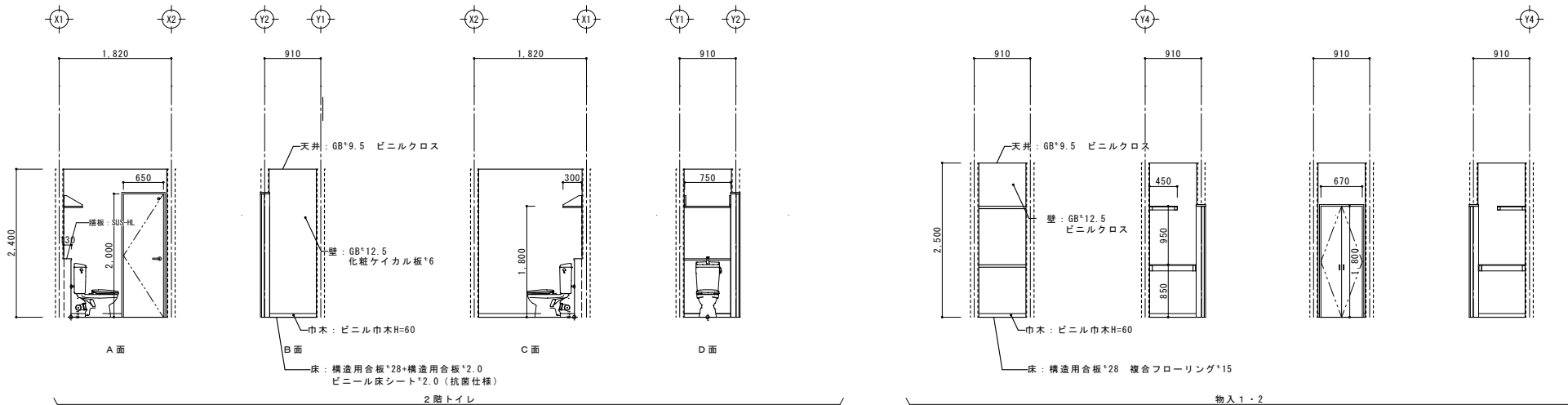
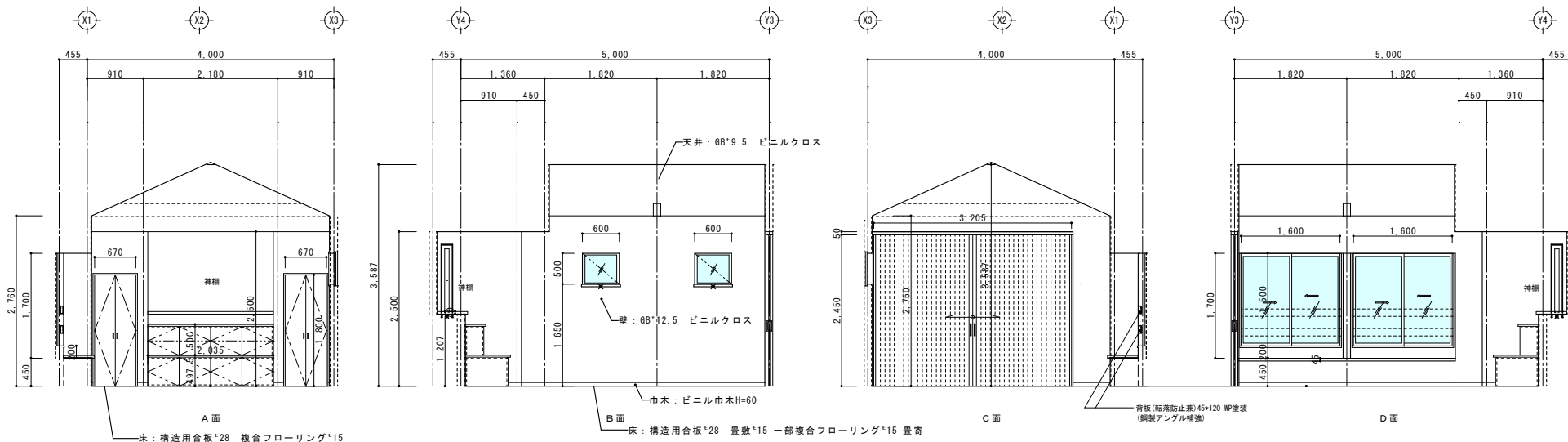


1階集会室・音脱



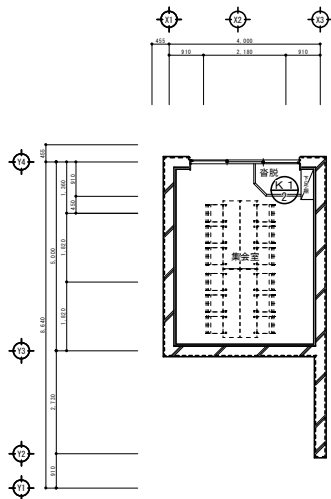
2階音脱・キッチンスペース

年度	工事名称		管理建築士 1級建築士 登録第168469号 佐野 文男	統括 多田 園	製作日 令和2年 3月	区分 意匠 工事種別 新築	図面内容 展開図 1 1階 集会室 2階 音脱・キッチンスペース	縮尺 A2:1/50 (A3印刷71%縮小)	図面番号 A-17
1	尾崎町郷土芸能伝施設改築工事		一級建築士事務所 第277号 株式会社 カクタ設計 岩手県滝野市松崎町石堂平地番23-1 カクタ設計金石営業所 岩手市大湊町1丁目1-1 中央ビル2F	多田 園	1級建築士 第374554号 多田 和広 印				

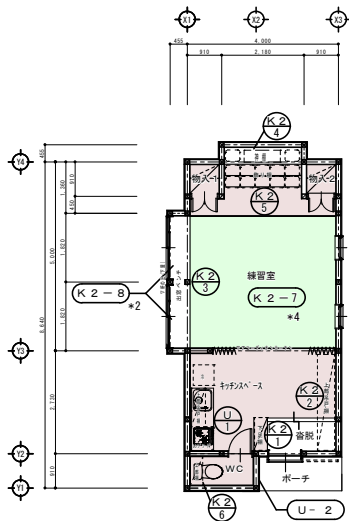


年度	工事名称	設計者	管理建築士	統括	1級建築士	製作日	区分	図面内容	縮尺	図面番号
1	尾崎町郷土芸能伝施設改築工事	株式会社 カクタ設計 岩手県盛岡市松崎町白根平地23-1 カクタ設計金石営業所 盛岡市大渡町1丁目1-1 中央ビル2F	1級建築士 登録第168469号 佐野 文男	多田 和広 多田 和広	1級建築士 第374554号 多田 和広 印	令和2年 3月	意匠 工事種別 新築	展開図 2 2階練習室・トイレ・物入	A2:1/50 (A3印刷71%縮小)	A-18

[illegible]



B1階キープラン S=1/100

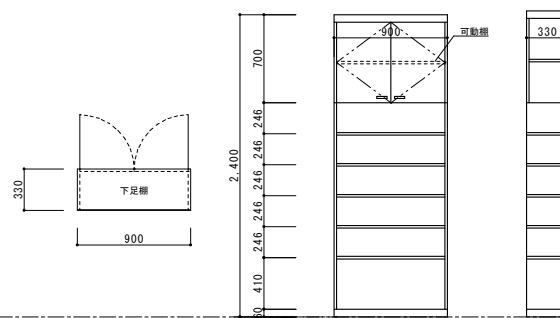
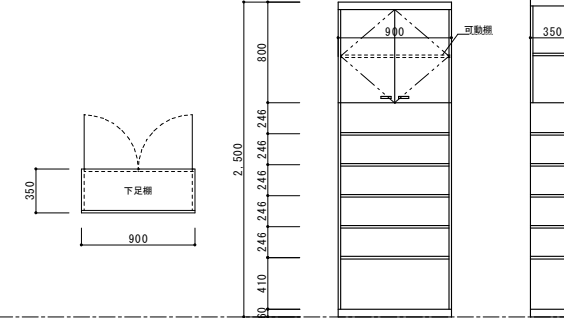
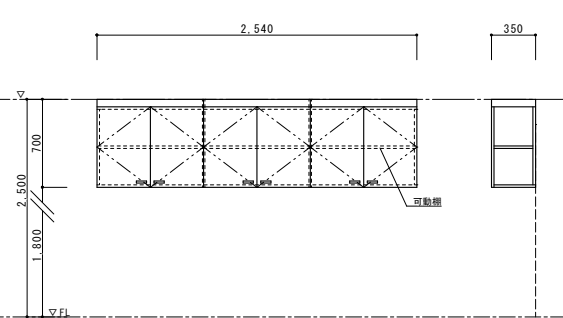
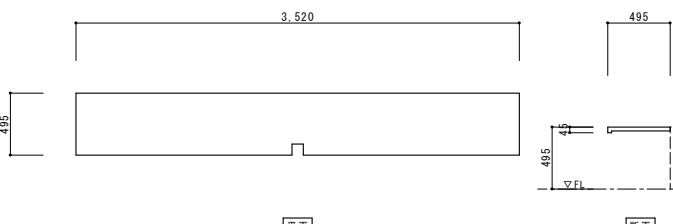
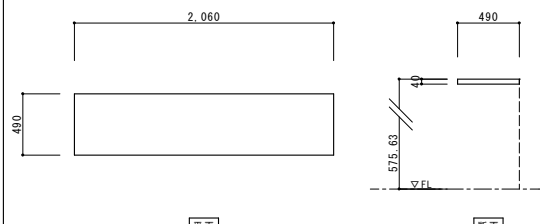
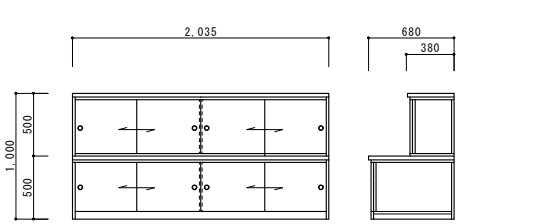
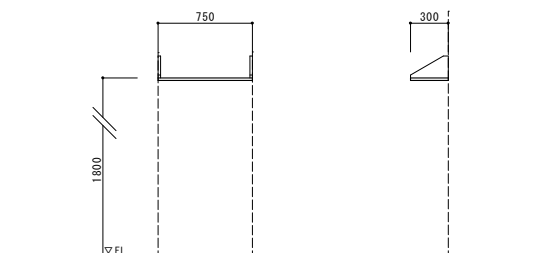
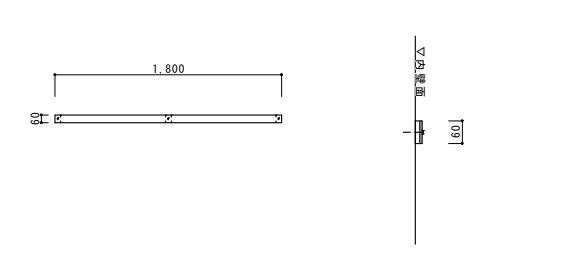
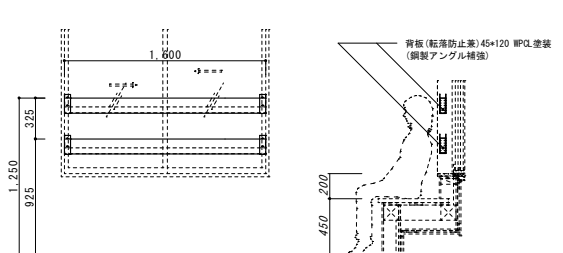



1階キープラン S=1/100

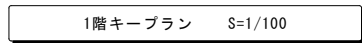
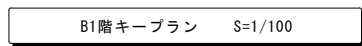
記号	U-1	1ヶ所
寸法・形態		
名称	キッチンセット	
材料・仕上	メーカー仕様による	
付属金物	メーカー仕様による	
備考	参考：LIXIL同等品	

記号	U-2	1ヶ所
寸法・形態		
名称	ステンレス製郵便受け	
材料・仕上	ステンレス製	
付属金物	取付金物一式	
備考	寸法は参考とする	



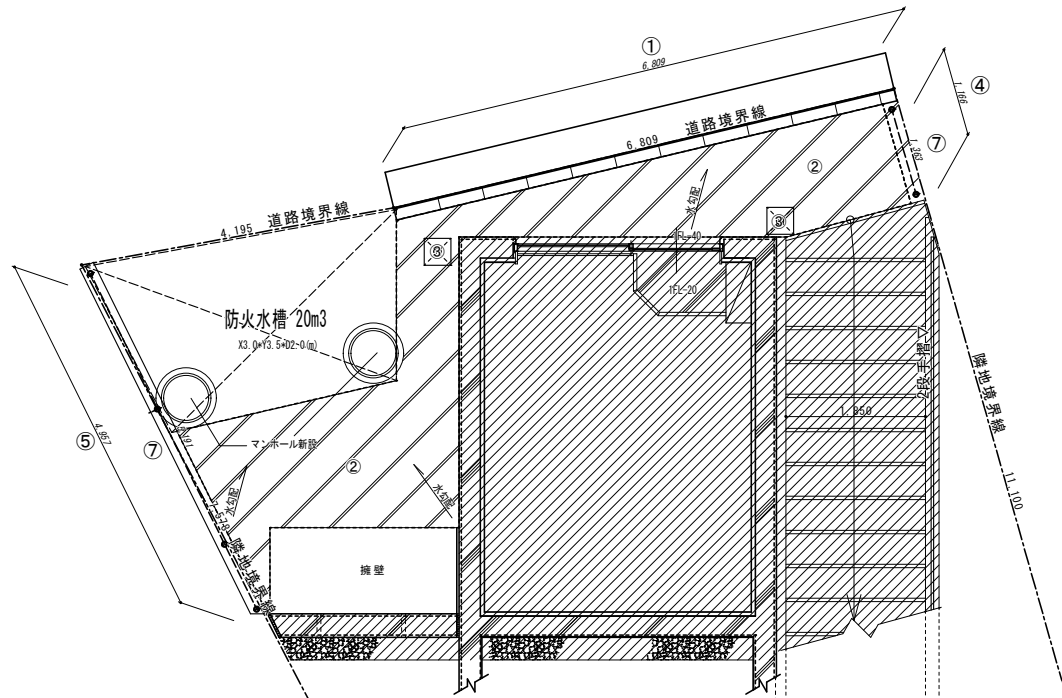
記 号	K 1 - 1		1ヶ所	K 2 - 1		1ヶ所	K 2 - 2		1ヶ所
			1/30			1/30			1/30
	名 称		B 1 階下足棚：18人分 上部収納棚		1 階下足棚：18人分 上部収納棚		吊戸棚		
	材料・仕上		ポリ合板（木目）、背板：ポリ合板（両面仕上）		ポリ合板（木目）、背板：ポリ合板（両面仕上）		ポリ合板（木目）		
付 属 金 物		水受け塩ビコインマット、棚ダボ、スライド丁番、引手、取付金物一式		水受け塩ビコインマット、棚ダボ、スライド丁番、引手、取付金物一式		棚ダボ、スライド丁番、引手、取付金物一式			
備 考		---		---		---			
記 号	K 2 - 3		1ヶ所	K 2 - 4		2ヶ所	K 2 - 5		1ヶ所
			1/30			1/30			1/30
	名 称		出窓ベンチ座板		神棚用カウンター台		飾り棚兼収納		
	材料・仕上		タモ集成材、OSCL塗装仕上		メラミン化粧板（ポストフォームTBA同等）		ポリ合板 t20、天板：ポストフォーム		
付 属 金 物		接合金物一式		接合金物一式		引戸金物、接合金物一式			
備 考		---		---		---			
記 号	K 2 - 6		1ヶ所	K 2 - 7		4ヶ所	K 2 - 8		2ヶ所
			1/30						
	名 称		上部棚		弓張提灯掛け		背板兼転落防止ｶﾞｰﾄﾞ(脱着式)		
	材料・仕上		ポリ合板 t 20		MDF ビス化粧キャップ		Q P 基材集成材(鋼製アングル補強) 受材：鋼製 木部WPCL仕上、鉄部EP-G仕上		
付 属 金 物		壁面接合金物一式		ビス(化粧キャップ)		鋼製アングル			
備 考		－		要現場協議		---			

年 度	工事名称		一級建築士事務所 第277号 株式会社 カクタ設計 埼玉県鴻巣市松崎町白旗字地蔵23-1 カクタ設計釜石営業所 釜石市大渡町1丁目1-1 中央ビル2F	管理建築士 1 級建築士 登録第168469号 佐野 文男	統括 多田 製 担当 多田 園	1級建築士 第374554号 多田 和広 印	製作日 令和2年 3月	区 分	図 面 内 容 家具表 2	縮 尺 A2：1/30 (A3印刷71%縮小)	図面番号 A-21
								意 匠 工事種別 新 築			
1	尾崎町郷土芸能伝承施設改築工事										



記号	S-1	1ヶ所	S-2	1ヶ所
寸法・形態		1/10		
名称	屋外施設銘板		ピクトサイン	
材料・仕上	木製 書文字 クリア塗装		カッティングシート仕上	
付属金物	脱着金物		----	
備考	----		建具面に張付	
記号	S-3	1ヶ所	S-4	1ヶ所
寸法・形態		1/10		
名称	避難誘導サイン		既存真鍮銘板移設	
材料・仕上	アルポリック程度		真鍮	
付属金物	浮かし取り付け金物一式		----	
備考	RC面に設置		移設場所は協議による	

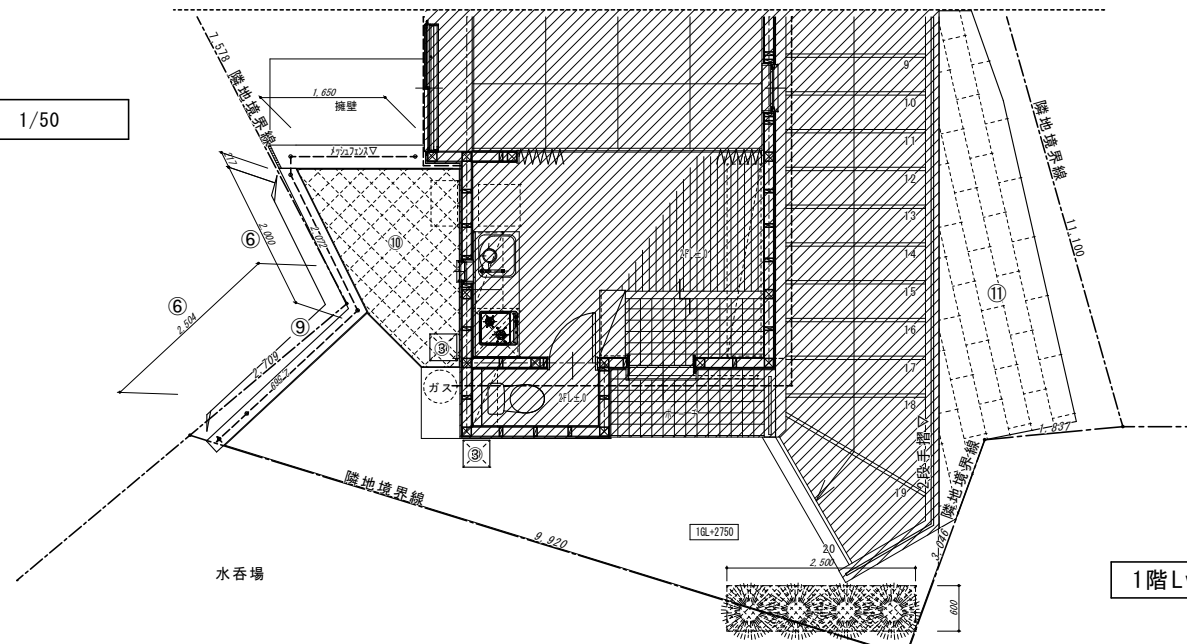
年 度	工 事 名 称		一級建築士事務所 第277号 株式会社 カクタ設計 岩手県遠野市松崎町白岩字地森23-1 カクタ設計釜石営業所 釜石市大湊町1丁目1-1 中央ビル2F	統括 多田 製 担当 多田 園	1級建築士 第37454号 多田 和広 印	製 作 日	区 分	図 面 内 容	縮 尺	図面番号
1	尾崎町郷土芸能伝承施設改築工事					令和2年 3月	意 匠 工 事 種 別 新 築	サイン計画 サイン案内	図示	A-22



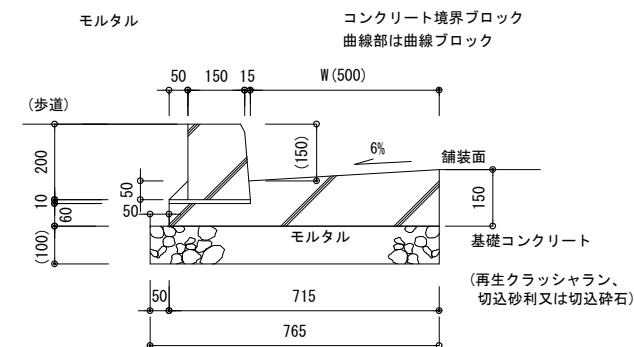
B1階Lv

No.	名称・摘要	数 量	単 位	備 考
①	街きょ W=500型	6.81	m	道路管理者要協議
②	コンクリート舗装	14.25	m2	
③	雨水浸透柵	4	ヶ所	
④	メッシュフェンス(1) H1200	1.17	m	
⑤	メッシュフェンス(2) H1200	4.96	m	
⑥	メッシュフェンス(3) H1200	6.37	m	
⑦	現場打ちコンクリート境界(1)	1.36	m	ファン基礎を兼ねる
⑧	現場打ちコンクリート境界(2)	5.19	m	ファン基礎を兼ねる
⑨	現場打ちコンクリート境界(3)	4.64	m	ファン基礎を兼ねる
⑩	砂利敷 t100	3.79	m2	
⑪	法面張芝(葉付)	8.36	m2	
⑫	植栽基礎整備工	1.5	m2	
⑬	植栽工(樹高2.0m程度)	4	本	公衆トイレ目隠し用
	-	-	-	

外構図 1/50

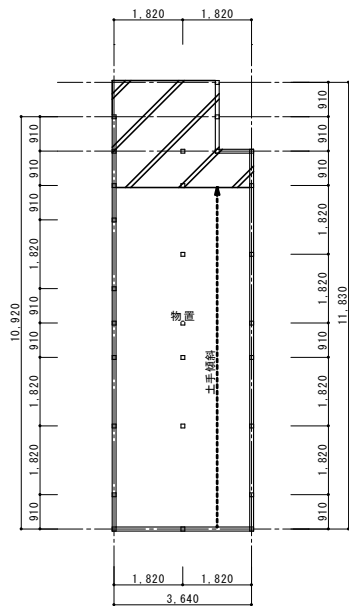


1階Lv



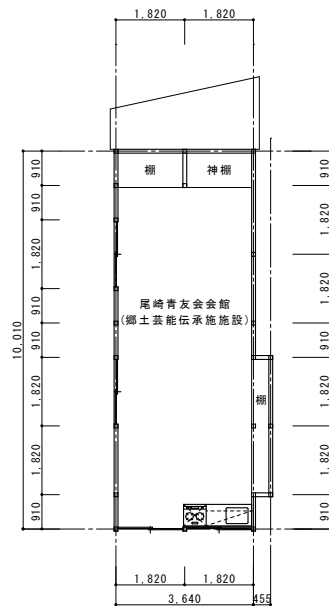
街きょ断面図

年 度	工事名称	設計者	管理建築士	統括	製 図	1級建築士	第374554号	多田 和広	印	製 作 日	区 分	図 面 内 容	縮 尺	図面番号
1	尾崎町郷土芸能伝承施設改築工事	株式会社 カクタ設計 松手県通野市松崎町白旗字地蔵23-1 カクタ設計釜石営業所 釜石市大渡町1丁目1-1 中央ビル2F	1級建築士 登録第168469号 佐野 文男	多田 和広 多田 和広	多田 和広	1級建築士	第374554号	多田 和広	印	令和2年 3月	意 匠 工事種別 新 築	外構図	A2:1/50 (A3印刷71%縮小)	A-23

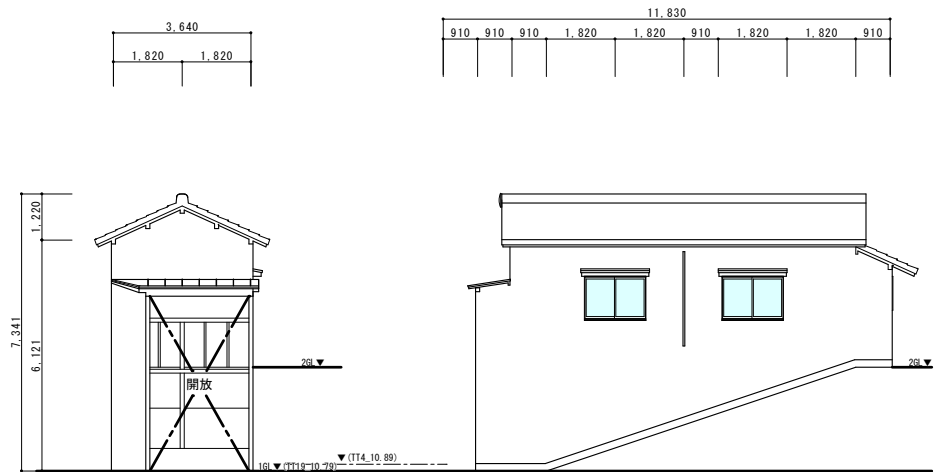


1 階

既存各階平面図 S=1/100




2 階

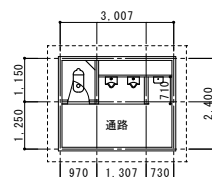


北側

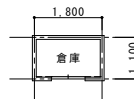
東側

既存立面図 S=1/100

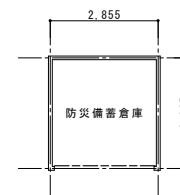
年 度	工事名称		管理建築士	統括	製	1級建築士	製作日	区 分	図面内容	縮 尺	図面番号
1	尾崎町郷土芸能伝承施設改築工事		株式会社 カクタ設計 岩手県遠野市松崎町白根字地蔵23-1 カクタ設計釜石営業所 釜石市大渡町1丁目1-1 中央ビル2F	1級建築士 登録第168469号 佐野 文男	多田 和広 多田 和広	1級建築士 第374554号 多田 和広 印	令和2年 3月	意 匠 工事種別 新 築	解体建物平面図・立面図	A2:1/100 (A3印刷71%縮小)	A-24



既存公衆便所平面図 S=1/100




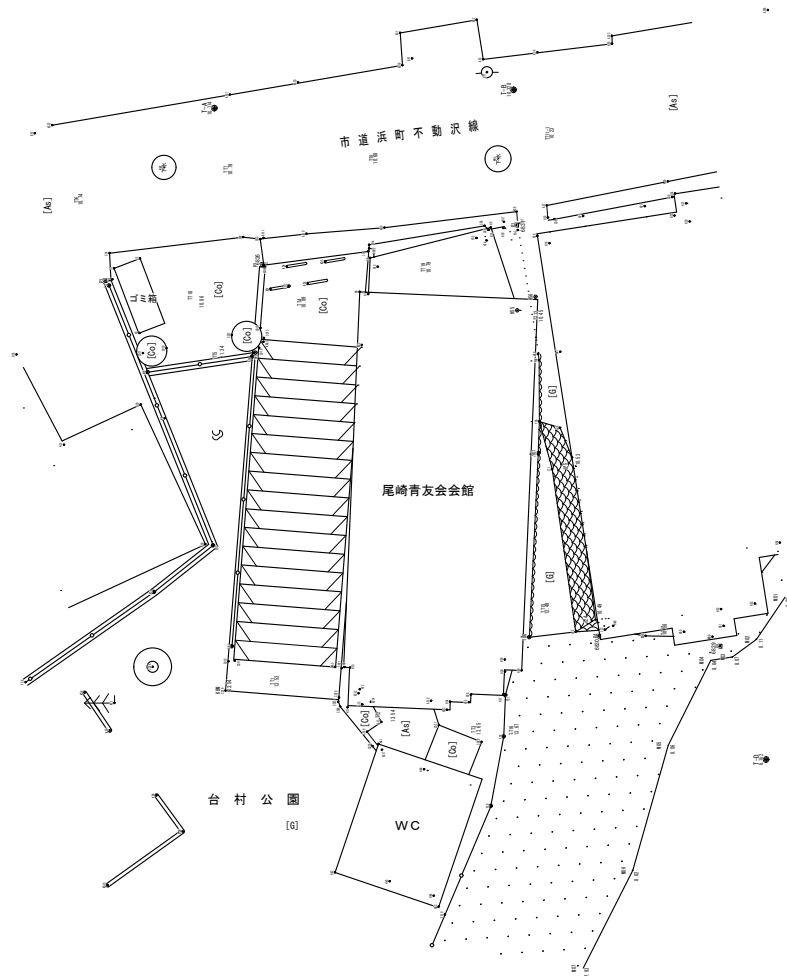
既存7' x 7'倉庫平面図 S=1/100



既存防災備蓄倉庫平面図 S=1/100

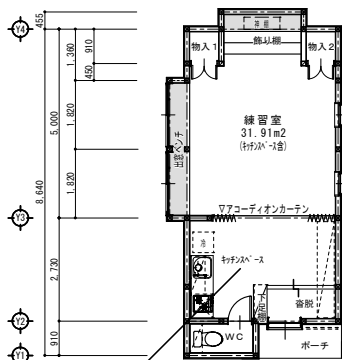
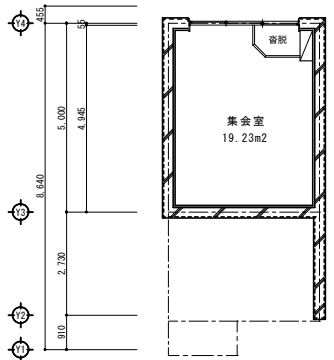
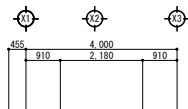
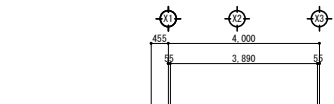
延床面積				
	計算式			
既存公衆便所	2.400	*	3.007	= 7.2168
既存プレハブ倉庫	1.100	*	1.800	= 1.9800
既存防災備蓄倉庫	2.925	*	2.855	= 8.3509
計 (㎡)	17.55			

年 度	工事名称		一級建築士事務所 第277号 株式会社 カクタ設計 岩手県遠野市松崎町白根字地森23-1 カクタ設計釜石営業所 釜石市大渡町1丁目1-1 中央ビル2F	管理建築士 1 級建築士 登録第168469号 佐野 文男	統括 担当	多田 製 多田 園	1級建築士 第374554号 多田 和広 印	製作日	区 分	図 面 内 容	縮 尺	図面番号
1	尾崎町郷土芸能伝承施設改築工事							令和2年 3月	意 匠 工事種別 新 築	公園内既存建物平面図 (敷地外)	A2:1/100 (A3印刷71%縮小)	A-25



【現況】部分平面測量図 1/100

年度	工事名称		管理建築士 1級建築士 登録第168469号 佐野 文男	統括 多田 多田 担当 多田 多田	製 園	1級建築士 第374554号 多田 和広 印	製作日 令和2年 3月	区 分 意 匠 工事種別 新 築	図 面 内 容 【現況】部分平面測量図	縮 尺 A2:1/100 (A3印刷71%縮小)	図面番号 A-26
1	尾崎町郷土芸能伝承施設改築工事		一級建築士事務所 第277号 株式会社 カクタ設計 岩手県滝野市松崎町白根平地轟23-1 カクタ設計金石営業所 盛石市大瀬町1丁目1-1 中央ビル2F								



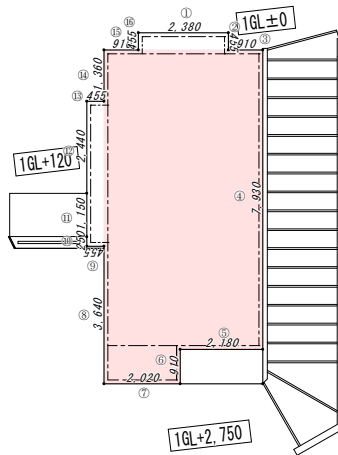
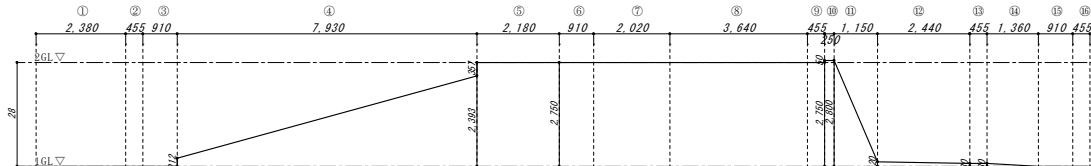
キッチンベース・練習室  
※火気使用室の内装  
壁 : PB12.5+Vクロス (準不燃 QM0803)  
天井 : PB9.5+Vクロス (準不燃 QM-0803)

室面積とみなす範囲を示す

B1階平面図 S=1/100

1階平面図 S=1/100

B1 集会室		床面積						19.23㎡	
		必要面積		計画面積				判定	
採光	1/ 20	0.96	SD101 SD101	0.80 x 1.10 x 1.00 1.40 x 1.20 x 1.00	= 0.88 = 1.68			2.56 >	0.96 OK
換気	1/ 20	0.96	SD101	1.00 x 2.10 x 1.00	= 2.10 = 0.00			2.10 >	0.96 OK
排煙	1/ 50	0.38	SD101	1.00 x 0.48 x 1.00	= 0.48 = 0.00			0.48 >	0.38 OK
F1 練習室		床面積						31.91㎡	
		必要面積		計画面積				判定	
採光	1/ 20	1.6	AW201 AW202 AW203 AW204	1.40 x 1.30 x 2.00 0.40 x 0.30 x 2.00 0.06 x 0.90 x 2.00 0.16 x 0.10 x 1.00	= 3.64 = 0.24 = 0.10 = 0.01			3.99 >	1.6 OK
換気	1/ 20	1.6	AW201 AW202 AW203 AW204	0.75 x 1.50 x 2.00 0.60 x 0.50 x 2.00 0.16 x 1.10 x 2.00 0.26 x 0.23 x 1.00	= 2.25 = 0.60 = 0.35 = 0.05			3.25 >	1.6 OK
排煙	1/ 50	0.64	AW201 AW202 AW203	0.75 x 0.20 x 2.00 0.60 x 0.25 x 2.00 0.16 x 0.36 x 2.00	= 0.30 = 0.30 = 0.11			0.71 >	0.64 OK



No.	L	H	A
①	2,380	0	0
②	455	0	0
③	910	0	0
④	7,930	(212+2393) /2	10,328.825
⑤	2,180	2,750	5,995,000
⑥	910	2,750	2,502,500
⑦	2,020	2,750	5,555,000
⑧	3,640	2,750	10,010,000
⑨	455	2,750	1,251,250
⑩	250	2,800	700,000
⑪	1,150	(2800+120) /2	1,679,000
⑫	2,440	(120+80) /2	244,000
⑬	455	80	36,400
⑭	1,360	80	54,400
⑮	910	0	0
⑯	455	0	0
TOTAL	27,900		38,356,375

平均地盤面の算定 : 38,356,375 / 27,900 = 1,374.78  
平均地盤面は 1GL+ 1,375  
地階の判定 : 1FCH 2410/3 = 803 ≤ 1,375  
∴ 最下階を地階とする

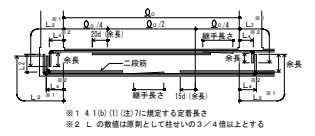
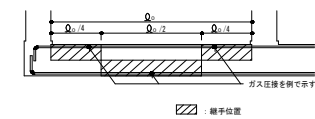
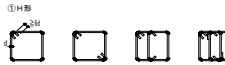


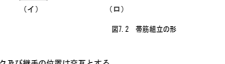
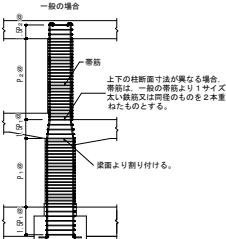
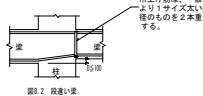
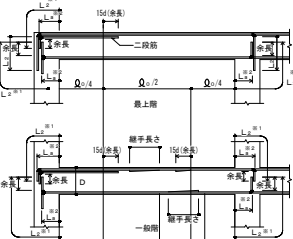
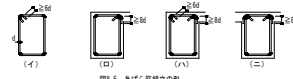




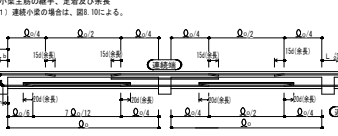
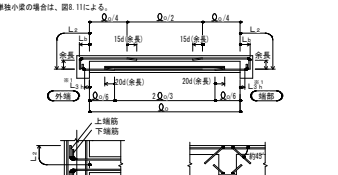
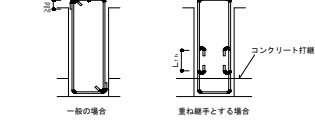
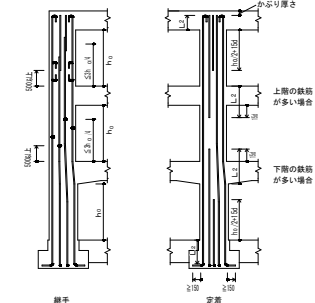
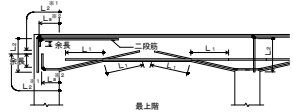

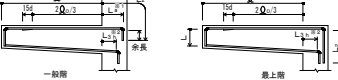
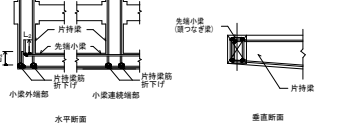
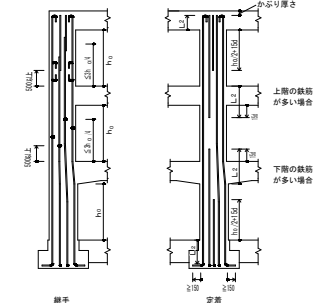

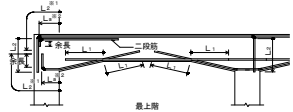

年 度	工事名称	一級建築士事務所 第277号	管理建築士	統括	多田	製	1級建築士 第374554号	多田 和広	印	製 作 日	区 分	図 面 内 容	縮 尺	図面番号
1	尾崎町郷土芸能伝承施設改築工事	株式会社 カクタ設計 尾崎町郷土芸能伝承施設改築工事 カクタ設計釜石営業所 釜石市大湊町1丁目1-1 中興ビル2F	1級建築士 登録第168469号 佐野 文男	統括 担当	多田	製 図				令和2年 3月	意 匠 工事種別 新 築	法規チェックNo.1 (開口部・地盤面等)	A2:1/100 (A3印刷71%縮小)	A-27







構造関係共通図（配筋標準図）												
1.1 総則												
1.1 適用範囲 (1)構造関係共通図(配筋標準図、特記事項)は鉄筋コンクリート及び鉄骨鉄筋コンクリート造等における鉄筋の加工、組立等の一般的な標準図とする。 (2)構造関係共通図(配筋標準図、特記事項)以外については、図案及び監督職員の指示による。												
1.2 適用範囲 (1)設計図書にて配筋方法等に相違がある場合の優先順位は以下の通りとする。 1. 特記仕様書 2. 図案 3. 構造関係共通図(配筋標準図、特記事項) 3. 国土交通省大臣官庁官庁管理官庁監督「公共建築工事標準仕様書(建築工事編)(平成25年版)」 (2)適用範囲は、建築構造のうち特記仕様書、構造関係共通図以外の図案をいう。 (3)異形鉄筋の種(本文、図、表において「d」で示す)は、呼び名に用いた数値とする。 (4)長さ、厚さ等の単位は、特記なき限りmmとする。												
1.4 図号 図案で使用する記号等は1～表1を標準とする。												
表1.1 異形鉄筋の断面表示記号												
断面形状	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32				
建築	●	×	○	●	○	●	○	●				
表1.2 各形状図における記号												
記号	説明	記号	説明									
○	スラブの配筋種別	○	柱の位置									
◇	スラブ厚さ	◇	試験鉄の位置									
○	隅筋の配筋種別	+	打増しの範囲									
○	土間コンクリート	×	スラブ開口									
+	コンクリートブロック壁(CB壁)	○	ボリソング位置									
+	梁・スラブの上がり下がり範囲(±)	+	凡からの上がり下がり									
BCD	耐力壁の種類											
表1.3 変異通し記号												
断面形状	変異	変異	変異	変異	変異	変異	変異	変異	変異	変異	変異	
建築	○	×	○	×	○	×	○	×	○	×	○	
2.1 鉄筋の加工												
鉄筋の折曲げ内法直径は、表2.1を標準とする。												
表2.1 鉄筋の折曲げ内法直径												
折曲げ角度	折曲げ半径(単位)			折曲げ内法直径(D)								
	SD295A SD295B、SD345	SD390										
180°	○	4d以上	○	D16以下	D19 ～D38	D19 ～D38						
							135°	○	6d以上	3d以上	4d以上	5d以上
135° 及び 90° (補正め筋)	○	4d以上	4d以上	5d以上	5d以上	5d以上						
							135° 及び 90° (補正め筋)	○	4d以上	4d以上	5d以上	5d以上
135° 及び 90° (補正め筋)	○	4d以上	4d以上	5d以上	5d以上	5d以上						
							135° 及び 90° (補正め筋)	○	4d以上	4d以上	5d以上	5d以上
135° 及び 90° (補正め筋)	○	4d以上	4d以上	5d以上	5d以上	5d以上						
							135° 及び 90° (補正め筋)	○	4d以上	4d以上	5d以上	5d以上
135° 及び 90° (補正め筋)	○	4d以上	4d以上	5d以上	5d以上	5d以上						
							135° 及び 90° (補正め筋)	○	4d以上	4d以上	5d以上	5d以上
135° 及び 90° (補正め筋)	○	4d以上	4d以上	5d以上	5d以上	5d以上						
							135° 及び 90° (補正め筋)	○	4d以上	4d以上	5d以上	5d以上
135° 及び 90° (補正め筋)	○	4d以上	4d以上	5d以上	5d以上	5d以上						
							135° 及び 90° (補正め筋)	○	4d以上	4d以上	5d以上	5d以上
135° 及び 90° (補正め筋)	○	4d以上	4d以上	5d以上	5d以上	5d以上						
							135° 及び 90° (補正め筋)	○	4d以上	4d以上	5d以上	5d以上
135° 及び 90° (補正め筋)	○	4d以上	4d以上	5d以上	5d以上	5d以上						
							135° 及び 90° (補正め筋)	○	4d以上	4d以上	5d以上	5d以上
135° 及び 90° (補正め筋)	○	4d以上	4d以上	5d以上	5d以上	5d以上						
							135° 及び 90° (補正め筋)	○	4d以上	4d以上	5d以上	5d以上
135° 及び 90° (補正め筋)	○	4d以上	4d以上	5d以上	5d以上	5d以上						
							135° 及び 90° (補正め筋)	○	4d以上	4d以上	5d以上	5d以上
135° 及び 90° (補正め筋)	○	4d以上	4d以上	5d以上	5d以上	5d以上						
							135° 及び 90° (補正め筋)	○	4d以上	4d以上	5d以上	5d以上
135° 及び 90° (補正め筋)	○	4d以上	4d以上	5d以上	5d以上	5d以上						
							135° 及び 90° (補正め筋)	○	4d以上	4d以上	5d以上	5d以上
135° 及び 90° (補正め筋)	○	4d以上	4d以上	5d以上	5d以上	5d以上						
							135° 及び 90° (補正め筋)	○	4d以上	4d以上	5d以上	5d以上
135° 及び 90° (補正め筋)	○	4d以上	4d以上	5d以上	5d以上	5d以上						
							135° 及び 90° (補正め筋)	○	4d以上	4d以上	5d以上	5d以上
135° 及び 90° (補正め筋)	○	4d以上	4d以上	5d以上	5d以上	5d以上						
							135° 及び 90° (補正め筋)	○	4d以上	4d以上	5d以上	5d以上
135° 及び 90° (補正め筋)	○	4d以上	4d以上	5d以上	5d以上	5d以上						
							135° 及び 90° (補正め筋)	○	4d以上	4d以上	5d以上	5d以上
135° 及び 90° (補正め筋)	○	4d以上	4d以上	5d以上	5d以上	5d以上						
							135° 及び 90° (補正め筋)	○	4d以上	4d以上	5d以上	5d以上
135° 及び 90° (補正め筋)	○	4d以上	4d以上	5d以上	5d以上	5d以上						
							135° 及び 90° (補正め筋)	○	4d以上	4d以上	5d以上	5d以上
135° 及び 90° (補正め筋)	○	4d以上	4d以上	5d以上	5d以上	5d以上						
							135° 及び 90° (補正め筋)	○	4d以上	4d以上	5d以上	5d以上
135° 及び 90° (補正め筋)	○	4d以上	4d以上	5d以上	5d以上	5d以上						
							135° 及び 90° (補正め筋)	○	4d以上	4d以上	5d以上	5d以上
135° 及び 90° (補正め筋)	○	4d以上	4d以上	5d以上	5d以上	5d以上						
							135° 及び 90° (補正め筋)	○	4d以上	4d以上	5d以上	5d以上
135° 及び 90° (補正め筋)	○	4d以上	4d以上	5d以上	5d以上	5d以上						
							135° 及び 90° (補正め筋)	○	4d以上	4d以上	5d以上	5d以上
135° 及び 90° (補正め筋)	○	4d以上	4d以上	5d以上	5d以上	5d以上						
							135° 及び 90° (補正め筋)	○	4d以上	4d以上	5d以上	5d以上
135° 及び 90° (補正め筋)	○	4d以上	4d以上	5d以上	5d以上	5d以上						
							135° 及び 90° (補正め筋)	○	4d以上	4d以上	5d以上	5d以上
135° 及び 90° (補正め筋)	○	4d以上	4d以上	5d以上	5							

<p>(d) 連続基礎及びべた基礎の場合の主筋の継手、定着及び余長は、図6.4による。</p>  <p>※1 4.1.0a) (1) (2)に規定する定着長さ ※2 Lの数値は原則として柱せいの3/4倍以上とする</p> <p>(注) 1. 図示のない事項は、8.1による。 2. 〓印は、継手及び余長を示す。 3. 破線は、柱内定着の場合を示す。 4. 梁主筋のみ込み長さ（柱せいの3/4倍以上）</p>  <p>図6.4 主筋の継手、定着及び余長（その3）</p>	<h3>7.2 帯筋</h3> <p>(a) 帯筋の種類及び間隔は、構造図による。</p> <p>(b) 帯筋組立の形は図7.2により、適用は構造図による。</p> <p>(1) H形の135°曲げのフックが図解の場合、W-1形とする。</p> <p>(2) 溶接する場合の溶接長さは、両面フラップ溶接の場合はd以上、片面フラップ溶接の場合は1.9d以上とする。</p> <p>(3) S形において、柱壁及び柱脚の部材は1.5倍以上の高き行う。</p> <p>①H形</p>  <p>②W-1形</p>  <p>注) 溶接は、鉄筋の組立前に行う。</p> <p>③S形</p>  <p>④内形</p>  <p>図7.2 帯筋組立の形</p> <p>(c) フック及び継手の位置は交互とする。</p> <p>(d) 帯筋の割付けは図7.3とし、それ以外の場合は構造図による。</p>  <p>図7.3 帯筋の割付け</p> <p>(注) 1. 図示のない事項については、一般の場合に同じ。 2. 柱に取り付く際に段差がある場合、帯筋の間隔を1SP ※または1.5P ※とする範囲は、その柱に取り付くすべての段を考慮して適用する。 なお、P ※、P ※は、特記された帯筋の間隔を示す。</p>	<p>(e) 段違いは、図8.2による。</p>  <p>図8.2 段違い</p> <p>(f) ハンチのない場合の重ね継手、定着及び余長は、図8.3による。</p>  <p>図8.3 大梁の重ね継手、定着及び余長</p> <p>(注) 1. 図示のない事項については、一般の場合に同じ。 2. 柱に取り付く際に段差がある場合、帯筋の間隔を1SP ※または1.5P ※とする範囲は、その柱に取り付くすべての段を考慮して適用する。 なお、P ※、P ※は、特記された帯筋の間隔を示す。</p>	<h3>8.2 あばら筋等</h3> <p>(a) あばら筋、腹筋及び幅止め筋の一般事項</p> <p>(1) あばら筋の種類、径及び間隔は、構造図による。</p> <p>(2) 腹筋に継手をつける場合の継手長さは、150mm程度とし、定着長さは図8.6による。 ただし、腹筋を計算上考慮している場合の継手長さは、定着長さは構造図による。</p> <p>(3) 幅止め筋及び受け用幅止め筋は、D10・D9程度とする。</p> <p>(b) あばら筋組立の形及びフックの位置</p> <p>(1) 標準形は、図8.5 (イ)とする。 ただし、L形の場合は、(ロ) または (ハ)・V形の場合は (ロ) ～ (ニ) とすることができる。</p> <p>(2) フックの位置</p> <p>イ. (イ) の場合は交互とする。 ロ. (ロ) の場合 L形ではスラップの付く側、V形では交互とする。 ハ. (ハ) の場合は反折の付く側を90°折曲げとする。</p>  <p>図8.5 あばら筋組立の形</p> <p>(c) あばら筋の割付け</p> <p>(1) 間隔が一定でハンチのない場合は、図8.6による。</p>  <p>図8.6 あばら筋の割付け（その1）</p> <p>(注) 1. あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。 2. 図中のP ※は、特記されたあばら筋の間隔を示す。</p> <p>(2) 間隔が一定でハンチのある場合は、図8.7による。</p>  <p>図8.7 あばら筋の割付け（その2）</p> <p>(注) 1. あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。 2. 図中のP ※は、特記されたあばら筋の間隔を示す。</p> <p>(3) 梁の端部で間隔の異なる場合は、図8.8による。</p>  <p>図8.8 あばら筋の割付け（その3）</p> <p>(d) 腹筋及び幅止め筋</p> <p>(1) 一般の量は、図8.9による。</p>  <p>図8.9 腹筋および幅止め筋</p>	<h3>8.3 小梁</h3> <p>(a) 小梁主筋の継手、定着及び余長</p> <p>(1) 連続小梁の場合は、図8.10による。</p>  <p>図8.10 小梁主筋の継手、定着及び余長（その1）</p> <p>(b) 単独小梁の場合は、図8.11による。</p>  <p>図8.11 小梁主筋の継手、定着及び余長（その2）</p> <p>(c) あばら筋は、8.2による。</p>
<h3>6.2 基礎梁のあばら筋等</h3> <p>(a) 一般事項</p> <p>(1) あばら筋の径および間隔は、構造図による。</p> <p>(2) あばら筋組立の形及びフックの位置は、8.2(b)による。 ただし、梁の上下面にスラップが付く場合、かつ、梁せいの1.5m以上の場合は、図8.5によることができる。</p>  <p>図8.5 あばら筋組立の形及びフックの位置</p> <p>(b) 腹筋及び幅止め筋は、8.2(c)による。ただし、梁せいの1.5m以上の場合は構造図による。</p> <p>(c) あばら筋の割付けは、8.2(d)による。</p>	<h3>7.1 柱</h3> <p>(a) 一般事項</p> <p>(1) 継手中心位置は、梁上端から500mm以上、かつ、3h/4 (hは柱の内法高さ) 以下とする。</p> <p>(2) 継手、定着及び余長は、図7.1による。 ただし、柱間定着長さLが確保できない場合は、構造図による。</p>  <p>図7.1 柱主筋の継手、定着及び余長</p> <p>(注) 1. 柱の両端にある主筋で、重ね継手の場合及び最上層の柱筋にある場合には、フックを付ける。 2. 隣り合う継手の位置は、表4.2「隣り合う継手の位置」による。 3. 継手及び定着は、すべての隅に適用できる。</p>	<p>(d) ハンチのある場合の定着及び余長は、図8.4(c)による。</p>  <p>図8.4 ハンチのある大梁の定着及び余長</p>	<p>(d) 腹筋及び幅止め筋</p> <p>(1) 一般の量は、図8.9による。</p>  <p>図8.9 腹筋および幅止め筋</p>	<h3>8.4 片持梁</h3> <p>(a) 片持梁主筋の定着及び余長</p> <p>(1) 先端に小梁のない場合は、図8.12による。</p>  <p>図8.12 片持梁主筋の定着及び余長</p> <p>(2) 先端に小梁がある場合は、図7.13による。</p>  <p>図7.13 片持梁主筋の定着</p> <p>(注) 1. 図示のない場合は、(1)による。 2. 先端小梁接続部の主筋は、片持梁内に水平定着する。 3. 先端小梁の接続部は、片持梁の先端を通す渡し筋としてよい。</p>
<h3>6.1 柱</h3> <p>(a) 一般事項</p> <p>(1) 継手中心位置は、梁上端から500mm以上、かつ、3h/4 (hは柱の内法高さ) 以下とする。</p> <p>(2) 継手、定着及び余長は、図7.1による。 ただし、柱間定着長さLが確保できない場合は、構造図による。</p>  <p>図7.1 柱主筋の継手、定着及び余長</p> <p>(注) 1. 柱の両端にある主筋で、重ね継手の場合及び最上層の柱筋にある場合には、フックを付ける。 2. 隣り合う継手の位置は、表4.2「隣り合う継手の位置」による。 3. 継手及び定着は、すべての隅に適用できる。</p>	<h3>8.1 大梁</h3> <p>(a) 一般事項</p> <p>(1) 梁の上より下がりは、凡を基準とした寸法値とする。</p> <p>(2) 地中梁下の砂利地層厚及び捨てコンクリート地層厚は構造図による。</p> <p>(b) 大梁主筋の継手及び定着の一般事項</p> <p>(1) 継手中心位置は、次のよう。</p> <p>上端筋：中央、<math>Q_0/10</math>以内</p> <p>下端筋：柱面より梁せいの(D)以上とし、<math>Q_0/4</math>を加えた範囲以内</p> <p>(2) 継手中央部の位置、定着長さ及び余長は図8.3及び図8.4による。</p> <p>(3) 梁筋は、連続梁で柱に接する箇所の間隔の異なる場合はすべて引き通すものとし、鉄筋の本数が異なる場合には、図8.1のように反対側の梁に定着する。外端部や隅部では、折り曲げて定着する。</p>  <p>図8.1 大梁の梁内定着</p> <p>(注) 1. 図示のない事項については、一般の場合に同じ。 2. 柱に取り付く際に段差がある場合、帯筋の間隔を1SP ※または1.5P ※とする範囲は、その柱に取り付くすべての段を考慮して適用する。 なお、P ※、P ※は、特記された帯筋の間隔を示す。</p>	<p>(d) ハンチのある場合の定着及び余長は、図8.4(c)による。</p>  <p>図8.4 ハンチのある大梁の定着及び余長</p>	<p>(d) 腹筋及び幅止め筋</p> <p>(1) 一般の量は、図8.9による。</p>  <p>図8.9 腹筋および幅止め筋</p>	<p>(b) あばら筋は、8.2による。</p>

年 度	工事名称	一級建築士事務所 第277号 株式会社 カクタ設計 ※事務所所在地 尾崎町白崎千代森23-1 カクタ設計金石営業所 ※事務所所在地 1丁目1-1 中央ビルB	管理建築士 1級建築士 登録第168469号 佐野 文男	統括 多田 担当 多田 図	1級建築士 第374554号 多田 和広 印	製 作 日 令和2年 3月	区 分 構 造 工 事 種 別 新 築	図 面 内 容	縮 尺	図面番号
1	尾崎町郷土芸能伝承施設改築工事							鉄筋コンクリート構造 配筋標準図2	NS	RS-03

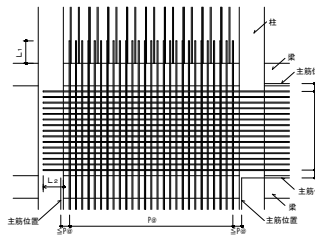
9.1 壁

(a) 一般事項

(1) 壁配筋の重ね継手及び定着の長さは、重ね継手長さを $L_1$ 、定着長さを $L_2$ とする。

(2) 断面筋は、縦筋とD10/1,000を規定とする。

(3) EHO、EMOの配筋はWFO、MOOに同じで、かぶり厚さ、定着長さ及び継手長さは、4.1.5による。



(注) 図中のPは、特記された鉄筋の間隔を示す。

図9-1 壁の配筋

(b) 壁の基準配筋は表9-1により、種別は構造図による。

表9-1 壁の基準配筋

種別	縦筋及び横筋	断面図 (mm)
W12	D10-200@シングル	120
W15A	D10-150@シングル	150
W15B	D10-100@シングル	150
W18A	D10-200@ダブル	180
W18B	D10-150@ダブル	180
W20A	D10-200@ダブル	200
W20B	D10-150@ダブル	200

(注) 壁筋の配筋順序は、規定しない。

(c) 片持スラブ形階段を受ける壁の基準配筋は表9-2により、種別は構造図による。

表9-2 片持スラブ形階段を受ける壁の基準配筋

種別	縦筋及び横筋	断面図 (mm)	階段の配筋 種別(表11.1)
W1	縦筋 D10-200@ダブル 横筋 D10-200@ダブル	180	KA1 KA3
W2	縦筋 D10-150@ダブル 横筋 D10-200@ダブル	200	KA2 KA4

(注) 縦筋は、横筋の外側に配筋する。

(d) 壁の交差部及び端部の配筋は、図9-2による。

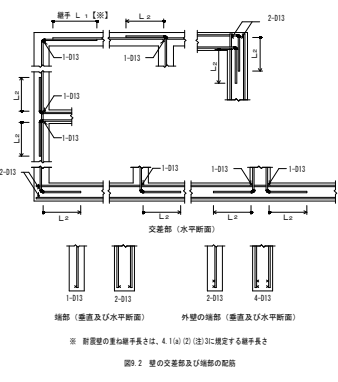


図9-2 壁の交差部及び端部の配筋

9.2 壁の補強

(a) 壁開口部の補強

(1) 開口部を無くす開口部の補強筋は、A形は表9-3、B形は表9-4とし、適用は13.3.0(1)による。なお、断面壁の補強筋は、構造図による。

表9-3 壁開口部補強筋 (A形)

壁の種類	縦筋	横筋
W12、W15	1-D13	1-D13
W18、W20	2-D13	2-D13

表9-4 壁開口部補強筋 (B形)

壁の種類	縦筋	横筋	斜め
W12、W15	2-D13	1-D13	1-D13
W18、W20	4-D13	2-D13	2-D13

(2) 壁開口部補強筋の定着長さは、図9-3による。

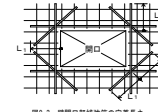


図9-3 壁開口部補強筋の定着長さ

(b) コンセントボックス等を壁に埋め込む場合の補強は、13.3.0(3)による。

10.1 スラブ

(1) スラブ及び土間コンクリートの上がり下がりには、凡を基準とした寸法決まる。

(2) 土間スラブの斜り補強筋及び横筋コンクリート厚さは13.1(1)による。

(3) 土間コンクリート補強筋(30)の配筋及びコンクリート厚さは13.4(a)(1)による。

(4) スラブの基準配筋 (S形基準配筋) は表10-1及び図10-1により、配筋種別及びスラブ厚さは、構造図による。

表10-1 S形基準配筋

配筋種別	短辺方向 (主筋) 全域	長辺方向 (配力筋) 全域
S1	D10-100@	D10-100@
S2	同上	D10-150@
S3	同上	D10-D13-150@
S4	D10-150@	D10-150@
S5	同上	D10-D13-150@
S6	同上	D10-200@
S7	D10-D13-150@	D10-D13-150@

(注) 上横筋、下横筋とも同一配筋とする。

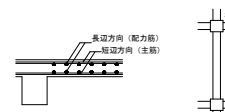


図10-1 スラブの配筋

(5) 配筋の割付けは、中央から行い、端部は定められた間隔以下とする。

(6) 鉄筋の重ね継手長さは、 $L_1$ とする。

(7) 定着長さ及び受け筋は、図10-2による。

ただし、引き通すことができない場合は、図10-3により案内に定着する。

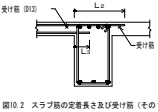


図10-2 スラブ筋の定着長さ及び受け筋 (その1)

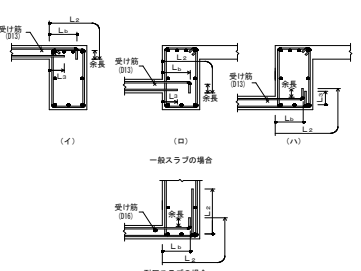


図10-3 スラブ筋の定着長さ及び受け筋 (その2)

10.2 片持スラブ

片持スラブの配筋は、表10-2により、配筋種別及びスラブ厚さは、構造図による。

表10-2 C形基準配筋

配筋種別	主筋
CS1	上 D10-100@ 下 D10-200@
CS2	上 D10-150@ 下 D10-200@
CS3	上 D10-D13-150@ 下 D10-D13-200@
CS4	上 D10-D13-200@ 下 D10-200@

表10-2 C形基準配筋 (続)

配筋種別	主筋
CS5	上 D10-200@ 下 D10-400@
CS6	上 D10-D13-200@ 下 D10-D13-200@
CS7	上 D10-D13-200@ 下 D10-200@

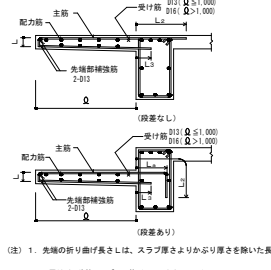


図10-4 片持スラブの配筋 (CS1及びCS5)

(注) 1. 先端の折り曲げ長さは、スラブ厚さよりかぶり厚さを除いた長さとする。

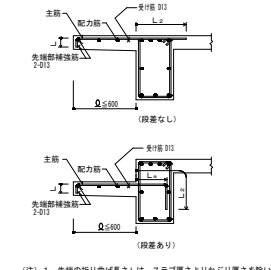


図10-5 片持スラブの配筋 (CS6及びCS7)

(2) 先に壁が付く場合の配筋は、図10-6による。

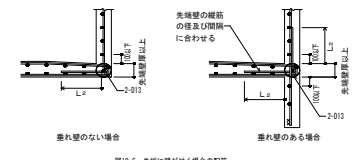


図10-6 先に壁が付く場合の配筋

(3) 出隅部

(i) 補強の配筋は構造図により、配筋方法は、図10-7による。

(ii) 出隅受け部分 (図10-7の斜線部分) の補強筋は構造図による。

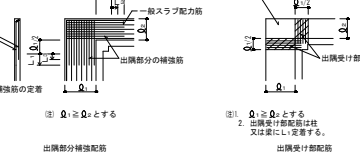


図10-7 片持ちスラブ出隅部の補強配筋

10.3 スラブ等の補強

(a) スラブ開口部の補強

スラブ開口部の補強は、特記による。

(i) スラブ開口の最大径が700mm以下の場合には、図10-8により開口によって切られる鉄筋と同等の鉄筋で両端を補強し、隅角部に斜め方向に2-D13 ( $\phi \geq 2L_1$ ) シングルを上下筋の内側に配筋する。

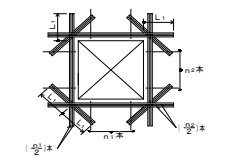


図10-8 スラブ開口部の補強配筋

(ii) スラブ開口の最大径が開口方向の配筋間隔以下で、鉄筋を斜めに曲げることにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。

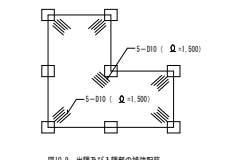


図10-9 出隅及び人馬部の補強配筋

(c) 土間スラブの打継ぎ補強

基礎梁とスラブを一体打ちとしないで、打継ぎを設ける場合の補強は図10-10による。

ただし、土間スラブと、土に接するスラブでS形の配筋によるものをいう。

$a > 300$ の場合は特記による。

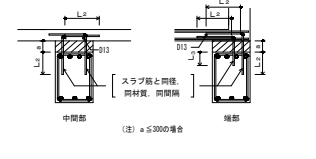


図10-10 打継ぎ補強配筋

(d) 土間コンクリートの補強

土間コンクリートの補強筋は、構造図による。なお、基礎梁との接合部は、図10-11による。

$a > 300$ の場合は特記による。

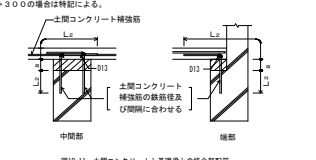


図10-11 土間コンクリートと基礎梁との接合部配筋

11.1 片持スラブ形階段

片持スラブ形階段の基準配筋は、表11-1及び図11-1により、寸法及び配筋種別は、構造図による。

表11-1 片持スラブ形階段の基準配筋

配筋種別	KA1	KA2
配筋図		
配筋種別	KA3	KA4
配筋図		

(注) 1. 壁配筋は、9.1(c)による。

2. 階段主筋は、壁の中心線を越えてから縦に下ろす。

3. スラブ配力筋の継手及び定着の長さは、表4.3 [鉄筋の定着の長さ]の $L_2$ とする。

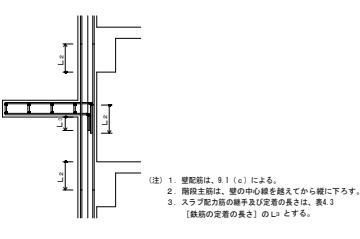


図11-1 片持スラブ形階段配筋の定着

11.2 二辺固定スラブ階段

二辺固定スラブ階段の基準配筋は表11.2並びに図11.2及び図11.3により、寸法及び配筋種別は、構造図による。

表11.2 二辺固定スラブ基準配筋

配筋種別	上縦筋、下縦筋とも（全域）
K01	D13-200φ
K02	D13-150φ
K03	D13-100φ
K04	D13、D14-150φ
K05	D16-150φ
K06	D16-125φ
K07	D16-100φ

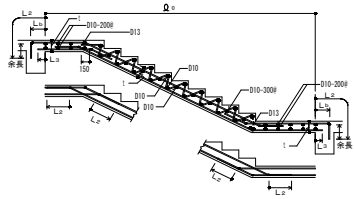
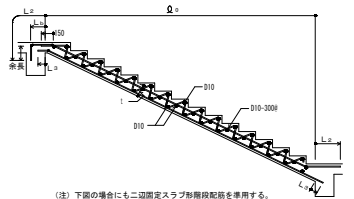


図11.2 二辺固定スラブ階段配筋（その1）



（注）下図の場合にも二辺固定スラブ階段配筋を準用する。

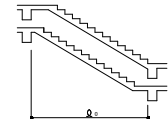


図11.3 二辺固定スラブ階段配筋（その2）

12.1 梁貫通孔

- （a）梁貫通孔は、次による。
- （1）梁貫通孔補強筋の名称等は、図12による。
  - （2）孔の形状は、変せい90°以下とする。
  - （3）孔の上下方向の位置は図12.3による。
  - （4）孔は、柱面から両側として、1.5D（Dは変せい）以上とする。ただし、基礎梁及び壁付梁を除くが、その場合の範囲は特記による。
  - （5）孔が通する場合は中心間隔は、孔の径の平均値の3倍以上とする。
  - （6）縦筋及び上下縦筋は、あばら筋の形に配筋する。
  - （7）補強筋は、主筋の内側とする。また、鉄筋の定着長さは、図12.3による。
  - （8）孔の径が変せいの1/10以下、かつ、10mm未満のものは、鉄筋を斜めに曲げることにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。
  - （9）溶接金網の糸は16mm以上とし、突出しは10mm以上とする。
  - （10）溶接金網の貫通孔部分には、鉄筋12φのリング筋を斜めに取り付ける。なお、リング筋は、溶接金網に4箇所以上溶接する。
  - （11）溶接金網の剛付け端点は、縦筋ではあばら筋の下側とし、縦筋では貫通孔の中心とする。
  - （12）貫通孔の位置は図12.4のように開孔をはさみ±45度の領域（ハッチ部）には他の開孔を設けないこととする。

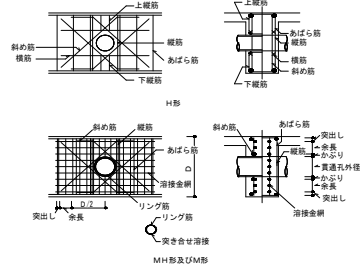
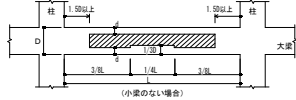
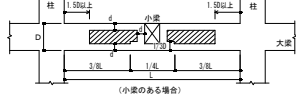


図12.1 梁貫通孔補強筋の名称等



（小梁のない場合）



（小梁のある場合）

梁貫通孔を設置出来る範囲

- （注）1. 梁貫通孔のへりあき寸法dは下記による
- |           |       |
|-----------|-------|
| 500≤d<700 | 4φ175 |
| 700≤d<900 | 4φ200 |
| 900≤d     | 4φ250 |

図12.2 梁貫通孔の設置範囲

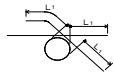


図12.3 補強筋の定着長さ

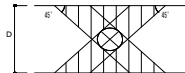


図12.4 他の開孔を設けない範囲

（b）梁貫通孔の補強形式は表12.1～表12.3により、配筋種別は構造図による。

表12.1 H形配筋

配筋種別	斜め筋	縦筋	横筋	上下縦筋	配筋図
H1	2-2-D13	なし	なし	なし	
H2		2-2-D13			
H3	4-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	
H4	4-2-D16				
H5	4-2-D16	2-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	
H6	4-2-D18				
H7	4-2-D22	2-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	
H8	4-2-D22				

（注）——は、一般部分のあばら筋を示す。

表12.2 縦筋配筋

配筋種別	縦筋	溶接金網	配筋図
B1	2-2-D13	なし	
B2	4-2-D13		
B3	4-2-D13	2-4φ-100φ	
B4	6-2-D13		

（注）——は、一般部分のあばら筋を示す。

表12.3 斜筋配筋

配筋種別	斜め筋	縦筋	溶接金網	配筋図
MH1	2-2-D13	2-2-D13	なし	
MH2				
MH3	2-2-D13	2-2-D13	2-4φ-100φ	
MH4	4-2-D13			
MH5	4-2-D16	4-2-D13	2-4φ-100φ	
MH6	4-2-D16			
MH7	4-2-D18	4-2-D13	2-4φ-100φ	
MH8	4-2-D18			

（注）——は、一般部分のあばら筋を示す。

12.2 コンクリートブロック横壁との取合い

- （a）取壁は、次による。
- （1）取壁の配筋は、構造図による。
  - （2）配筋は、図12.5による。

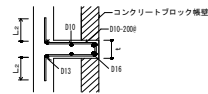


図12.5 取壁の配筋（水平、垂直とも）

（b）横壁が土間コンクリート上に設置される場合の補強は、図12.6による。

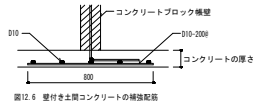


図12.6 壁付き土間コンクリートの補強配筋

12.3 バラベット

バラベットの先補強筋は、図12.7による。尚、コンクリート厚さ及びバラベット配筋は構造図による。

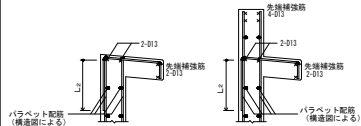
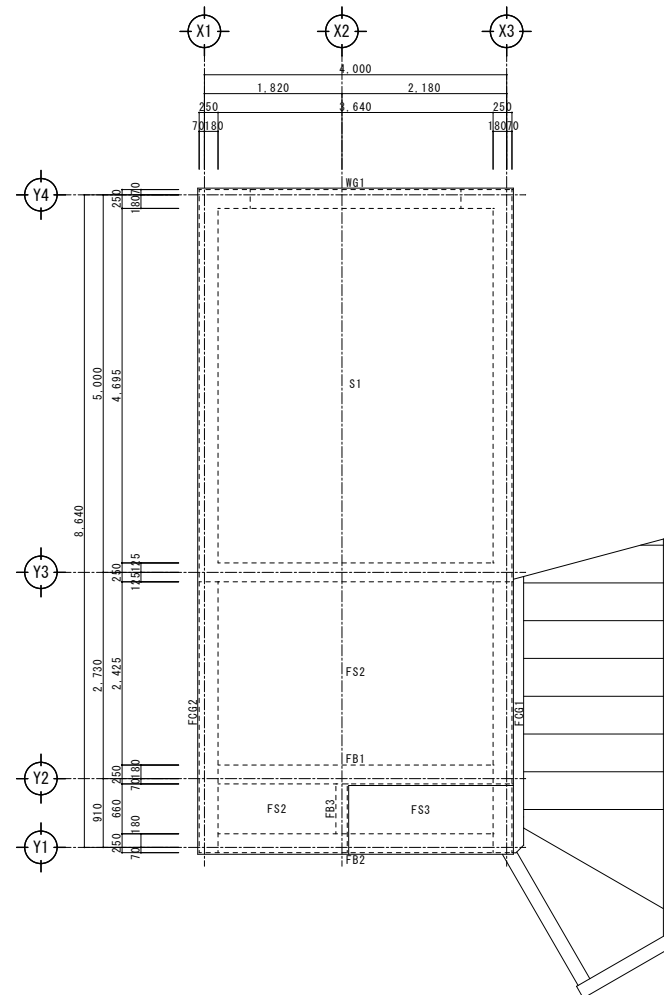
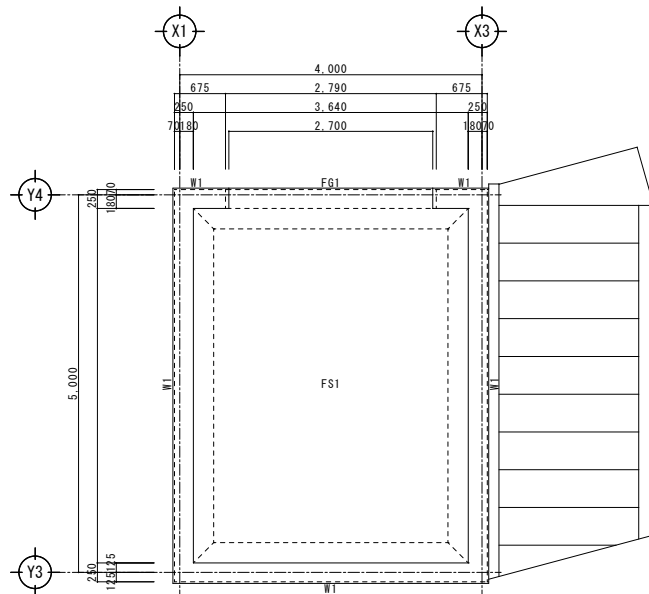



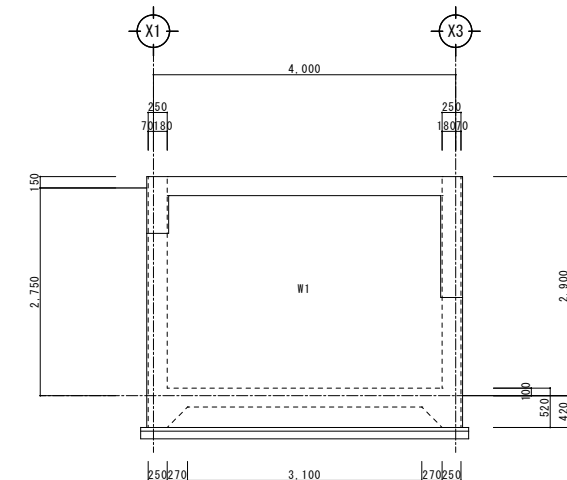
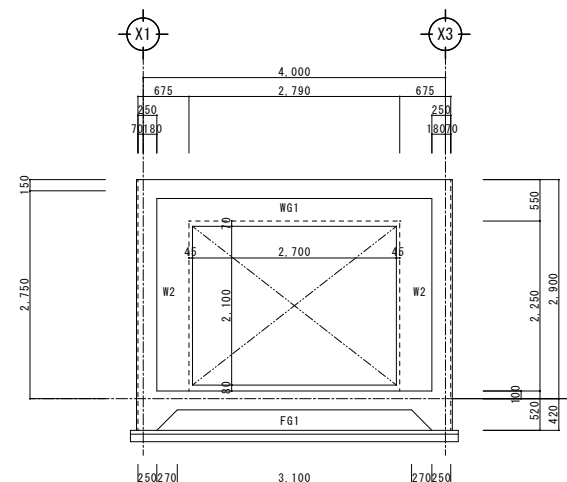
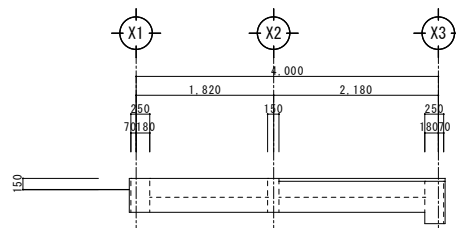
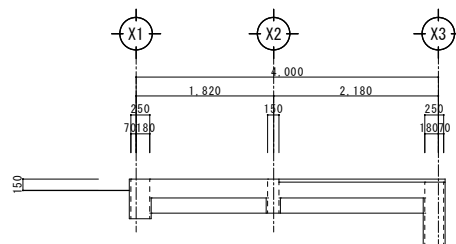
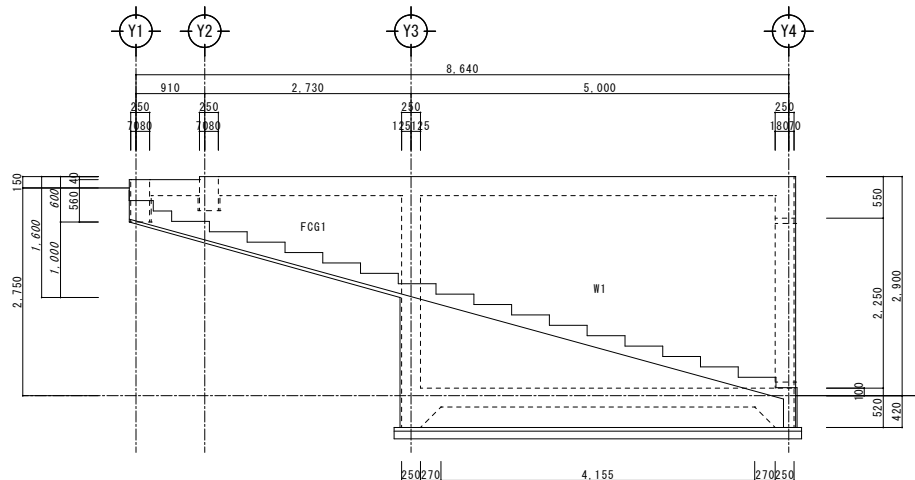
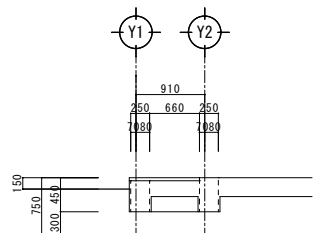
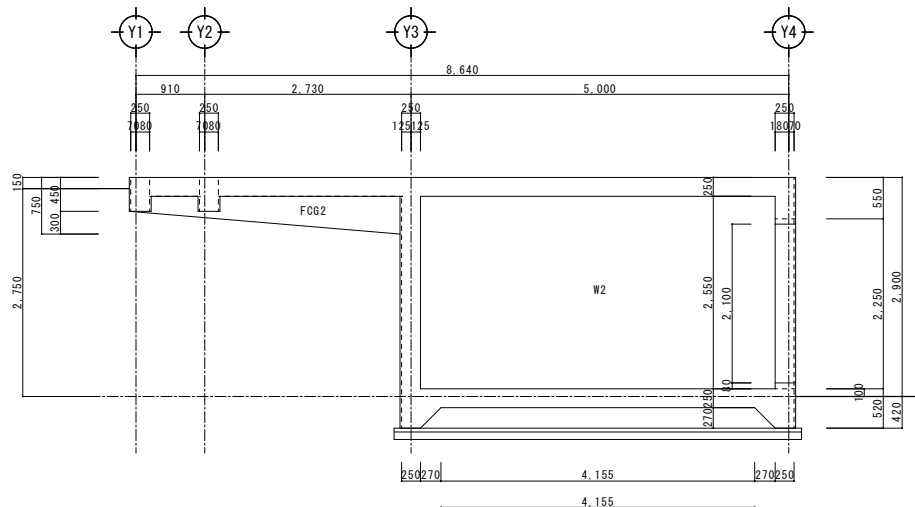
図12.7 バラベットの配筋


年度	工事名称	一般建築士事務所 第277号 株式会社 カクタ設計 岩手県遠野市松崎町白根字地蔵23-1 カクタ設計金石営業所 岩手県大瀧町1丁目1-1 中央ビル2F	管理建築士 1級建築士 登録第168469号 佐野 文男	統括 多田 多田 担当 多田 多田	製作日 令和2年 3月	区分 構造 工事種別 新 築	図面内容 鉄筋コンクリート構造配筋標準図4	縮尺 NS	図面番号 RS-05
----	------	---	---------------------------------------	----------------------------	----------------	-------------------------	--------------------------	----------	---------------





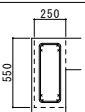
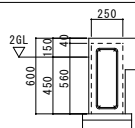
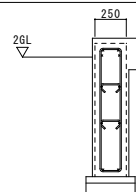
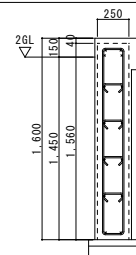
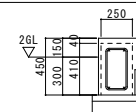
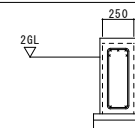
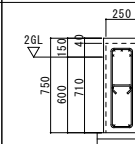
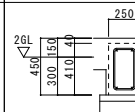
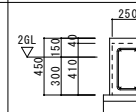
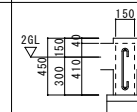
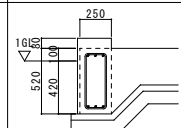
年度	工事名称		管理建築士	統括	多田	装	1級建築士 第374554号	多田 和広	印	製作日	区分	図面内容	縮尺	図面番号
1	尾崎町郷土芸能伝承施設改築工事		株式会社 カクタ設計 岩手県遠野市松崎町白根字地蔵23-1 カクタ設計金石営業所 重石市大瀧町1丁目1-1 中央ビル2F	1級建築士 登録第168469号 佐野 文男	多田	装				令和2年 3月	構造 工事種別 新築	伏図	A2:1/50 (A3印刷71%縮小)	RS-07



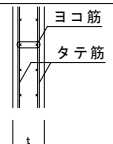
年 度	工事名称		一級建築士事務所 第277号 株式会社 カクタ設計 岩手県遠野市松崎町白岩字地蔵23-1 カクタ設計金石営業所 遠野市大瀧町1丁目1-1 中央ビル2F	管理建築士 1級建築士 登録第168469号 佐野 文男	統括 多田 製 担当 多田 図	1級建築士 第374554号 多田 和広 印	製作日 令和2年 3月	区 分 構 造 工事種別 新 築	図 面 内 容 軸組図	縮 尺 A2:1/50 (A3印刷71%縮小)	図面番号 RS-08
1	尾崎町郷土芸能伝承施設改築工事										



スラブリスト

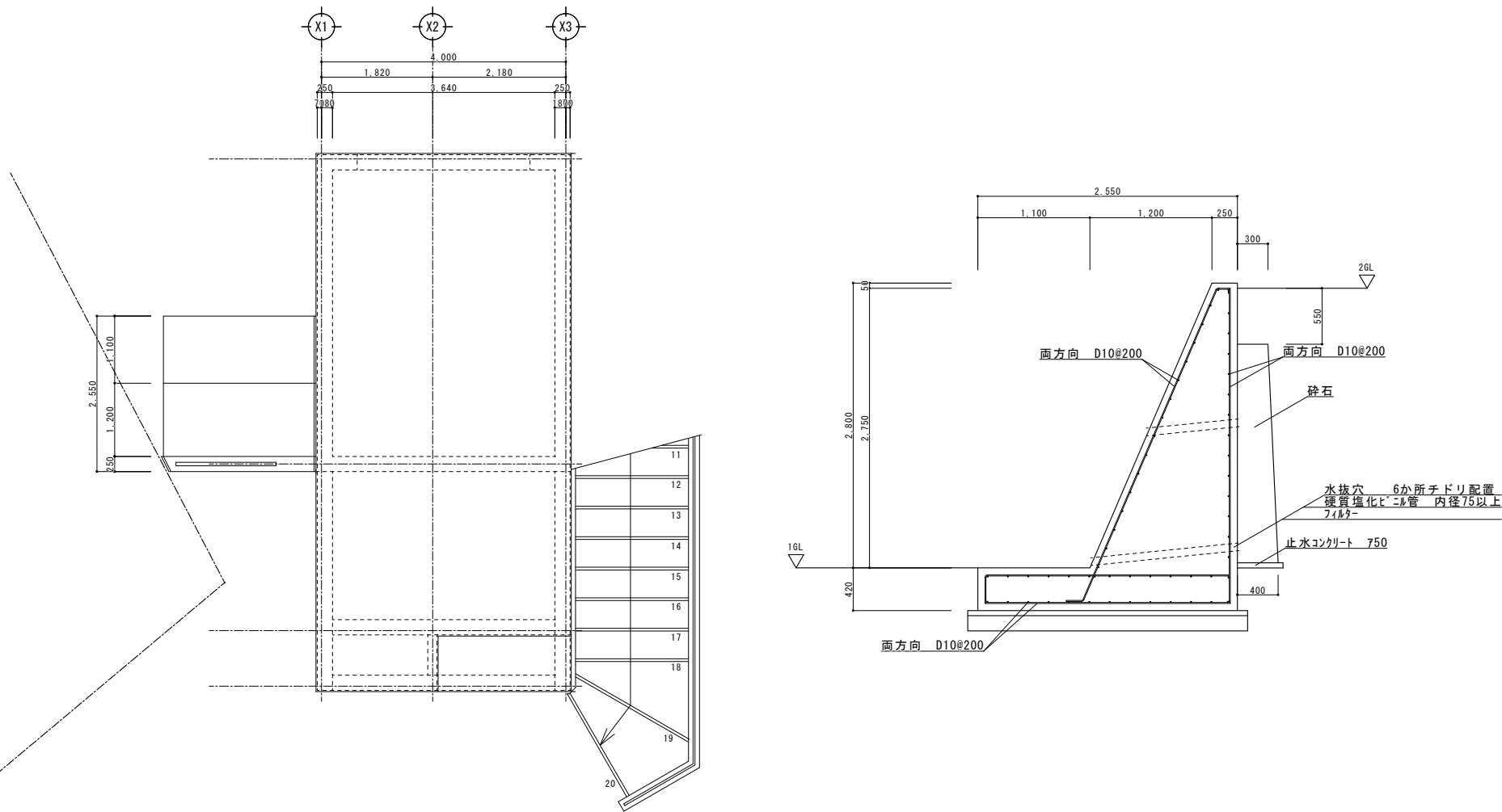
符 号	WG1	FCG1			FCG2			FB1	FB2	FB3
位 置	全断面	Y1端	中央	Y3端	Y1端	中央	Y3端	全断面	全断面	全断面
2階										
上端筋	2+2-D13	2-D13	2+2-D13	2+2-D13	2-D13	3+2-D13	3+2-D13	2-D13	2-D13	1-D13
下端筋	2+2-D13	2-D13	2-D13	2-D13	2-D13	2-D13	2-D13	2-D13	2-D13	1-D13
あばら筋	□-D10-@200	□-D10-@200			□-D10-@200			□-D10-@200	□-D10-@200	D10-@200
腹筋	—	2-D10@300程度			2-D10@300程度			—	—	—
備 考										
符 号	FG1									
位 置	全断面									
1階										
上端筋	3-D16									
下端筋	3-D16									
あばら筋	□-D10-@200									
腹筋	—									
備 考										

壁リスト

	符号	厚さ	位置	タテ筋		ヨコ筋	全断面	端部補強筋	
	W1	250	外側	下端部	D13@100	D13@200	D13 @200	2-D16	
			内側	D13@200	D13 @200				

スラブリスト

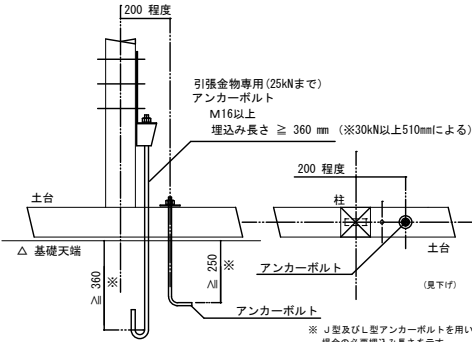
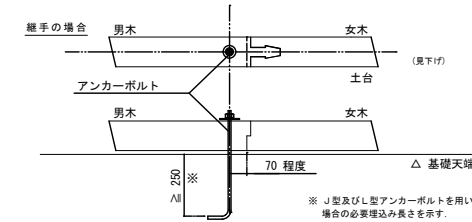
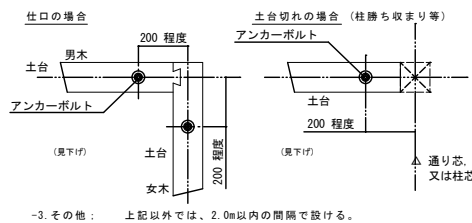
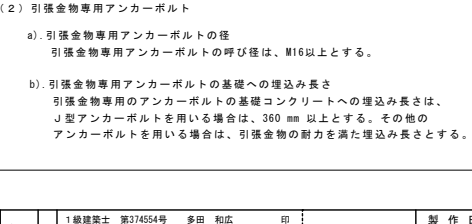
符号	厚さ	位置	短辺方向		長辺方向		
			端部	中央	端部	中央	
S1	250	上端筋	D13@200	←	D10 @200	←	
		下端筋	D13@200	←	D10 @200	←	
FS1	250	上端筋	D13@200	←	D13@200	←	
		下端筋	D13@100	D13@200	D13@100	D13@200	
FS2	250	上端筋	D10 @200	←	D10 @200	←	
		下端筋	D10 @200	←	D10 @200	←	
FS3	210	上端筋	D10 @200	←	D10 @200	←	
		下端筋	D10 @200	←	D10 @200	←	



年度	工事名称		管理建築士 1級建築士 登録第168469号 佐野 文男	統括 多田 担当	製 園	1級建築士 第374554号 多田 和広 印	製作日 令和2年 3月	区分 構造 工事種別 新 築	図面内容 擁壁詳細図	縮 尺 A2:1/30 (A3印刷71%縮小)	図面番号 RS-10
1	尾崎町郷土芸能伝承施設改築工事		一級建築士事務所 第277号 株式会社 カクタ設計 岩手県遠野市松崎町白根字地蔵23-1 カクタ設計金石営業所 富石市大湊町1丁目1-1 中央ビル2F								



# 木 造 軸 組 接 合 部 標 準 図 ( 1 )

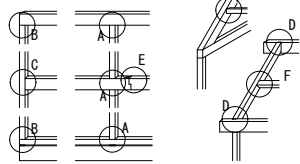
1. 一般事項	2. 材料	3. アンカーボルト	4. 接合一般
<p>( 1 ) 適用範囲</p> <p>※本標準図は建築物及び工作物の構造上主要な部分に木材・木質材料を用いる工事に適用する。</p> <p>本造の構法は、建築基準法施行令第3章3節に規定する木造軸組工法に適用する。</p> <p>( 2 ) 設計図書</p> <p>設計図書とは本標準図、特記仕様書、設計図、指示書（現場説明書及び質疑回答書を含む）をいう。</p> <p>( 3 ) 準拠する図書</p> <p>設計図書に記載なきものは下記の図書に準拠する。（※全て最新版による。）</p> <p>「木造住宅工事仕様書」（住宅金融支援機構監修）  「公共建築木造工事標準仕様書 平成25年版」（国土交通大臣官庁官庁営繕部監修）  「木造計画・設計基準 平成23年版」（国土交通大臣官庁官庁営繕部監修）  「木造軸組工法住宅の許容応力度設計（2008年版）」（日本住宅・木材技術センター）  「日本工業規格 JIS A3301-2015 木造校舎の構造設計標準」（2015年改訂版）</p> <p>上記の仕様書に記載無き場合は、公共規格又はこれに準ずる規格を適用する。</p> <p>( 4 ) 設計図書の優先順位</p> <p>設計図書の優先順位は下記による。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>指示書（現場説明書及び質疑回答書）</li> <li>設計図</li> <li>特記仕様書</li> <li>本標準図</li> </ol> <p>( 5 ) 疑義</p> <p>疑義を生じた場合や工法の提案を行いたい場合には監理者に申し出、その処理方法について協議する。</p> <p>( 6 ) 製作要領書及び施工計画書の作成・提出</p> <p>工事に先立ち、製作要領書や施工計画書を作成し、監理者の承認を受ける。</p> <p>( 7 ) 施工図及びプレカット図の提出</p> <p>工事に先立ち各種の施工図を作成し監理者の承認を受ける。また、必要に応じて接合部のモックアップの作成を行う。プレカット工場を使用する場合には、プレカット図を施工図と位置づける。</p> <p>( 8 ) 製作工場の選定、承諾</p> <p>設計図書に基づき、当該工事の規模、加工内容に応じた技術と設備を備え、かつ自主管理能力を有した製作工場及び木工技能者を選定し、監理者の承認を受ける</p> <p>( 9 ) 各種試験・検査報告書の提出</p> <p>施工者は、各種工事の試験・検査結果ならびに施工記録を提出する。</p> <p>(10) 接合法</p> <p>本標準図に示す構造耐力上主要な柱及び梁の接合方法は、下記による。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>継手仕口による在来工法</li> <li>梁受け金物、及びホソパイプ等による金物工法</li> </ul> <p>なお、上記の方法はひとつの建物で採用して構わない。</p> <p>また、本標準図は在来接合法のみについて記載しており、金物工法を用いる場合は、金物工法用の標準図を本標準図に追加して用いること。</p> <p>本標準図で指定していない金物に変更する場合は、監理者の承認を得ること。</p> <p>(11) 加工部材に関する留意事項</p> <p>本標準図で扱う一般的な在来プレカット工場で加工可能な範囲は以下による。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・梁：部材断面が幅90mm～150mm、梁成が幅と同等～450mm、及び材長6m以下</li> <li>・柱：90角～150角の正方形断面、長さ6m以下</li> </ul> <p>これらを超える場合は、一般プレカット工場では加工できない為、任意形状の加工が可能な加工機を有する工場を選定すること。</p>	<p>( 1 ) 木材及び木質材料</p> <p>主要構造部に使用する木材・木質材料の品質については特記仕様書で指定する。</p> <p>( 2 ) 接合具</p> <p>a) くぎ</p> <p>主要構造部に使用するくぎはJIS A 5508で規定される鉄くぎ（N釘）または太め鉄くぎ（DN釘）または滑眼亜鉛メッキ太め鉄くぎ（ZN釘）またはステンレス鋼釘（S釘）またはせっぽうボード用くぎ（GN釘）を用いる。</p> <p>b) 木質構造用ビス</p> <p>主要構造部に使用する場合は構造上必要な剛性・耐力・靱性が確保されるものを選定することとし、造作用のビス（コーススレッド等）を用いてはならない。</p> <p>使用箇所・呼び径・呼び長さ等については特記仕様書で指定する。</p> <p>c) ボルト・ナット・座金</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>主要構造部に使用するボルト及びナットについては以下による。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボルトはJIS B 1051、ナットはJIS B 1052に規定される機械的性質を満たす炭素鋼</li> <li>・公益財団法人日本住宅・木材技術センター規格に準じた金物に使用するボルト及びナット <ul style="list-style-type: none"> <li>【 Z マーク表示金物 】</li> <li>【 D マーク表示金物 】</li> <li>【 S マーク表示金物 】</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>上記以外に、指定性能評価機関、又はそれに準じる公立の評価機関で試験成績書を取得して、耐力が明示された金物に使用するボルト及びナット</li> <li>主要構造部に使用するボルト・ナットのねじはJISB0205に示すメートル並目ねじとし、構造上主要な部分にはM12以上を用いる。</li> <li>ボルト及びナットを用いて木材及び接合金物を繋結する場合には適切な寸法と厚みのある座金を用いる。</li> </ol> <p>※ ボルト・ナット及び座金の使用部位、種類、材質、寸法、表面処理については特記仕様書で指定する。</p> <p>d) ドリフトピン・ラグスクリュー</p> <p>主要構造部に使用する場合は構造上必要な剛性・耐力・靱性が確保されるものを選定することとする。使用箇所・材質・呼び径・呼び長さ等については特記仕様書で指定する。</p> <p>e) 木栓・木ダボ</p> <p>主要構造部に使用する場合は所定の強度が確保できる樹種を指定する。</p> <p>樹種・径等については、特記仕様書で指定する。</p> <p>節・目切れ等の耐力上の欠点のないものとする。</p> <p>( 3 ) 接合金物</p> <p>a) 規格金物</p> <p>構造材の接合に用いる接合金物の規格は以下による。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・JIS A 5531：木構造用金物</li> <li>・公益財団法人日本住宅・木材技術センターによる規格に準じた金物： <ul style="list-style-type: none"> <li>Z マーク表示金物、又は C マーク表示金物</li> <li>同等認定金物；D マーク表示金物</li> <li>性能認定金物；S マーク表示金物</li> </ul> </li> </ul> <p>上記以外に、指定性能評価機関、又はそれに準じる公立の評価機関で試験評価機関で試験成績書を取得して基準耐力が明示された金物を、規格金物として使用する。</p> <p>使用部位と金物の名称、材質、その他については特記仕様書で指定する。</p> <p>b) 製作金物</p> <p>製作金物の使用部位・材質・形状・寸法・溶接仕様・表面処理等については、特記仕様書及び設計図による。</p> <p>( 4 ) 接着剤</p> <p>原則として、構造計算による応力の検定に現場接着による接着剤の耐力は算入しない。但し、たわみや振動等に対する剛性確保のために接着剤の効果を見込む場合はこの限りではない。</p> <p>建築現場で用いる接着剤の名称・材質・使用環境等については特記仕様書による。</p> <p>( 5 ) 防腐防蟻処理及び耐候処理</p> <p>防腐防蟻処理及び耐候処理（塗装）は特記仕様書で指定する。</p> <p>土台及び外壁の地盤面から1m以下の構造材については適切な防腐防蟻処理を行う。</p> <p>適切な防腐防蟻処理については特記仕様書で指定する。</p>	<p>※共通事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アンカーボルト及び座金の品質と性能、表面処理等は、特記仕様書による。</li> </ul> <p>( 1 ) 土台固定用アンカーボルト</p> <p>a). アンカーボルトの埋設位置： アンカーボルトの埋設位置は以下による。</p> <p>-1. 耐力壁（筋交い、合板仕様共通）の下部：</p> <p>耐力壁（筋交い、合板仕様共通）の下部は、その両端の柱の下部に近接した位置（柱芯より200mm内外）とする。</p>  <p>-2. 土台切れの端部及び、土台の継手仕口：</p> <p>土台切れの端部及び、土台の継手仕口では、男木の端部に設ける。</p> <p>当該部分が出隅の場合は、出来る限り柱に近接させた位置とする。</p>  <p>仕口の場合</p>  <p>土台切れの場合（柱軸ち収まり等）</p>  <p>-3. その他： 上記以外では、2.0m以内の間隔で設ける。</p> <p>( 2 ) 引張金物専用アンカーボルト</p> <p>a). 引張金物専用アンカーボルトの径</p> <p>引張金物専用アンカーボルトの呼び径は、M16以上とする。</p> <p>b). 引張金物専用アンカーボルトの基礎への埋込み長さ</p> <p>引張金物専用のアンカーボルトの基礎コンクリートへの埋込み長さは、J型アンカーボルトを用いる場合は、360 mm 以上とする。その他のアンカーボルトを用いる場合は、引張金物の耐力を満たす埋込み長さとする。</p>	<p>( 1 ) 釘接合</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・釘の長さは材厚の2.5倍以上とする。</li> <li>・面材表面に対し、釘頭がめり込んではいならない。</li> <li>・自動釘打ち機を使用する場合は、圧力を適切に調整するか、弱めの圧力で打込んだうに手で打込んで仕上げる等により、釘頭めり込みを防ぐ。</li> <li>・構造耐力上主要な部分において、釘を引き抜き方向に抵抗させることは避ける。</li> <li>・木口面に打たれた釘は、引抜き方向に抵抗させることはできない。</li> </ul> <p>( 2 ) 木質構造用ビス接合</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・木口面に打たれた木質構造用ビスは、引抜き方向に抵抗させることはできない。</li> <li>・先孔を設ける場合の先孔の径は、以下のとおりとする。； <ul style="list-style-type: none"> <li>比重が 0.5 以上の樹種・・・呼び径の 60～75 %</li> <li>上記以外の樹種・・・呼び径の 40～70 %</li> </ul> </li> <li>※ 先孔の深さは、主材へのねじ込み深さの2／3程度とする。</li> </ul> <p>( 3 ) ボルト接合</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・締付けに先立ち、ボルトの長さ、材質、呼び径、座金等が施工箇所に適していることを確認する。</li> <li>・ボルトの締め付けは、座金等が木材に軽くめり込む程度とし、適度に締付けない。</li> <li>・締め付けを完了したボルトは、ねじ部がナットから2山以上突き出ていることを確認する。但し、床座り座金等、ナットと座金为一体になって土台に埋込まれるタイプのものについては、メーカーの使用条件による。</li> <li>・引張力を負担する構造上主要な箇所のボルトで、設計図書で指定する部位のものについては、ダブルナット等、地み止め等の適切な処置を行う。</li> </ul> <p>( 4 ) ラグスクリュー接合</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・座金の厚さと大きさは、同じ口径のボルト接合部における規定値を用いる。</li> <li>・締付けに先立ち、ラグスクリューの長さ、材質、呼び径、座金等が施工箇所に適していることを確認する。</li> <li>・先孔を設ける場合の先孔の径は、以下のとおりとする。； <ul style="list-style-type: none"> <li>比重が 0.5 以上の樹種・・・呼び径の 60～75 %</li> <li>上記以外の樹種・・・呼び径の 40～70 %</li> </ul> </li> <li>※ 先孔の深さは、ネジ部の長さと同寸以上とする。</li> <li>・ラグスクリューの挿入は、スパナやインパクトレンチ等を用い、必ず回転させて行う。ハンマー等で叩き込みによる挿入を行ってはならない。</li> <li>・一度ねじ込んだラグスクリューは、抜き直して再びねじ込むことは避ける。</li> <li>・鋼板を側材に用いる場合のラグスクリューは、切削ネジタイプとし、転造ネジタイプを用いてはならない。また、鋼板の孔径は以下のとおりとする。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・呼び径 M12以下：+1.0mm</li> <li>・呼び径 M16以上：+1.5mm</li> </ul> </li> </ul> <p>( 5 ) ドリフトピン接合</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ドリフトピンは、孔に密着させて使用し、木材に対し遊びがあってはならない。</li> <li>・ドリフトピンは、原則として、集成材やLVL等の寸法安定性の高い木質材料に用いるものとし、止むを得ず製材に用いる場合はKD材とする。</li> <li>・施工に際しては、孔に対しテーパのある側を先端にして打込み、無理な打撃を加えてはならない。</li> </ul> <p>( 6 ) 木栓接合</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・木栓は、孔に密着させて使用し、木材に対し遊びがあってはならない。</li> <li>・木栓は、原則として、集成材やLVL等の寸法安定性の高い木質材料に用いるものとし、止むを得ず製材に用いる場合はKD材とする。</li> <li>・施工に際しては、木栓を孔に対し打込む時に、折れ曲がりや割れ、頭部の潰れ等が生じないように注意し、無理な打撃を加えてはならない。</li> <li>・木栓は湿気の少ない場所で保管し、現場においても水に濡れないよう注意する。</li> </ul> <p>( 7 ) グルードインロッド接合</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グルードインロッド接合とは、軸組部材の木口に先孔を開け、鋼棒等を挿入して、樹脂接着剤等注入・充填させることにより、接着剤の付着抵抗と鋼棒等の引張によって、応力を伝達する接合をいう。</li> <li>・グルードインロッド接合は、原則として、集成材やLVL等の寸法安定性の高い木質材料に用いるものとし、止むを得ず製材に用いる場合はKD材とする。</li> <li>・施工に際しては、所定の適用範囲や材料、手順、接着剤の使用環境、養生方法等を遵守して適正に行う。</li> </ul>

年 度	工事名称		一級建築士事務所 第277号 株式会社 カクタ設計 ※事務所所在地：〒600-23-1 カクタ設計金石営業所 ※石市大渡町1丁目1-1 中央ビル2F	管理建築士 1級建築士 登録第168469号 佐野 文男	統括 多田 担当 多田	製 園	1級建築士 第374554号 多田 和広 印	製 作 日	区 分	図 面 内 容	縮 尺	図面番号
1	尾崎町郷土芸能伝承施設改築工事							令和2年 3月	構 造 工 事 種 別 新 築	木造軸組接合部標準図（1）	N o n	WS - 2

# 木 造 軸 組 接 合 部 標 準 図 ( 2 )

## 5. 軸組標準接合部

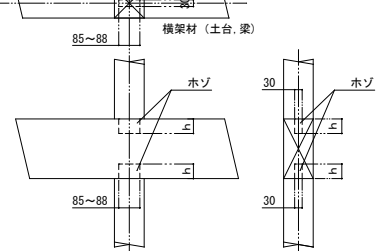
### (1) 共通事項及びキーフレーム



### (2) 標準的な継手仕口 (mm)

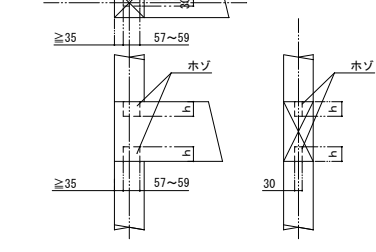
A 柱-横架材仕口：一般部 (土台共通)

h：ホゾ長さ ■ 短ホゾ 45～60 mm  
□ 長ホゾ 90 mm  
□ 上記以外 ( ) mm

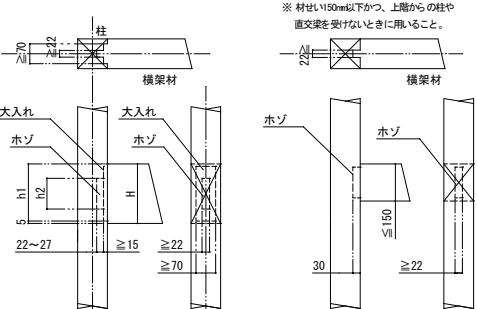


B 柱-横架材仕口：出隅部 (土台共通)

h：ホゾ長さ ■ 短ホゾ 45～60 mm  
□ 長ホゾ 90 mm  
□ 上記以外 ( ) mm

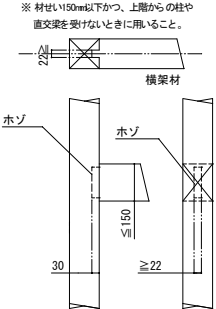


C 通柱-横架材仕口：側差し



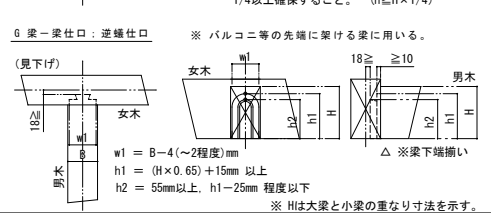
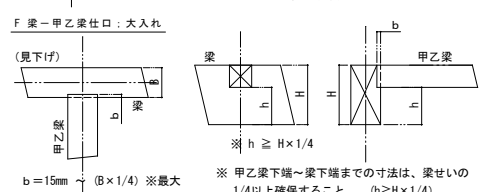
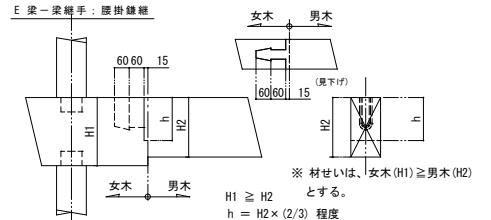
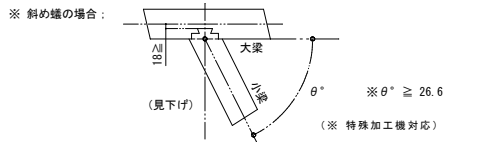
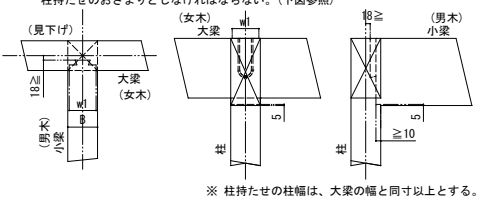
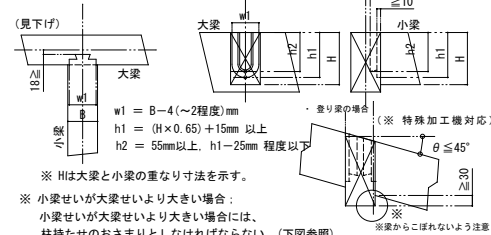
h1 = H-5 mm 程度  
※ 側差しで通し柱に取り付く方向は、2方向までとする。

C 通柱-横架材仕口：桁差し

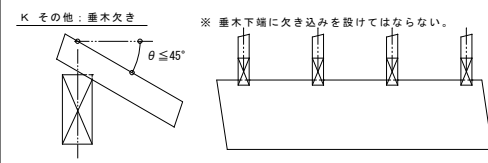
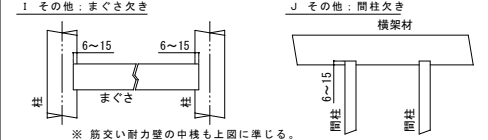
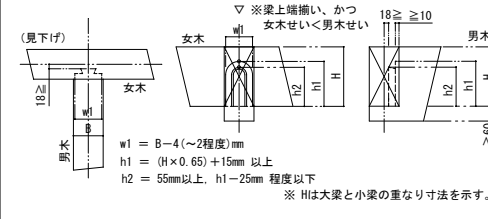


※ 材せいの150mm以下かつ、上階からの柱や直交梁を受けるときに用いること。

D 大梁-小梁仕口：雄仕口



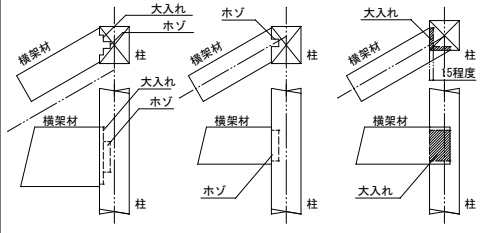
H 梁-梁仕口：茶臼仕口



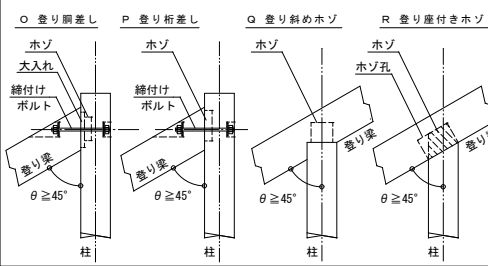
### (3) 特殊加工機を用いた標準的な継手仕口 (mm)

特殊加工機を用いることにより対応が可能な継手仕口の一例を、本節に示す。  
特殊加工機を用いた継手仕口は、加工場が限定されるので注意すること。  
特殊加工機を用いた継手仕口は、その形状により加工コストが増すので注意すること。

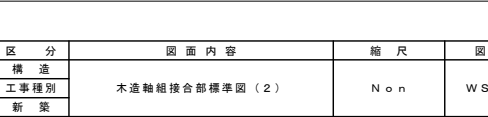
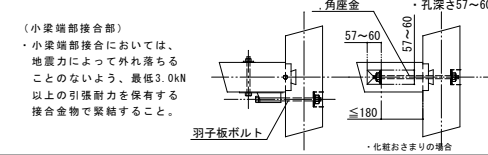
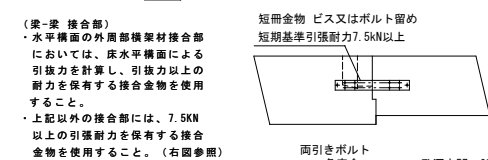
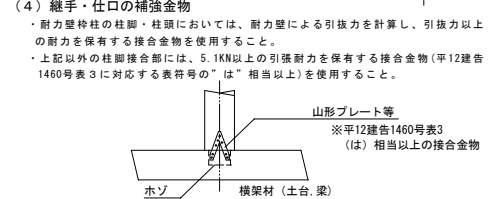
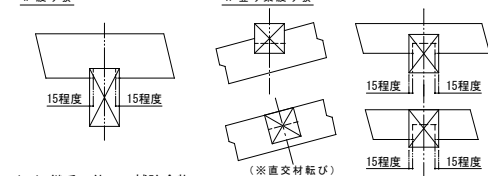
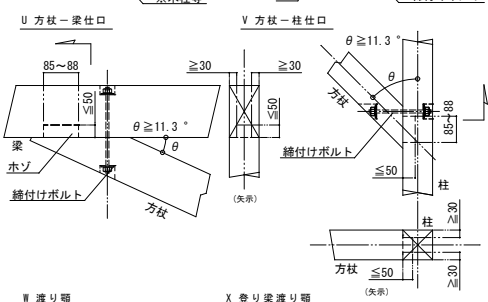
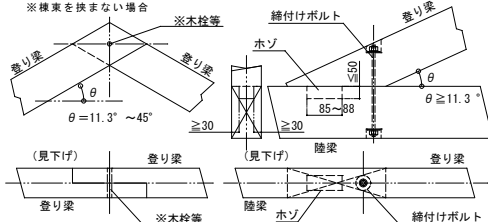
L 斜め側差し



※ L, Mともに、梁幅が柱からこぼれない範囲で用い、柱断面を調整して使用すること。  
※ L, Mともに、柱梁の繋結には引きボルトの代わりにコーナー金物を使用すること。  
使用するコーナー金物は、羽子板同等以上の引張耐力を有するものとする。



S 登り梁合掌部



年度	工事名称	設計者	監理者	施工者	製作日	区分	図面内容	縮尺	図面番号
1	尾崎町郷土芸能伝承施設改築工事	株式会社 カクタ設計 〒900-0001 富山県富山市南平町森2-1 カクタ設計金石営業所 富山県富山市1丁目1-1 中央ビル2F	1級建築士 登録第168469号 佐野 文男	多田 和広	令和2年 3月	構造 工事種別 新築	木造軸組接合部標準図 (2)	Non	WS - 3

# 木 造 軸 組 接 合 部 標 準 図 ( 3 )

## 6. 耐力壁

(注) (単位)mm

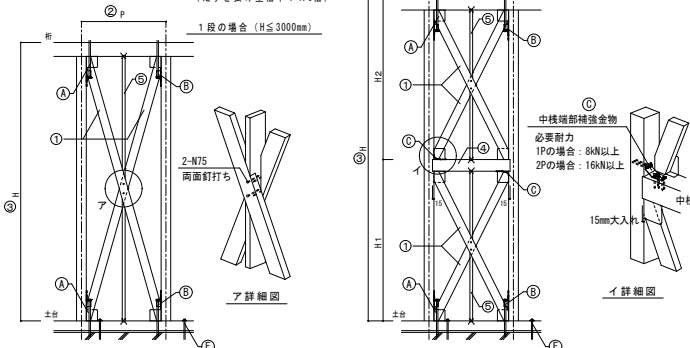
### 6.1 共通事項

各部仕口形状は、(3)高耐力仕様構造用合板張り耐力壁を除き、木造軸組接合部標準図(2)5.軸組標準接合部に準ずる。  
面材張り耐力壁の面材に対する釘頭のみ込みは、2mmを限度とする。2mmを超える場合は張り合う釘との中間部に増し打ちすること。  
耐力壁の土台と基礎との間は、無収縮モルタル又は十分な耐力力を持つスーパースー材を挿入し隙間を埋めること。  
柱の有効縦長比(断面の最小二次半径に対する縦長長の比)は、150以下とすること。

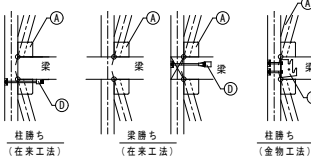
### 6.2 耐力壁の仕様

(1) 旅行令46条に準じた耐力壁

a. 筋かい耐力壁：45×90以上 (片筋かい壁倍率：2.0倍)  
(たすき掛け壁倍率：4.0倍)



筋かいの芯は、柱と横梁材の内法面の交点にあわせる



必要耐力  
1Pの場合：8kN以上  
2Pの場合：16kN以上

1) 各部材料および寸法

- 筋かい：45mm×90mm以上(節、目切れ等軽微なもの)
- 柱間隔：900mm≦P≦2000mm
- 高さH≦3000mm：1段、H>3000mm：2段  
2段の場合：6000mm≧H>3000mm  
H1及びH2は、H/2内外
- 中横：幅：柱と同等、成寸柱幅  
間柱：幅30mm以上、間隔500mm以下 端部は上下横梁材の間柱欠きに6~15mm大入れの上、2-N75斜め釘打ち

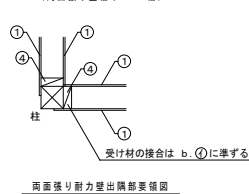
### 2) 各部仕口形状及び性能

- 筋かい端部：突き付けの上 筋かいプレート(2倍用)を使用 在来工法及び金物工法とも柱梁ビスどめタイプを基本とする
- 各階の柱頭柱脚部：ホゾ差し等の上、水平力時に柱頭柱脚部へ生じる引張力を上回る耐力を有する金物を使用する
- 中横端部：15mm大入れの上、必要耐力以上の金物を横向きに使用 必要耐力：1Pの場合→8kN以上、2Pの場合→16kN以上
- 梁端部在来仕口部補強金物：耐力壁の許容せん断力以上の引抜耐力を有するものとする
- 梁端部金物工法梁受け金物：耐力壁の許容せん断力以上の引抜耐力を有するものとする
- 耐力壁のせん断力を土台から基礎へ伝えるアンカーボルト：M12以上のアンカーボルトを耐力壁両端の柱近接位置(柱芯から200mm内外)に1本ずつ設置する

### (2) 昭56建造1100号に準じた耐力壁

a. 面材張り大壁仕様耐力壁

(片面張り壁倍率：2.5倍)  
(両面張り壁倍率：5.0倍)



### 1) 各部材料および寸法

- 面材：構造用合板 t=9mm以上又はOSB t=9mm以上
- 柱間隔：600mm≦P≦2000mm
- 高さ：H≦6000mm
- 間柱：幅30以上、間隔500mm以下(合板継目部は、9mm合板の場合幅60mm以上)
- 中横：幅90mm以上

### 2) 各部仕口形状及び性能

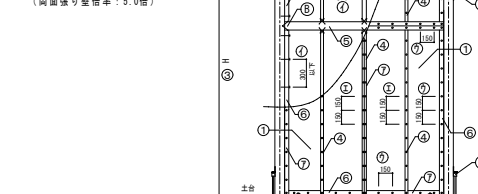
- 各階の柱頭柱脚部：ホゾ差し等の上、水平力時に柱頭柱脚部へ生じる引張力を上回る耐力を有する金物を使用する
- 中横端部：まぐさ欠きに15mm大入れの上、2-N75斜め釘打ち
- 間柱端部：間柱欠きに6~15mm大入れの上、2-N75斜め釘打ち
- 耐力壁のせん断力を土台から基礎へ伝えるアンカーボルト：M12以上のアンカーボルトを耐力壁両端の柱近接位置(柱芯から200mm内外)に1本ずつ設置する

### 3) 構造用合板の釘打ち方法

- 構造用合板(又はOSB)の4周を釘打ちする  
柱及びはりに対するかり寸法：30mm以上  
合板に対するへり空き：15mm以上  
柱はりのへり空き：15mm以上  
金物が干渉する場合は、金物を避けた位置に所定の本数を釘打ちする
- 横梁材・柱：N50@150mm以下
- 中横：N50@150mm以下
- 間柱：N50@150mm以下

b. 受け材付き真壁仕様耐力壁

(片面張り壁倍率：2.5倍)  
(両面張り壁倍率：5.0倍)



### 1) 各部材料および寸法

- 面材：構造用合板 t=9mm以上又はOSB t=9mm以上
- 柱間隔：600mm≦P≦2000mm
- 高さ：H≦6000mm
- 間柱：幅30以上、間隔500mm以下(合板継目部は、9mm合板の場合幅60mm以上)
- 中横：幅90mm以上
- 受け材：幅30mm以上

### 2) 各部仕口形状及び性能

- 各階の柱頭柱脚部：ホゾ差し等の上、水平力時に柱頭柱脚部へ生じる引張力を上回る耐力を有する金物を使用する
- 中横端部：突き付けの上、2-N75斜め釘打ち
- 間柱端部：突き付けの上、2-N75斜め釘打ち
- 耐力壁のせん断力を土台から基礎へ伝えるアンカーボルト：M12以上のアンカーボルトを耐力壁両端の柱近接位置(柱芯から200mm内外)に1本ずつ設置する

### 3) 構造用合板の釘打ち方法

- 構造用合板(又はOSB)の4周を釘打ちする  
構造用合板(又はOSB)の4周を釘打ちする  
受け材に対するかり寸法：30mm以上  
合板に対するへり空き：15mm以上  
受け材のへり空き：15mm以上  
金物が干渉する場合は、金物を避けた位置に所定の本数を釘打ちする
- 受け材と柱はり：N90@300mm以下(両面構造用合板(又はOSB)張りの場合は#150以下)  
※ 枠止め用材「ケ」が取り付け付場合は、N90@チドリ150以下とする。
- 受け材、中横：N50@150mm以下
- 間柱：N50@150mm以下

(3) 高耐力仕様構造用合板張り耐力壁 (JIS A 3301標準仕様)：短期許容せん断耐力 $\angle Qa=29.6kN/m$   
本耐力壁を採用する場合は、設計図書に試験成績書を添付すること

### a. 条件及び仕様

#### 1) 各部材料

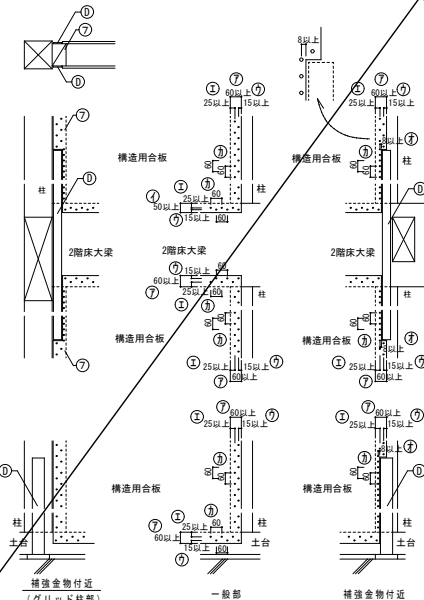
- 面材：構造用合板 t=12mm 両面張り
- 間隔：900mm≦P≦1000mm
- 高さ：1800mm≦H≦3650mm
- 高耐力壁を用いる場合のグリッド柱：150mm×150mm以上  
(グリッド柱：X方向とY方向の主要鉛直構面の交点の柱)
- 高耐力壁の端部および合板継ぎ目部の柱：120mm×120mm以上
- 構造用合板継ぎ目部横つなぎ材：120mm×120mm以上
- グリッド柱に取付く受け材：75mm×120mm以上
- 間柱：見付け45mm以上、見込み120mm以上、間隔P/3以下
- 小屋柱：120mm×120mm以上

#### 2) 各部仕口形状及び性能

- 柱頭柱脚部：厚さ30mm×深さ90mm以上
- 中横端部ホゾ：  
片側から柱に取り付く場合：厚さ30mm×深さ90mmホゾ差し  
両側から柱に取り付く場合：厚さ30mm×深さ60mmホゾ差し
- 間柱両端：横梁材への溝加工及び6mm程度大入れ
- 各階の柱頭柱脚部：  
水平力時に柱頭柱脚部へ生じる引張力を上回る耐力の金物を使用する
- 耐力壁のせん断を土台から基礎へ伝えるアンカーボルト：  
M16アンカーボルト耐力壁1P当り2本設置する


#### 3) 各部への釘打ち及びビス止め

- 構造用合板はたて張り、4周を釘打ちする
- ⑦を除き、柱及びはりに対するかり寸法：60mm以上
- 2階耐力壁合板を2階床大梁へ留め付ける場合かり寸法：50mm以上
- ⑦を除き、合板に対するへり空き：15mm以上
- 柱はりのへり空き：25mm以上
- 金物が干渉しへり空きが確保できない合板部分のへり空き3mm以上
- 横梁材・柱・受け材：N50@60mmチドリ打ち
- 間柱：N50@90mm打ち
- ⑦の受け材とグリッド柱：  
木質構造用ビスφ6、L130~150@100(2列)で留め付ける



### 6.3 その他の耐力壁

- 木造軸組工法住宅の許容応力度設計(2008年版)の算細計算法による面材張り耐力壁については、同書の規定に準拠することとし、釘ピッチ配列等の仕様については設計図による。
- 指定性能評価機関またはそれに準じる公共の評価機関で成績書を取得して耐力が明示された耐力壁については試験成績書の仕様を準拠することとする。
- 大断面取得した耐力壁については、認定書に記載された適用範囲及び仕様を守ること。

年 度	工事名称		管理建築士	統括	1級建築士 第374554号	製 作 日	区 分	図 面 内 容	縮 尺	図面番号
1	尾崎町郷土芸能伝承施設改築工事		一般建築士事務所 第277号 株式会社 カクタ設計 岩手県滝沢市松崎町白根千代森23-1 カクタ設計金石営業所 奥村大澤町1丁目1-1 中央ビル2F	1級建築士	多田 和広	令和2年 3月	構 造	木造軸組接合部標準図 ( 3 )	Non	WS - 4
			登録第168469号 佐野 文男	多田 和広	工事種別 新 築					

# 木 造 軸 組 接 合 部 標 準 図 ( 4 )

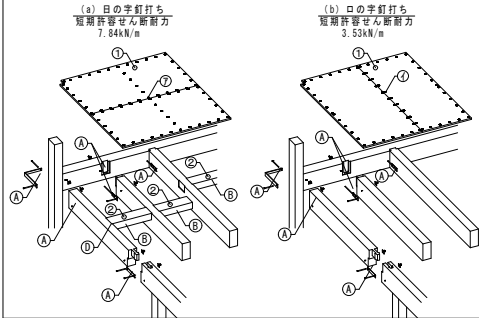
## 7. 水平構面

### 7.1 共通事項

- ・各部仕口形状は、(3) 高耐力仕様根・床水平構面を除き、木造軸組接合部標準図(2) 5. 軸組標準接合部に準ずる。
- ・木造軸組工法住宅の許容応力度設計(2008年)の詳細計算法による水平構面については、同書の規定に準拠するとし、釘ピッチ配列等の仕様については設計図による。
- ・指定性能評価機関またはそれに準じる公共の評価機関で成績書を取得して耐力が明示された水平構面については試験成績書の仕様で準拠することとする。

### 7.2 水平構面の仕様

#### (1) 木造軸組工法住宅の許容応力度設計に準じた床構面



#### 1) 各部材料および寸法

- ① 面材：構造用合板  $t=24\text{mm} \sim 30\text{mm}$  横架材に直貼
  - ② 甲乙梁：幅  $45\text{mm}$  以上  $\times$  せい  $45\text{mm}$  以上  $\times$  梁及び甲乙梁の間隔  $1000\text{mm}$  以下
- 2) 各部仕口形状及び性能
- ④ 各仕口部分：
- 水平力時に継手、仕口各部へ生じる引張力を上回る耐力の金物を使用する
  - 構造用合板の継目及び釘打ちを行う部分の直下には甲乙梁を設ける
  - 高低差のある梁へは側面に床受け材を取り付け構造用合板を受ける構成
  - 甲乙梁端部は小梁に対して深さ  $15\text{mm}$  程度の大入れ N75 1本斜め打ち
- 3) 各部への釘打及びビス止め
- ⑦ 構造用合板はN75@150mmの字釘打ちで横架材、甲乙梁、床受け材に留め付ける
  - ⑧ 構造用合板はN75@150mmの字釘打ちで横架材、甲乙梁、床受け材に留め付ける

注意事項：構造用合板(又はOSB)に対する釘頭のめり込みは、2mmを限度とする  
2mmを超える場合は隣り合う釘との中間部に増し打ちすること  
口の字釘打ちは構造用合板上に直接フローリングを貼る構成の場合、  
組み等に注意すること

#### 告示耐力壁・床納まり

大壁合板耐力壁・床構面  
(壁・床)

真壁合板耐力壁・床構面  
(壁・床)

筋違耐力壁・床構面  
(筋違・床)

#### 認定仕様例示(日合連(JPMA)仕様耐力壁・床構面)

大壁合板耐力壁・床構面  
認定番号：FRM-0298

真壁合板耐力壁・床構面  
認定番号：FRM-0298

#### 国産構造用合板耐力壁

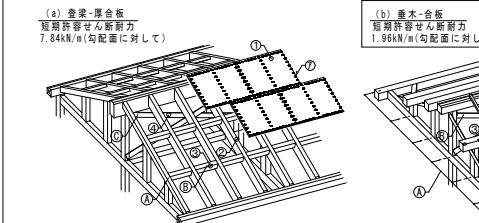
合板の厚み 12mm  
大壁仕様  
認定番号：FRM-0415  
壁倍率 3.1

大壁床仕様  
認定番号：FRM-0336  
壁倍率 3.2

CNSO 釘  
外面100mm以下  
中表120mm以下  
継手目地 1mm程度

※日本合板工業組合認定HP参照  
<http://www.jpma.jp/nintei/>

#### (2) 木造軸組工法住宅の許容応力度設計に準じた屋根構面



(b) 垂木合板  
釘間許容せん断耐力  
1.96kN/m(勾配面に対して)

#### 1) 各部材料および寸法

- ① 面材：構造用合板  $t=24\text{mm} \sim 30\text{mm}$  横架材に直貼
- ② 垂木：幅  $45\text{mm}$  以上  $\times$  せい  $45\text{mm} \sim 90\text{mm}$  以下 間隔  $1000\text{mm}$  以下
- ③ 甲乙梁：幅  $45\text{mm}$  以上  $\times$  せい  $45\text{mm}$  以上 間隔  $1000\text{mm}$  以下
- ④ 小屋耐力壁：15mm以上  $\times$  90mm以上  
(端部は平12建合1460号の筋違耐力壁の接合)

#### 2) 各部仕口形状及び性能

- ④ 各仕口部分：水平力時に継手、仕口各部へ生じる引張力を上回る耐力の金物を使用する
- ⑤ 構造用合板の継目及び釘打ちを行う部分の直下には甲乙梁を設ける
- ⑥ 耐力壁から勾配屋根水平構面までせん断力を伝達できるよう、耐力壁線には同等以上の壁量となるよう小屋耐力壁(くも筋違い)を設ける事

#### 3) 各部への釘打及びビス止め

- ⑦ 構造用合板はN75@150mmで目の字に垂木に留め付ける

注意事項：構造用合板(又はOSB)に対する釘頭のめり込みは、2mmを限度とする

#### 1) 各部材料および寸法

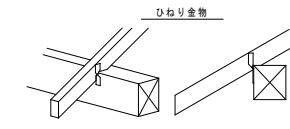
- ① 面材：構造用合板  $t=9\text{mm} \sim 15\text{mm}$  (横置)
- ② 垂木：幅  $45\text{mm}$  以上  $\times$  せい  $45\text{mm} \sim 90\text{mm}$  以下 間隔  $500\text{mm}$  以下
- ③ 小屋耐力壁：15mm以上  $\times$  90mm以上  
(端部は平12建合1460号の筋違耐力壁の接合)
- ④ 転び止め：45mm  $\times$  60mm程度

#### 2) 各部仕口形状及び性能

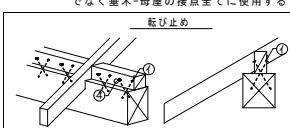
- ⑥ 母屋ピッチ：1000mm以下
- ⑦ 耐力壁から勾配屋根水平構面までせん断力を伝達できるよう、耐力壁線には同等以上の壁量となるよう小屋耐力壁(くも筋違い)を設ける事

#### 3) 各部への釘打及びビス止め

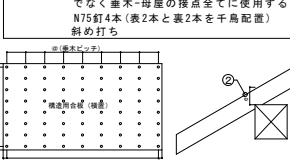
- ⑦ 構造用合板はN50@150mmで川の字に垂木に留め付ける
- ⑧ 転び止めを梁に2-N75斜め釘止め
- ⑨ 垂木の留め付けは、垂木の側面から軒先、母屋、棟木の上面に対してN75釘2本打ち



注意事項：ひねり金物を使用する際、軒先・棟だけでなく垂木・母屋の接点全てに使用する



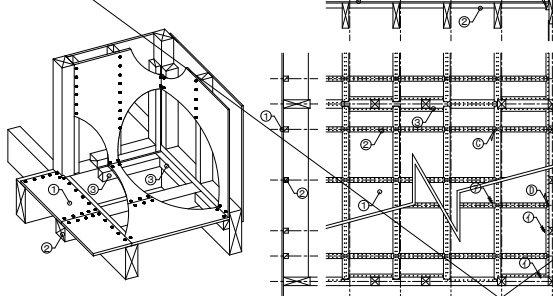
注意事項：転び止めを使用する際、軒先・棟だけでなく垂木・母屋の接点全てに使用する



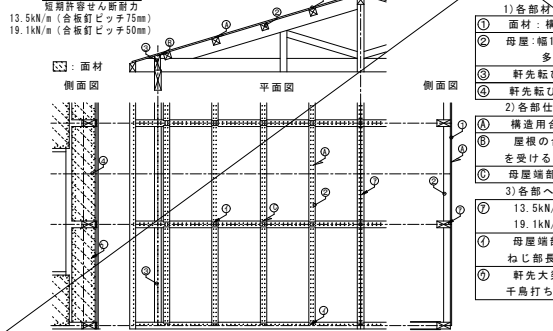
a: 面材上下端まで10mm  
b: 面材左右端まで10mm  
c: 軸材端まで(最小値) 12.5mm

## 7.3 JISA3301仕様高耐力水平構面

### (1) 2階床水平構面の条件及び仕様 釘間許容せん断耐力 14.1kN/m



### (2) 屋根水平構面の条件及び仕様 釘間許容せん断耐力 13.5kN/m (合板釘ピッチ75mm) 19.1kN/m (合板釘ピッチ50mm)



#### 1) 各部材料

- ① 面材：構造用合板  $t=24\text{mm}$  又は  $28\text{mm}$  横架材に直張り
  - ② 甲乙梁：90mm  $\times$  90mmの正角材又は幅75mm  $\times$  せい120mm製材を平使い
  - ③ 大梁側面に取り付ける床受け材：幅55mm  $\sim$  75mm  $\times$  せい120mmの製材
- 2) 各部仕口形状及び性能
- ④ 構造用合板の継目及び釘打ちを行う部分の直下には甲乙梁を設ける
  - ⑤ 高低差のある梁へは側面に床受け材を取り付け構造用合板を受ける構成
  - ⑥ 甲乙梁端部は小梁に対して深さ15mm程度の大入れ
  - ⑦ 甲乙梁端部は床受け材に対して床受け材を深さ15mm  $\times$  せい60mm切り欠き厚乙梁はせい60mm分大入れし床受け材勝ちの納まりとする
- 3) 各部への釘打及びビス止め
- ⑧ 構造用合板はN75@75mmの字釘打ちで横架材、甲乙梁、床受け材に留め付ける
  - ⑨ 大梁側面へ取り付け床受け材は木質構造用ビス  $\phi 6$  L130  $\sim$  150を150mmピッチの二列打ちとして留め付ける

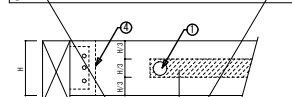
#### 1) 各部材料

- ① 面材：構造用合板  $t=24\text{mm}$  合板及び母屋に直張り
  - ② 母屋：幅120mm  $\times$  せい120mmの製材
  - ③ 多雪区域(3級及び4級)の場合は幅120mm  $\times$  せい150mmの製材
  - ④ 軒先転び止め：幅105mm  $\times$  せい300mmの製材を用い、天端は屋根面に合わせ切り欠く
  - ⑤ 軒先転び止めの外面に直張りする構造用合板： $t=12\text{mm}$
- 2) 各部仕口形状及び性能
- ⑥ 構造用合板の継目及び釘打ちを行う部分の直下には母屋を設ける
  - ⑦ 屋根の合板レベルに対して低い位置にある軒先の大梁上に転び止めを設け構造用合板を受ける構成
  - ⑧ 母屋端部は垂梁に対して深さ15mm程度の大入れ
- 3) 各部への釘打及びビス止め
- ⑨ 13.5kN/m仕様：構造用合板はN75@75mm4周(口の字)釘打ちで垂梁及び母屋に留め付ける
  - ⑩ 19.1kN/m仕様：構造用合板はN75@50mm4周(口の字)釘打ちで垂梁及び母屋に留め付ける
  - ⑪ 母屋端部に対して吹上対策として木質構造用ビス  $\phi 5$  L150(頭部径  $\phi 12.5$  以上ねじ部長50以上)1本を斜め打ちとする
  - ⑫ 軒先大梁と転び止めの外面に直張りする構造用合板は、N50  $\times$  せい50mmピッチの平角打ちとして留め付ける

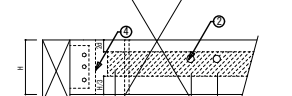
## 8. 貫通孔

### 8.1 梁貫通孔の条件及び仕様

- ① 大貫通孔： $d \leq H/4$  かつ  $150\text{mm}$
- ② 小貫通孔： $d \leq 30\text{mm}$  (隣り合う孔は3d以上離す)
- ③ 縦小貫通孔： $d \leq b/6$  かつ  $30\text{mm}$
- ④ 横小貫通孔：切り欠きライン



注意事項：ひねり金物を使用する際、軒先・棟だけでなく垂木・母屋の接点全てに使用する



注意事項：転び止めを使用する際、軒先・棟だけでなく垂木・母屋の接点全てに使用する



梁の上下面に小貫通孔を設けることのできる範囲(大貫通孔は不可)

### 8.2 耐力壁貫通孔

#### (1) 小開口付耐力壁：木造軸組工法住宅の許容応力度設計(2008年版)

※壁倍率7倍までの孔開けルール

剛性・耐力に影響しない

耐力耐力耐力の小開口の設け方

穴径がL/2(500mm程度)

までなら四角な受材等で

補強して面材を釘打ちすれば可

水平方向の受材等は

両端を軸組の柱に対して

斜めビス止め等で繋結する

穴径が12t以下かつ

L/6以下ならば補強不要

面材厚：t

部：小開口を設けることができる範囲

部：小開口を設けることができる範囲

部：小開口を設けることができる範囲

部：小開口を設けることができる範囲

部：小開口を設けることができる範囲

部：小開口を設けることができる範囲

部：小開口を設けることができる範囲

部：小開口を設けることができる範囲

部：小開口を設けることができる範囲

部：小開口を設けることができる範囲

部：小開口を設けることができる範囲

部：小開口を設けることができる範囲

部：小開口を設けることができる範囲

部：小開口を設けることができる範囲

部：小開口を設けることができる範囲

部：小開口を設けることができる範囲

部：小開口を設けることができる範囲

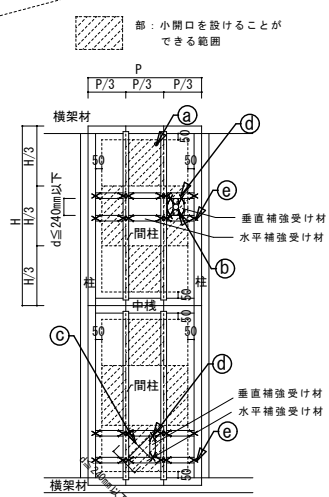
部：小開口を設けることができる範囲

部：小開口を設けることができる範囲

部：小開口を設けることができる範囲

部：小開口を設けることができる範囲

部：小開口を設けることができる範囲



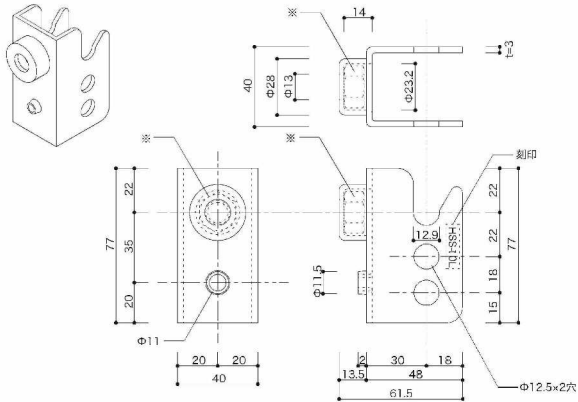
HSS-10 金物

HSS-18 金物

HSS-23 金物

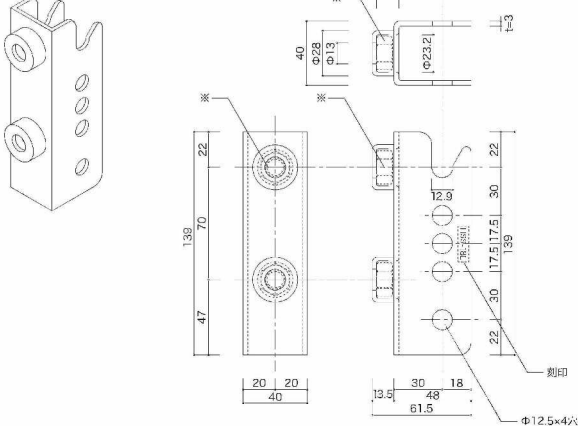
HSS-10L,HSS-10LN,HSS-10R,HSS-10RN

HSS-10L, HSS-10LN



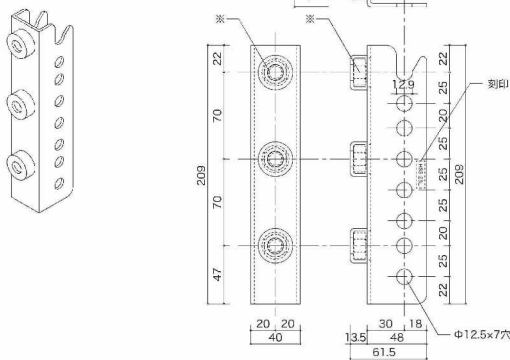
HSS-18L,HSS-18LN,HSS-18R,HSS-18RN

HSS-18L, HSS-18LN

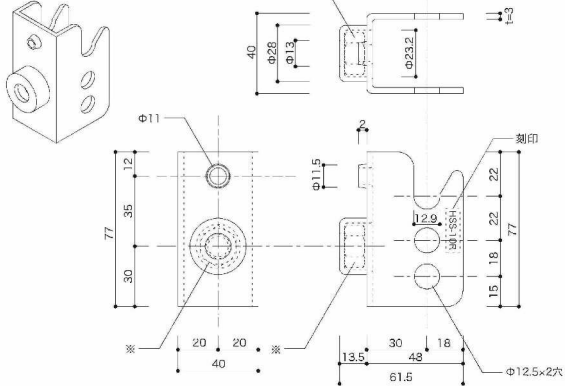


HSS-23L,HSS-23-LN,HSS-23R,HSS-23RN

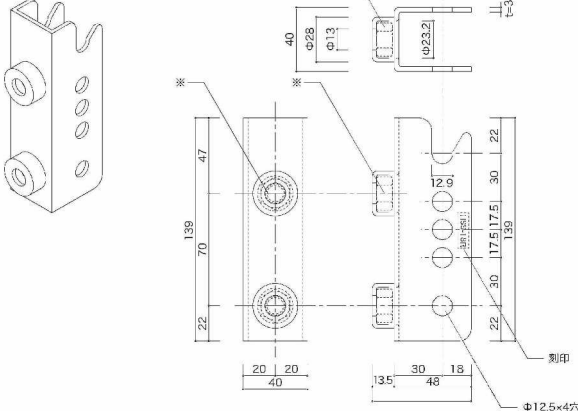
HSS-23L, HSS-23LN



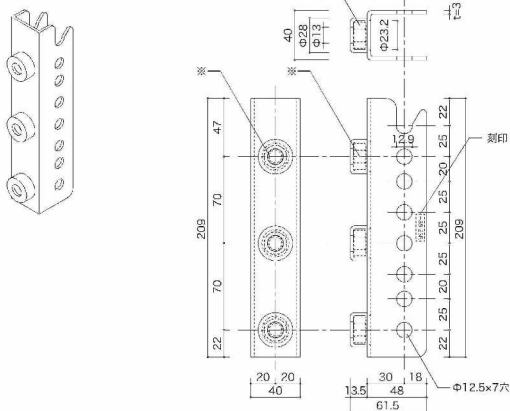
HSS-10R, HSS-10RN



HSS-18R, HSS-18RN

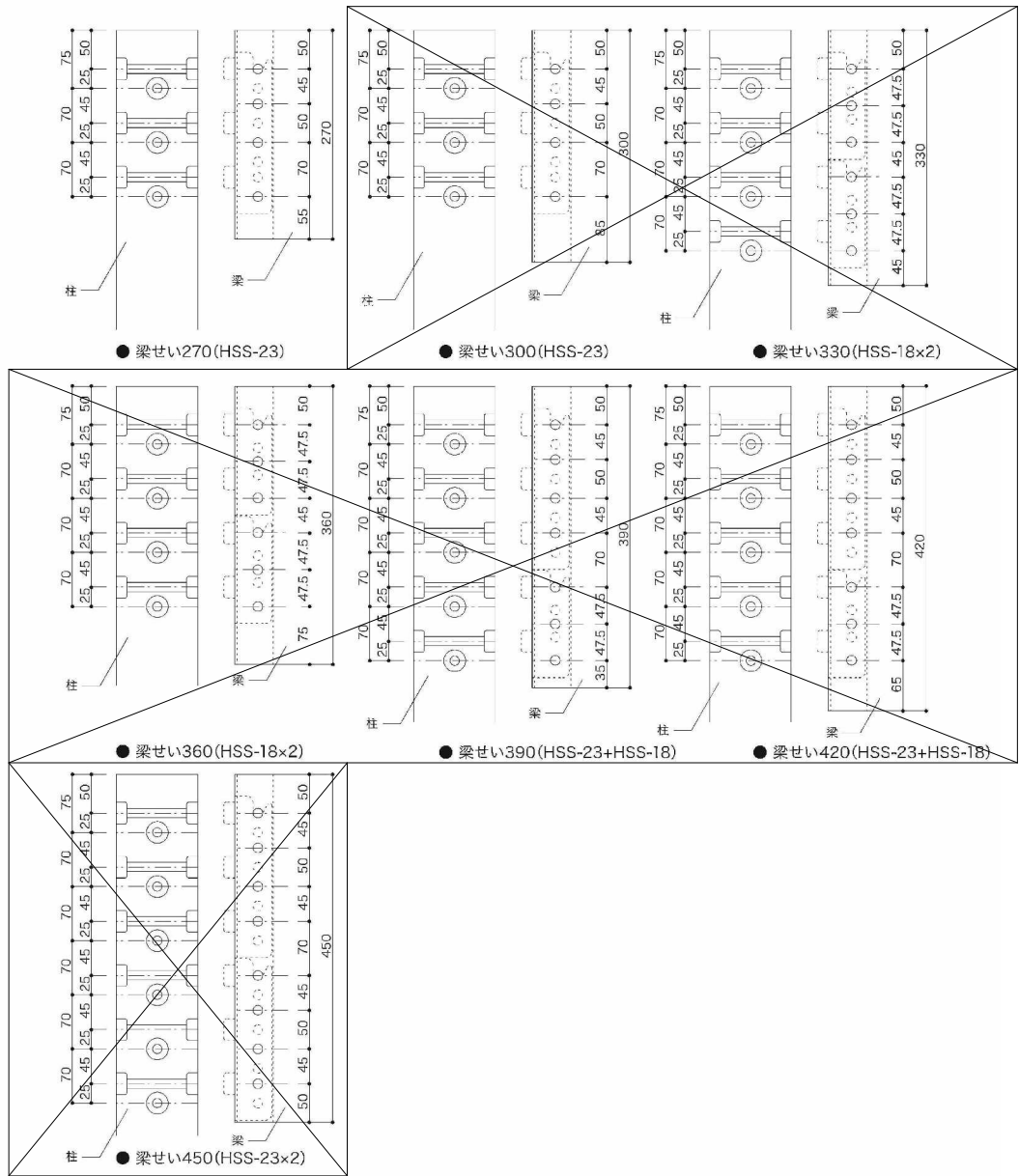


HSS-23R, HSS-23RN





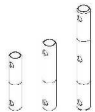
梁せい270以上の場合(ドリフトピン、ボルト位置)



K D材 (スギ E 50-D 20以上)

対応梁せい (mm)	対応材幅 (mm)	対応梁受コネクタ	接合タイプ	短期基準せん断耐力 (kN)	長期基準せん断耐力 (kN)	短期基準引張耐力 (kN)
105~150	105以上	HSS-10	柱-梁	10.7	5.8	6.0
			梁-梁	7.3	4.0	7.2
180~210		HSS-18	柱-梁	20.1	11.0	10.1
			梁-梁	12.7	6.9	9.7
240~330		HSS-23	柱-梁	25.5	14.0	14.1
			梁-梁	32.8	18.0	20.3
360~390		HSS-18x2	柱-梁	40.3	22.1	20.3
			梁-梁	25.4	13.9	19.4
420~450		HSS-23 + HSS-18	柱-梁	45.7	25.1	24.3
			梁-梁	45.5	25.0	30.1
480~		HSS-23x2	柱-梁	51.0	28.0	28.3
			梁-梁	65.7	36.1	40.7

HSP-100,HSP-120 (柱頭・柱脚コネクタ)  
HSP-100シリーズ (柱・横架材・柱用コネクタ)



部 材	接合タイプ	短期基準せん断耐力(kN)	短期基準せん断耐力(kN)
スプルス同等集成材	中柱	10.4	5.9
	隅柱	6.7	5.9
スギ同等集成材	中柱	7.0	5.9
	隅柱	5.6	5.9
KD材	中柱	5.6	5.9
	隅柱	7.9	5.9
LVL材	中柱	6.9	5.9
	隅柱	4.4	5.9





















※ HSP-100は柱と横架材・土台・ラーメン柱と上階柱・梁を接合します。  
※ HSP-120は柱と横架材・土台を接合します。  
※ HSP-100シリーズは隅梁等と上下階の柱を接合します。  
※ HSP-100,HSP-120,HSP-100シリーズは横架材との接合においてドリフトピンとボルトの両方に対応しています。

60

部材リスト

部材名	寸 法		材 種
土台	120×120 （防腐材注入）	E95-F270	唐松集成
管柱	120×120	E65-F255	杉集成
梁・桁	120×120	機械等級 E110以上	ベイマツ
梁・桁	120×150～	機械等級 E110以上	ベイマツ
化粧梁（現し梁）	120×210	機械等級 E110以上	ベイマツ
母屋・棟木	120×120	機械等級 E110以上	ベイマツ
小屋束	120×120	E65-F255	杉集成
床下地面材	構造用合板 t 24.0（特類）	実付 F☆☆☆☆	針葉樹
火打ち	鋼製火打ち（ビス留め）		鋼製
筋違い	45×90		米松KD
耐力壁面材	構造用合板 t 12.0、t 9.0（特類）	F☆☆☆☆ （受け材は特記による）	針葉樹
間柱	120×45 109×45		杉KD
窓台	120×45		杉KD
窓マグサ	120×45		杉KD
野縁	36×40		杉KD
胴縁（半貫）・貫	45×14 90×14		杉KD
雲筋交い	90×18		杉KD
垂木・転び止め	45×60@455	（垂木用構造ビス押さえ）	杉KD
野地板	構造用合板 t 12.0（特類）	F☆☆☆☆	針葉樹

接合金物リスト（STR00G金物同等耐力品）

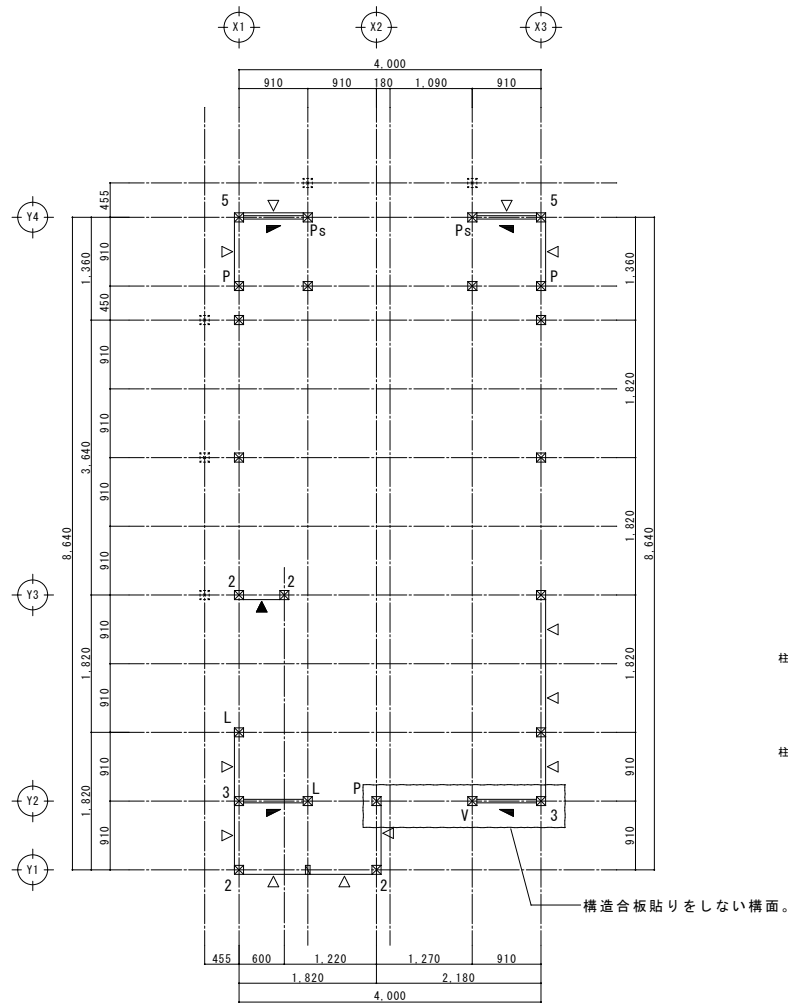
凡 例		金物種類・品番	
	管 柱	HSS-D 継手金具	
	化粧管柱	HSS-10	
	通 柱	HSS-18	
	化粧通柱	HSS-23	
	下柱（柱勝）	（登梁用） HSS-15R HSS-18RK HSS-18LK	
	下柱（柱負）		
	小 屋 束		
	小屋束（柱勝）	柱頭柱脚金物	
	間柱	□ HSP-100	
	ジョイント間柱	□ HSP-120	
		□ HSP-190	
		□ HSP-20 k N	
		□ HSPT-20 k N	

柱梁・柱土台 接合部 【柱伏図参照】					
告示	記号	下記同等以上とする	N	短期金物耐力	
い	無	短ホソ差し、カスガイ打ち 同等程度	0.0	0.0	
ろ	L	かど金物 (CP-L)	0.65	3.38	
は	V	山形プレート HSP-100（中柱）	1.00	5.88	
に	P	羽子板プレート HSP-100（隅柱）	1.40	7.50	
ほ	Ps	羽子板プレート（スクリュー釘打ち有）	1.60	8.50	
へ	2	10KN用引き寄せ金物 HSP-190（隅柱） HSPT-20kN	1.80	10.00	
と	3	15KN用引き寄せ金物 HSP-190（中柱）	2.80	15.00	
ち	4	20KN用引き寄せ金物 HSP-20kN HSP-556	3.70	20.00	
り	5	25KN用引き寄せ金物	4.70	25.00	
ぬ	6	30KN用引き寄せ金物	5.60	30.00	

#/#：柱頭/柱脚 を示す。左記以外は柱頭・柱脚ともに同じ補強金物とする。

年 度	工事名称		一級建築士事務所 第277号 株式会社 カクタ設計 岩手県遠野市松崎町白根字地蔵23-1 カクタ設計金石営業所 盛岡市大瀬町1丁目1-1 中央ビル2F	管理建築士 1級建築士 登録第168469号 佐野 文男	統括 多田 担当	製 多田 園	1級建築士 第374554号 多田 和広 印	製作日	区 分	図 面 内 容	縮 尺	図面番号
1	尾崎町郷土芸能伝承施設改築工事							令和2年 3月	構 造 工 事 種 別 新 築	部 材 リ ス ト	N o n	WS - 8





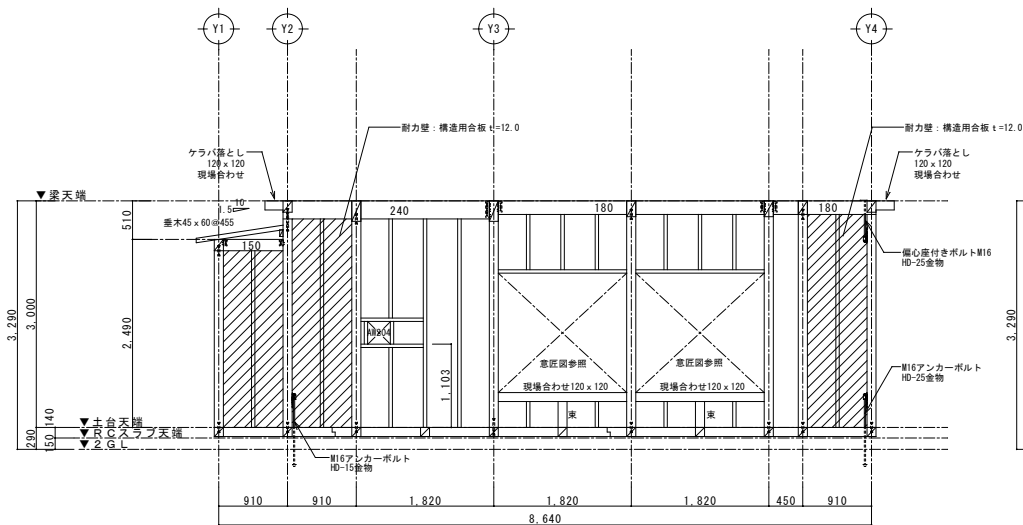
柱・耐力壁伏図 S:1/50

凡例

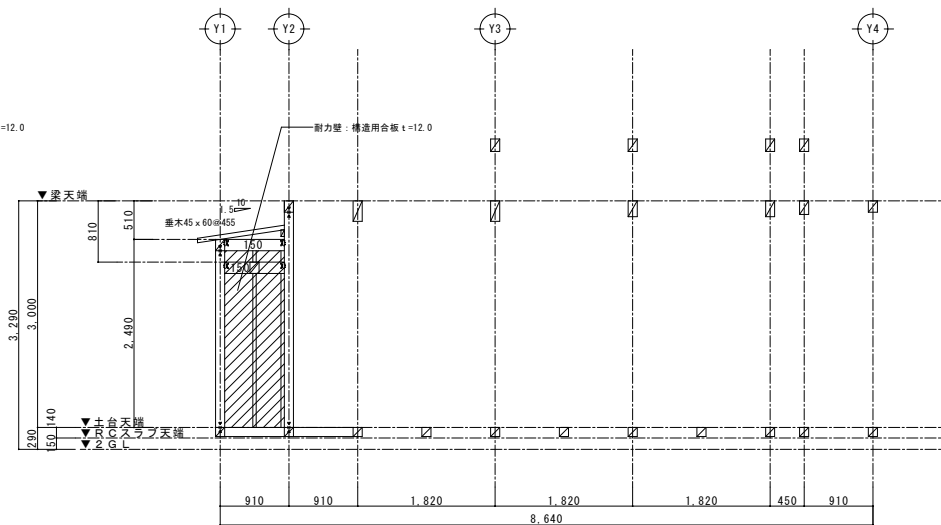
☒	杉集成柱	120×120	を示す
☒	杉	120×120	を示す (はね出し)
▲	筋かい	45×90 シングル	を示す 倍率2.0
▽	耐力壁 (外壁面)	構造用合板 t=12.0	を示す。 外周 N65@150 中通り N65@150 倍率2.5
▼	耐力壁 (真壁タイプ)	構造用合板 t=9.0	を示す。 外周 N50@150 中通り N50@150 倍率2.5
備考：外壁面の開口部・妻壁についても構造用合板貼り。 ただし、Y2通りは構造合板貼りは無しとする。			

接合部凡例

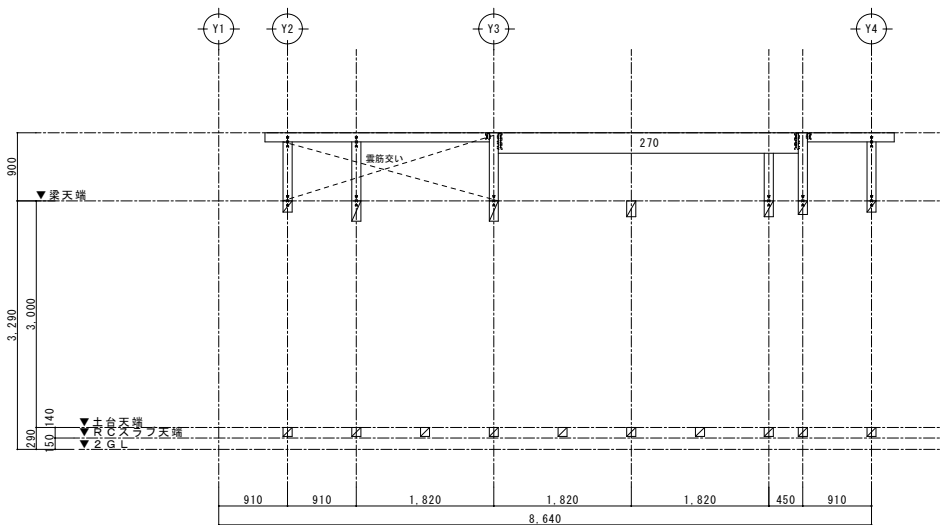
記号	告示	下記同等以上とする	N	短期金物耐力
無	い	短ホゾ差し、カスガイ同等	0.0	0.0
L	ろ	かど金物 (CP-L)	0.65	3.38
V	は	山形プレート	1.00	5.88
P	に	羽子板ボルト	1.40	7.50
Ps	ほ	羽子板ボルト (スクリーン釘打ち有)	1.60	8.50
2	へ	10KN用引き寄せ金物	1.80	10.00
3	と	15KN用引き寄せ金物	2.80	15.00
4	ち	20KN用引き寄せ金物	3.70	20.00
5	り	25KN用引き寄せ金物	4.70	25.00
6	ぬ	30KN用引き寄せ金物	5.60	30.00
#/# = 柱脚金物 / 柱頭金物 但し、左記以外は上下同じ金物。				



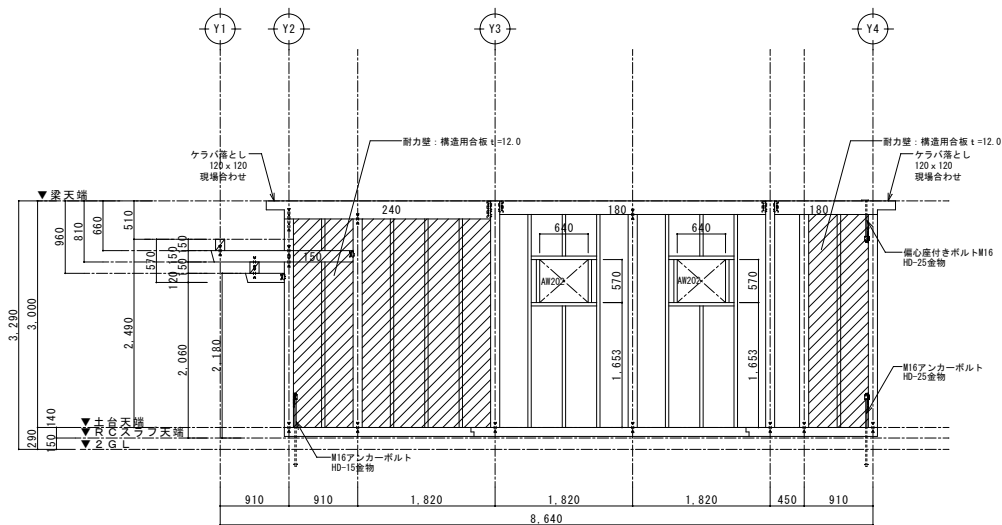
X 1 通り 軸組図 S:1/50



X 2 通り 軸組図 S:1/50

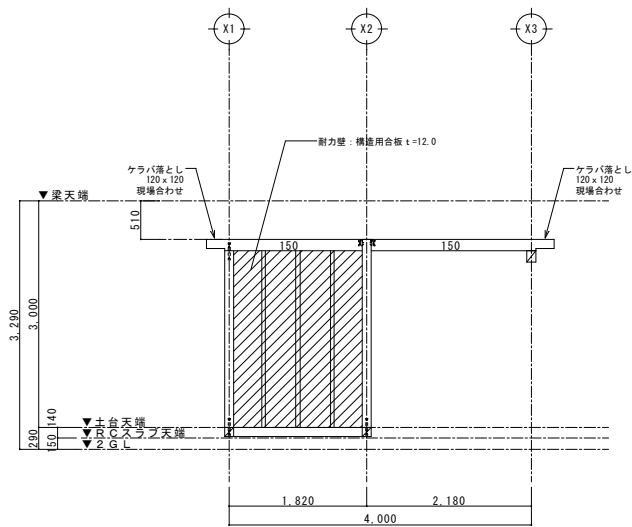


棟通り 軸組図 S:1/50

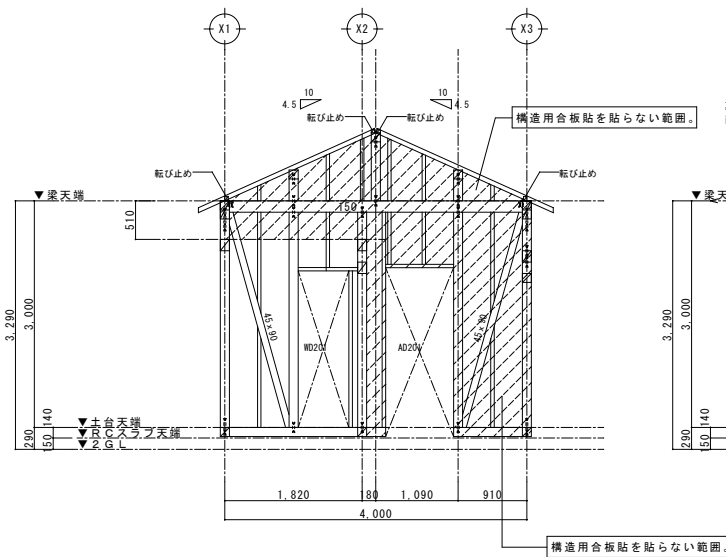


X 3 通り 軸組図 S:1/50

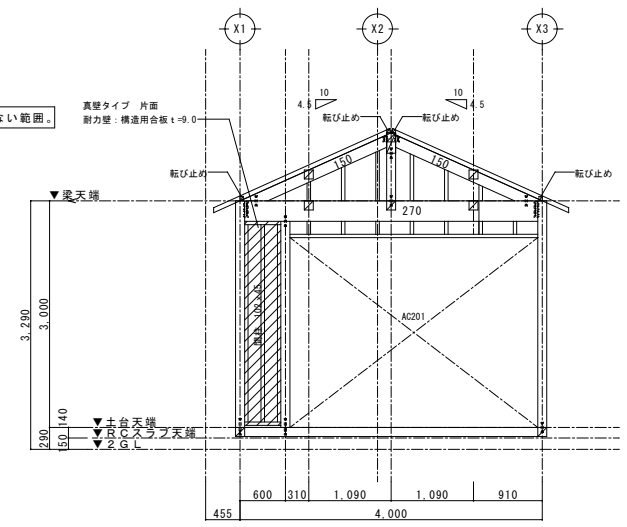
年度	工事名称	管理建築士事務所 第277号	管理建築士	統括	多田	製	1級建築士 第374554号 多田 和広 印	製作日	区分	図面内容	縮尺	図面番号
1	尾崎町郷土芸能伝承施設改築工事	株式会社 カクタ設計 岩手県遠野市松崎町白根字地蔵23-1 カクタ設計金石営業所 重石市大渡町1丁目1-1 中央ビル2F	1級建築士 登録第168469号 佐野 文男	担当	多田	図		令和2年 3月	構造 工事種別 新 築	軸組図 ( 1 )	A2:1/50 (A3印刷71%縮小)	WS - 11



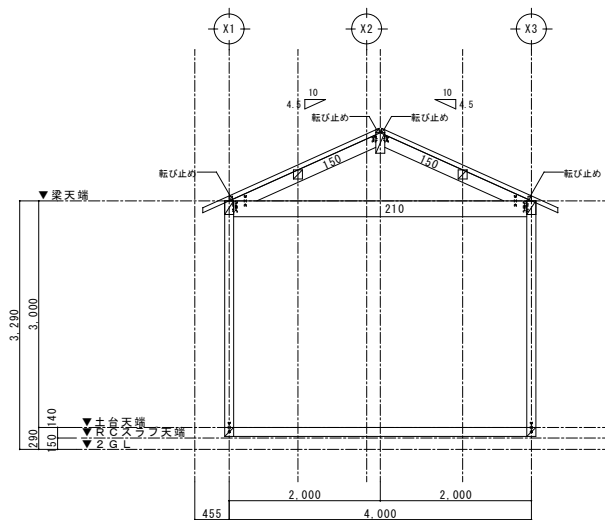
Y 1 通り 軸組図 S:1/50



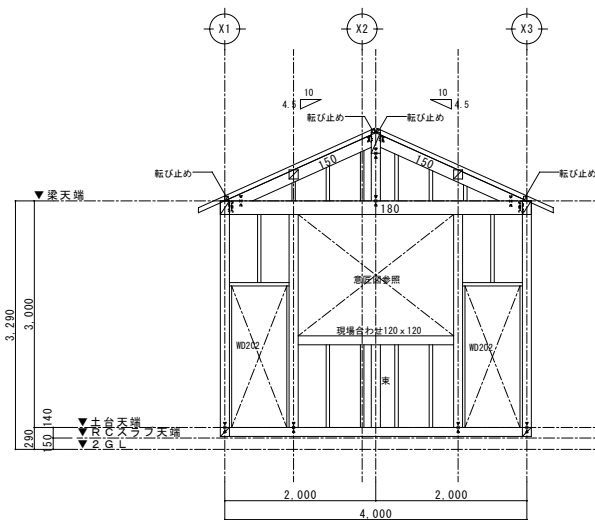
Y 2 通り 軸組図 S:1/50



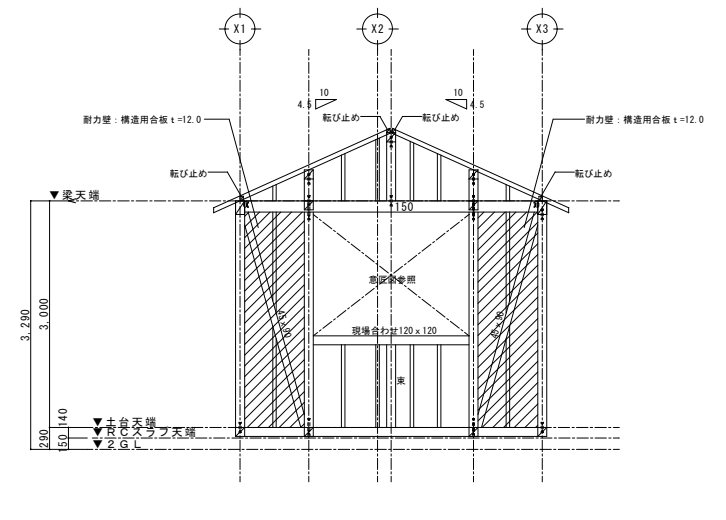
Y 3 通り 軸組図 S:1/50



Y 3+1820 通り 軸組図 S:1/50



Y 4-910 通り 軸組図 S:1/50



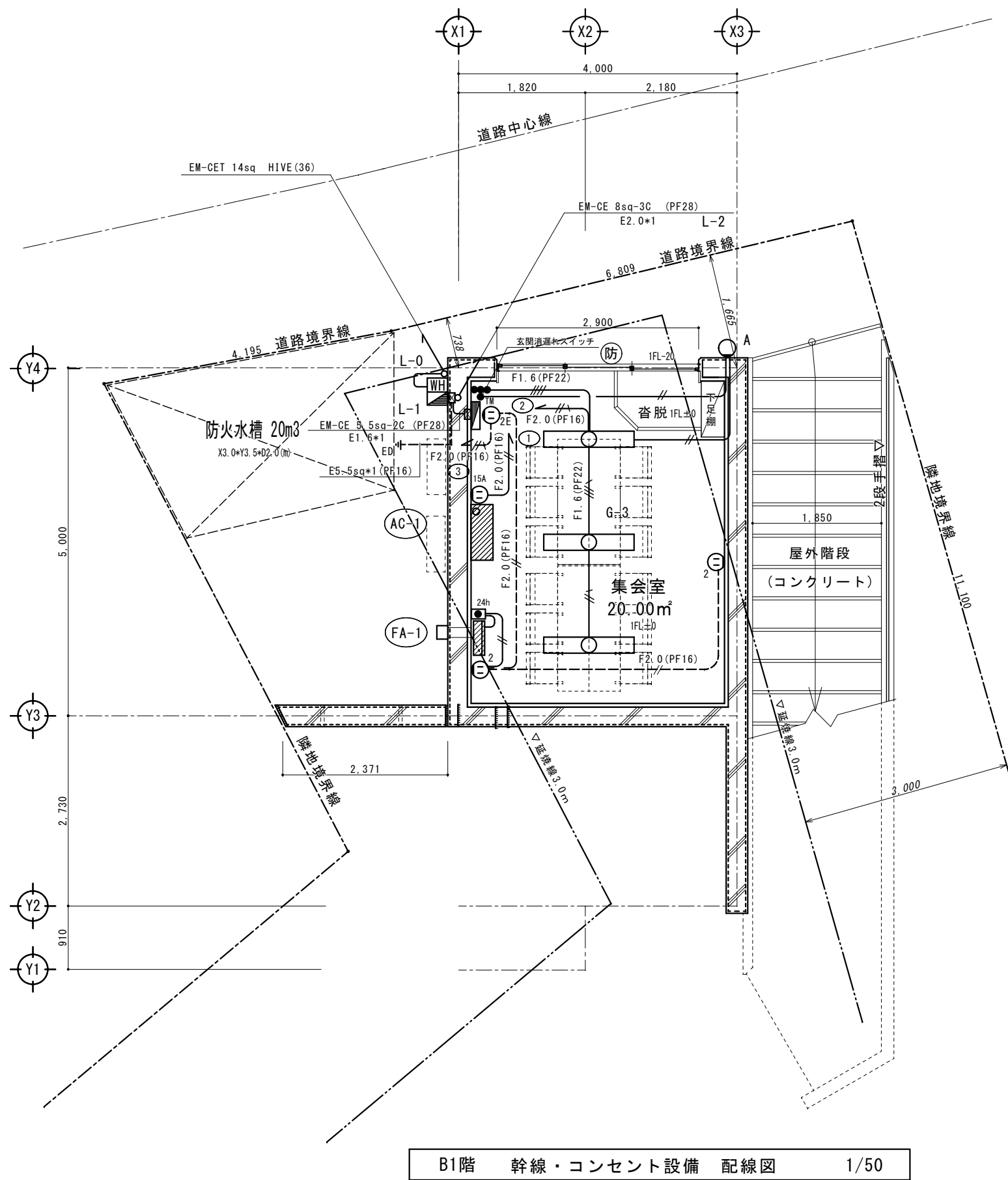
Y 4 通り 軸組図 S:1/50

年度	工事名称	管理建築士事務所 第277号	管理建築士 1級建築士 佐野 文男	統括 多田 担当 多田	1級建築士 第374554号 多田 和広	製作日 令和2年 3月	区分 構造 工事種別 新築	図面内容 軸組図 (2)	縮尺 A2:1/50 (A3印刷71%縮小)	図面番号 WS - 12
1	尾崎町郷土芸能伝承施設改築工事	株式会社 カクタ設計 岩手県遠野市松崎町白根字地蔵田23-1 カクタ設計金石営業所 盛岡市大渡町1丁目1-1 中央ビル2F								









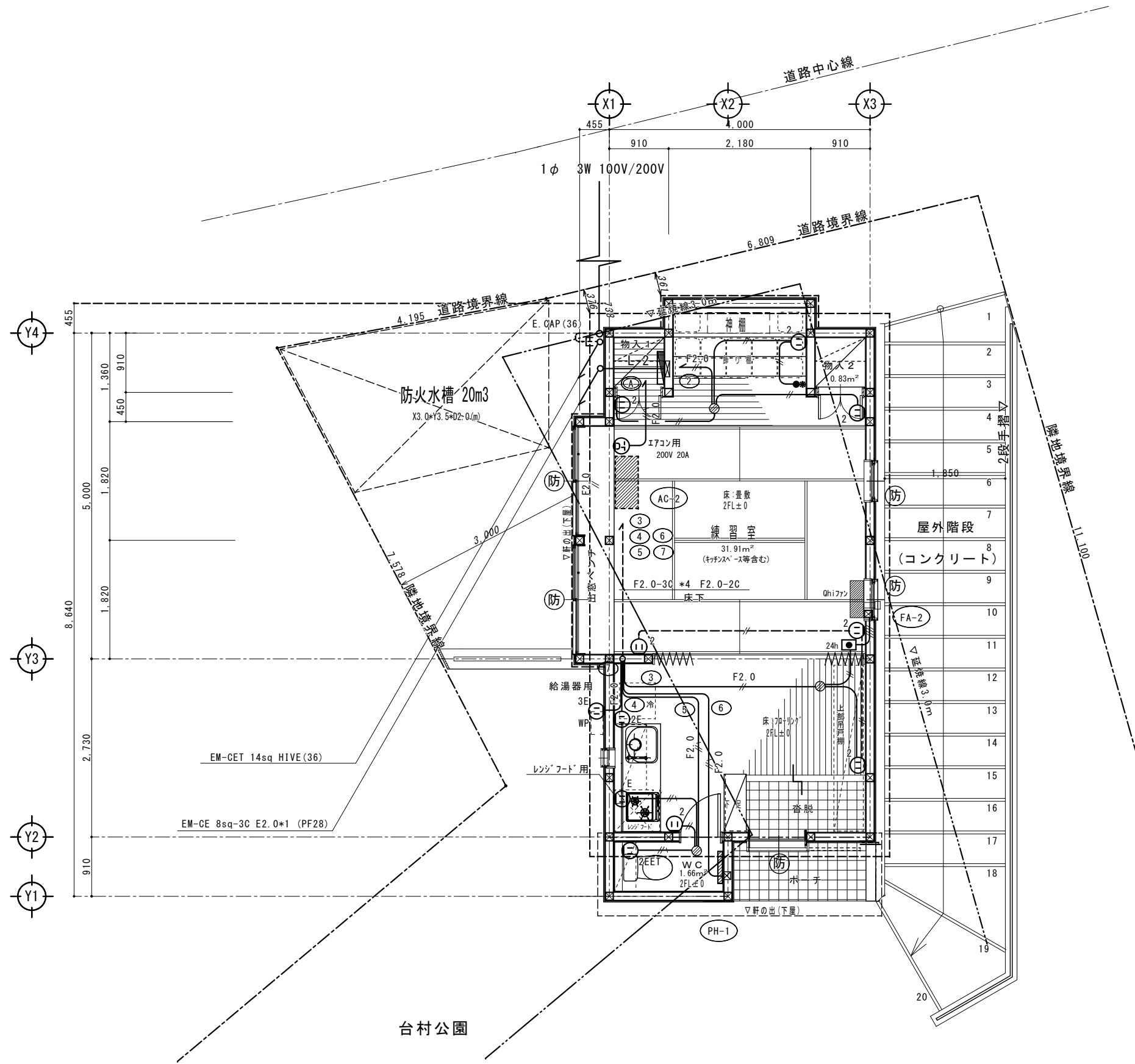




- 特記事項
- 記入なき配線サイズは、EM-EEF 1.6(PF16)とする、
  - 使用電線・ケーブルは、環境対策型とする、
  - コンクリート埋設分は電線管(PF)保護とする
  - 位置ボックス類は結露防止ボックスとする
  - 換気扇は電源・スイッチまで電気設備工事とする
  - 器具は機械設備工事
  - エアコン器具は機械設備工事、電源供給工事は電気設備工事

凡 例			
	エアコン 壁掛型	MSZ-JXV2519 (W)	
		100V	冷105-900W / 暖105-1485W
	24時間換気		
	FY-10WJ-W	100V	強14.5W / 常時弱 12.0W
 24h	24時間換気スイッチ	強弱付	
	FY-SV11WC	カバー付	
 TM	玄関消遅れスイッチ	WTC5373W	
品番は参考品番			

B1階 幹線・コンセント設備 配線図 1/50



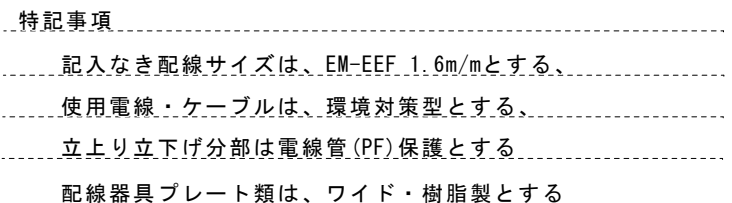
- 特記事項
- 記入なき配線サイズは、EM-EEF 1.6m/mとする
  - 使用電線・ケーブルは、環境対策型とする
  - 立上り立下げ分部は電線管(PF)保護とする
  - 配線器具プレート類は、ワイド・樹脂製とする
  - 引込み配管・支持材の色は打合せの上決定とする
  - エアコン器具は機械設備工事、電源供給工事は電気設備工事
  - 換気器具は機械設備工事、
  - 電源供給・スイッチ配線、工事は電気設備工事






凡 例		
PH-1	パネルヒーター 壁掛型	1800Kcal/h
	NX-500	サーモスタットスイッチ付
AC-2	エアコン 壁掛型	MSZ-JXV5619S(W)
FA-2	24時間換気	1φ 200V 冷105-2020W / 暖105-3670W
24h	FY-16ZJH1-W	100V 強15.5W / 弱 12.5W
	FY-SV11WC	強弱付 カバー付

品番は参考品番

1階 電灯幹線・コンセント 設備配線図 1/50

年 度	工 事 名 称		一級建築士事務所 第277号 株式会社 カクタ設計 岩手県遠野市松崎町白岩字地蔵23-1 カクタ設計金石営業所 釜石市大湊町1丁目1-1 中央ビル2F	管理建築士 1級建築士 登録第168469号 佐野 文男	統括 多田 製 担当 多田 國	1級建築士 第374554号 多田 和広 印	製 作 日	区 分	図 面 内 容	縮 尺	図面番号
1	尾崎町郷土芸能伝承施設改築工事						令和2年 3月	設 備 工 事 種 別 新 築	1階 幹線・コンセント設備配線図	A2:1/50 (A3印刷71%縮小)	E-04

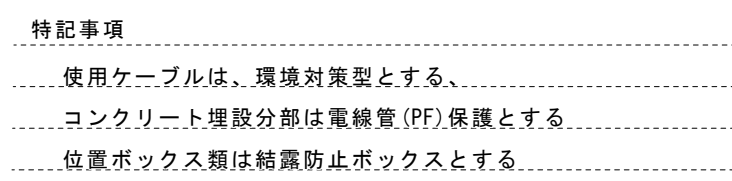


凡 例			
	トイレ 換気扇連動スイッチ 人感スイッチ 明るさセンサー付 WTK2614		
 ネーム	ネーム付スイッチ		
	消し遅れ機能付 WTC5373W		玄関外灯用
	タイマースイッチ TB-50 同一回路型 24時間タイプ 10時間停電保障型		階段側外灯用
 24h	24時間換気スイッチ 強/弱24時間換気ファン	FY-SV11WC	カバー付

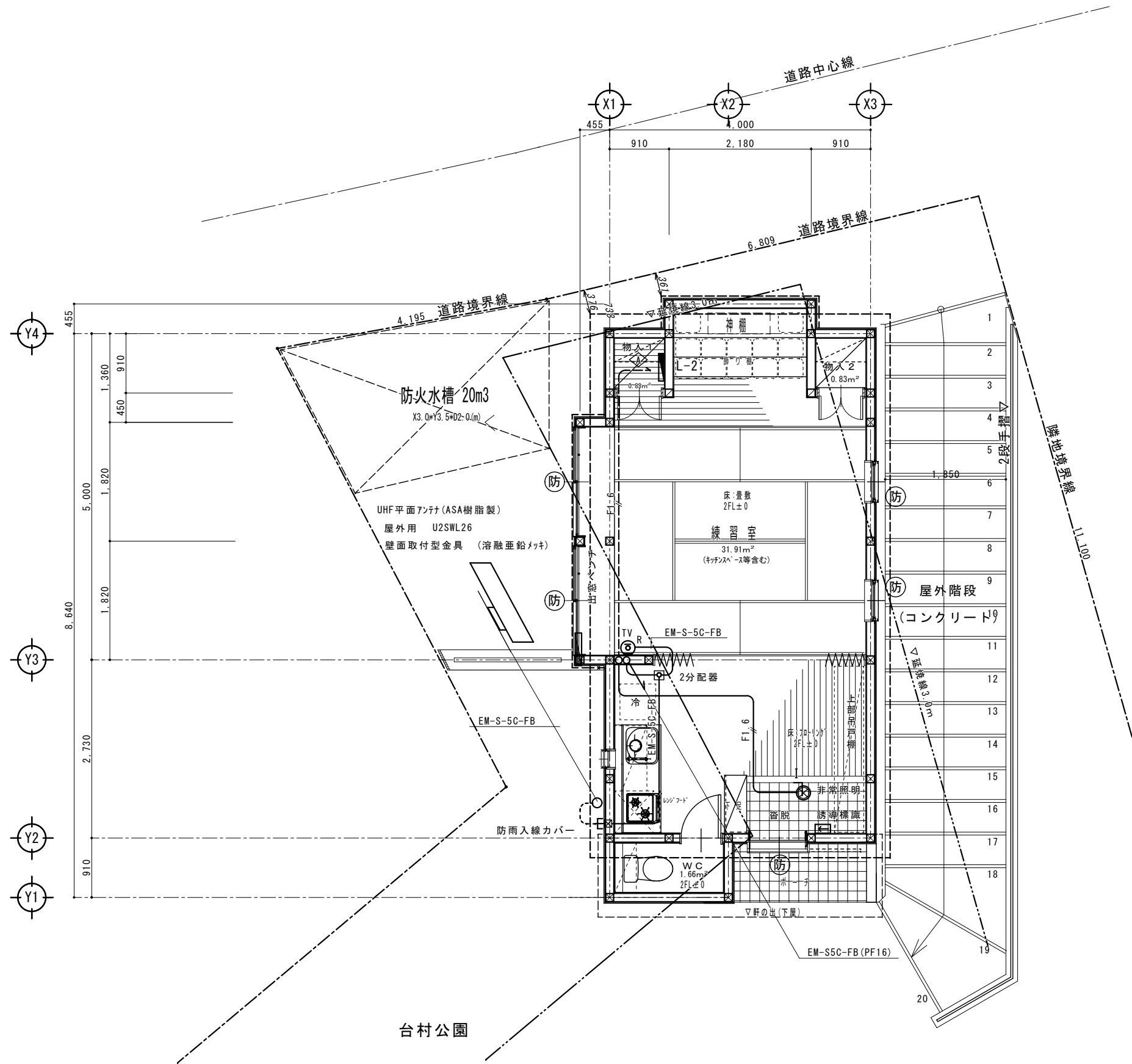
品番は参考品番

1階	電 灯 設 備 配 線 図	1/50
----	---------------	------

年 度	工 事 名 称		一級建築士事務所 第277号 株式会社 カクタ設計 岩手県遠野市松崎町白岩字地蔵23-1 カクタ設計釜石営業所 釜石市大蔵町1丁目1-1 中央ビル2F	管理建築士 1級建築士 登録第168469号 佐野 文男	統括 担当	多田 多田	製 図	1級建築士 第374554号 多田 和広 印	製 作 日	区 分	図 面 内 容	縮 尺	図面番号
1	尾崎町郷土芸能伝承施設改築工事								令和2年 3月	設 備 工 事 種 別 新 築	1階 電 灯 設 備 配 線 図	A2:1/50 (A3印刷71%縮小)	E-05



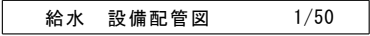
年 度	工事名称		管理建築士	統括	多田	製	1級建築士 第374554号 多田 和広 印	製 作 日	区 分	図 面 内 容	縮 尺	図面番号
1	尾崎町郷土芸能伝承施設改築工事		一級建築士事務所 第277号 株式会社 カクタ設計 岩手県遠野市松崎町白岩字地森23-1 カクタ設計釜石営業所 釜石市大森町1丁目1-1 中央ビル2F	1級建築士 登録第168469号 佐野 文男	担当	多田	図	令和2年 3月	設 備 工事種別 新 築	地下1階 弱電・防火設備 配線図	A2:1/50 (A3印刷71%縮小)	E-06



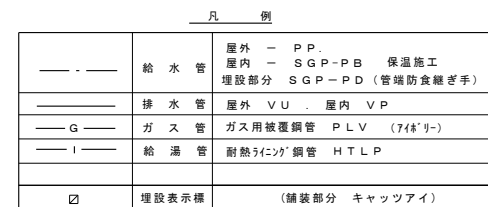
1階 弱電・防災 設備配線図 1/50

年 度	工事名称	設計者	管理建築士	統括	製	1級建築士 第374554号 多田 和広	印	製 作 日	区 分	図 面 内 容	縮 尺	図面番号
1	尾崎町郷土芸能伝承施設改築工事	株式会社 カクタ設計 岩手県遠野市松崎町白岩字地蔵23-1 カクタ設計 釜石営業所 釜石市大湊町1丁目1-1 中央ビル2F	1級建築士 登録第168469号 佐野 文男	多田	多田			令和2年 3月	設 備 工事種別 新 築	1階 弱電・防火設備 配線図	A2:1/50 (A3印刷71%縮小)	E-07






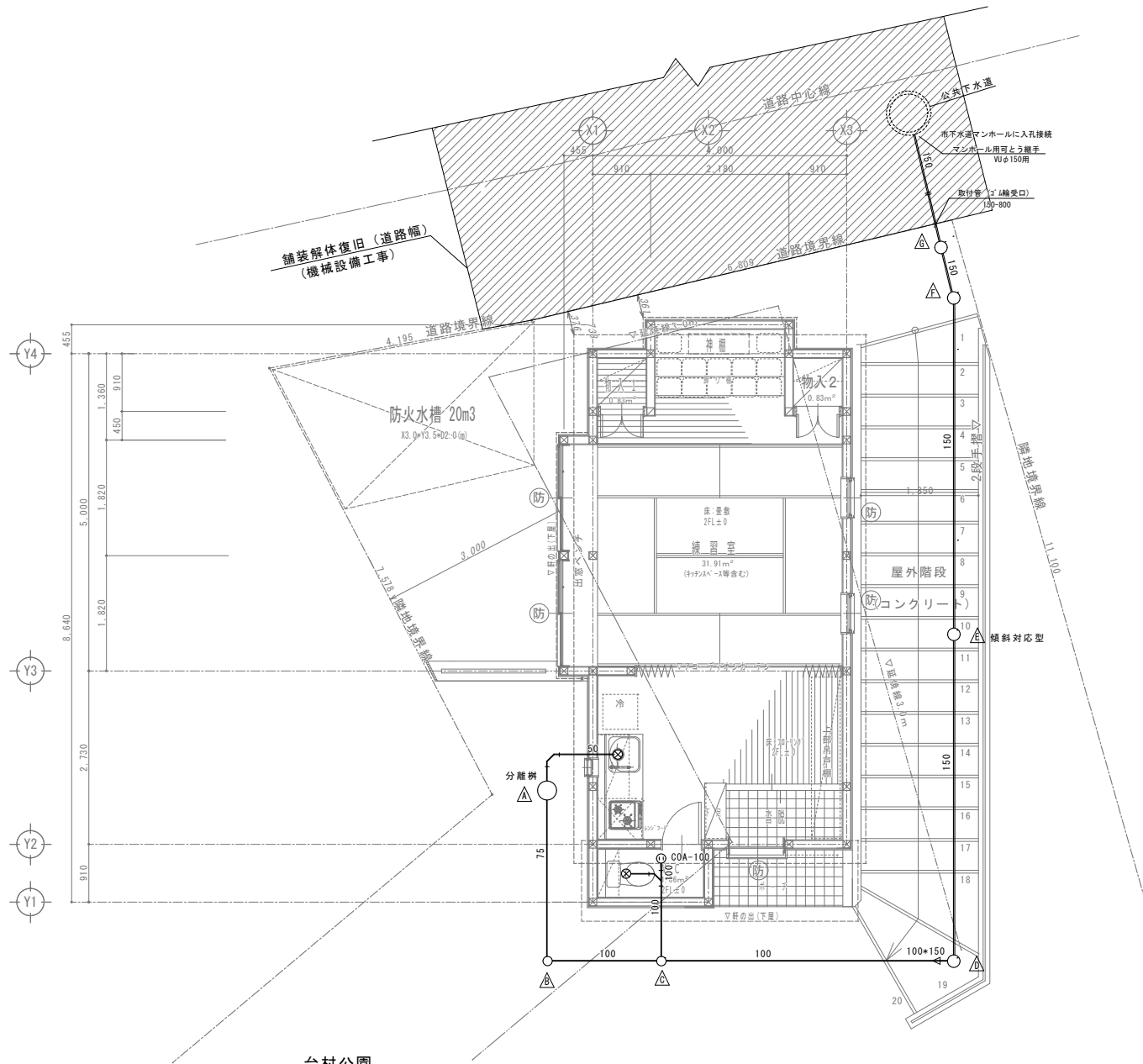
年 度	工事名称		一級建築士事務所 第277号 株式会社 カクタ設計 岩手県遠野市松崎町白岩字地蔵第23-1 カクタ設計釜石営業所 釜石市大湊町1丁目1-1 中央ビル2F	管理建築士 1級建築士 登録第16846号 佐野 文男	統括 多田 製 担当 多田 因	1級建築士 第374554号 多田 和広 印	製 作 日	区 分	図 面 内 容	縮 尺	図面番号
2	尾崎町郷土芸能伝承施設改築工事						令和2年 3月	設 備 工事種別 新 築	屋外給水設備配管図	A2:1/50 (A3印刷71%縮小)	M-02



給水・給湯・ガス 設備配管図 1/50

年 度	工事名称		一般建築士事務所 第277号 株式会社 カクタ設計 岩手県遠野市松崎町白字地蔵23-1 カクタ設計釜石営業所 釜石市栗原1-1-1 電話0192-33-1111	管理建築士 1級建築士 登録第168469号 佐野 文男	統括 多田 製 担当 多田 國	1級建築士 第374554号 多田 和広 印	製作日	区 分 意 匠 工事種別	図 面 内 容	縮 尺	図面番号
1	尾崎町郷土芸能伝承施設改築工事						令和2年 3月	1階 給水・給湯・ガス設備配管図	A2:1/50 (A3印刷71%縮小)	M-03	





台村公園

排水 設備配管図 1/50

器具表

トイレ	洋風大便器	暖房便座 手洗い付 吸気弁止水栓 CS230B SH230BA TCF226
	紙巻器	2連 棚付 YH650
	手摺	I型 YHB602S
湯沸し室	キッチン ユニット	バックは建築工事 混合水栓・レンジフード・ガス器具 キッチン付属 給水・給湯・排水接続設備工事
	ヒューズボックス	9.5LB -15A
外部	給湯器	LPGガス 10号 壁掛型 GQ-1037W
		吸気弁止水栓*2 可とう管ボックス ドレンパイプ 配管カバー付 凍結防止ヒーター巻き保温

品番は参考品番 相当品とする

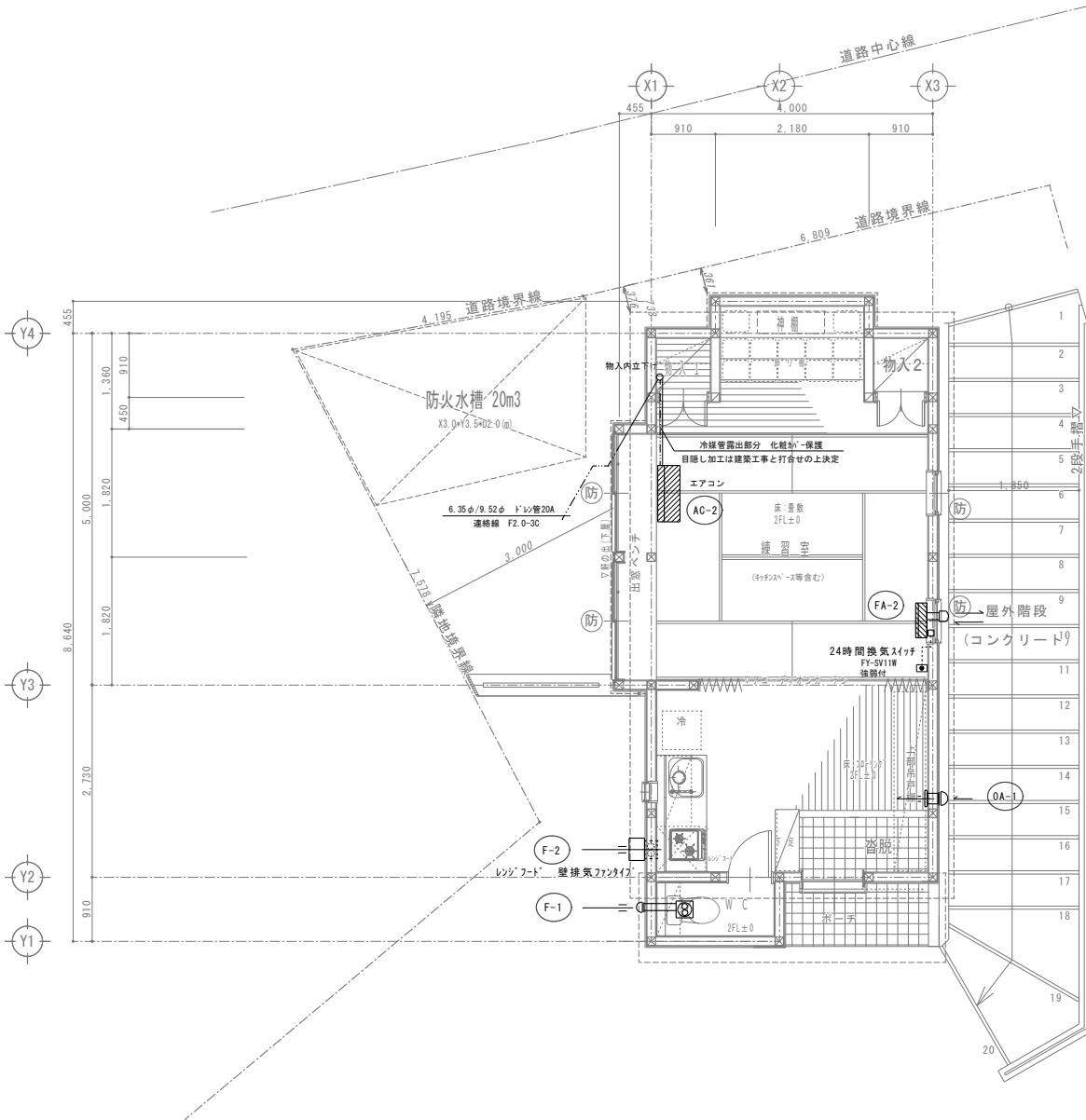
樹リスト

		流入管径	
A	分断弁 塩ビ蓋付き 業上げ100	318φ 75×75 BM75V	(-342)
B	ビニール 塩ビ蓋付き 90度曲インポート	150φ 100×75	(-410)
C	ビニール 塩ビ蓋付き 90度合流インポート	150φ 100×100	(-450)
D	ビニール 縁物蓋 90度曲インポート	200φ 150×150 異形継手 100×150 ゴム輪受口自在継手 SRF 150	(-730) 階段レベルから (-600)
E	ビニール 縁物蓋 傾斜対応	200φ 150×150 KFVHF-ST ゴム輪受口 首振り90°15° ゴム輪受口自在継手 SRF 150	階段レベルから (-620)
F	ビニール 縁物蓋 ストレートインポート	200φ 150×150 VHF-ST ゴム輪受口 ゴム輪受口自在継手 SRF 150	現地GLから (-640)
G	ビニール 縁物蓋 ストレートインポート	200φ 150×150 VHF-ST ゴム輪受口	現地GLから (-680)

階段部分排水配管工事は、階段工事と打合せの上配管敷設工事  
を行うこと  
市道アスファルト復旧工事は、給水工事部分も含め指定範囲と  
する、L型側溝部分復旧は建築工事とする

年度	工事名称	設計者	監理者	施工者	製作日	区分	図面内容	縮尺	図面番号
1	尾崎町郷土芸能伝承施設改築工事	株式会社 カクタ設計 岩手県滝沢市松崎町白根千地森23-1 カクタ設計金石営業所 盛岡市大湊町1丁目1-1 中央ビル2F	1級建築士事務所 第277号 管理建築士 1級建築士 登録第168469号 佐野 文男	統括 多田 製 担当 多田 園	1級建築士 第374554号 多田 和広 印	令和2年 3月 意匠 工事種別 新築	1階・屋外 排水設備配管図 樹リスト 器具表	A2:1/50 (A3印刷71%縮小)	M-04





局所換気用

F-1	天井埋込ファンダクト100φ FY-17S7 100V 7.5W 85m3/h	SUS・防虫網付丸型パイプフード (指定色) 防火ダクト付
F-2	レンジフード250φフタタイプ NBH70Bパイプタイプ60cm	SUS・防虫網付パイプフード(機械設備工事) (指定色) 防火ダクト付 キッチンユニット付属(建築工事) 100V 38W 強800/弱510m3/h

パイプフード(指定色)

電源・スイッチは電気工事

ダクト(保温付)・フードは機械設備工事

換気扇器具表 24時間換気

FA-2	Q-hiファン 寒冷地用 495W*243H*160D FY-16ZJH1-W 壁掛型・110φパイプ方式・熱交換型	
	100V 常時強 15.5W / 常時弱 12.5W 換気風量 強52m3/h/弱42m3/h	
OA-1	パイプフード丸型 (指定色) 防火ダクト付 100φ FY-MTXA04	
	自然給気口 FY-DRV062-C 防火ダクト付 (指定色) パイプフード FY-MNXA062 150φ 丸型 SUS防虫網付	

品番は参考品番 相当品とする

必要換気計算表

対象 部屋名	必要換気量計算					設置した機械換気設備			
	床面積 A・㎡	天井高 h・m	部屋容積 A・h m³	換気回数 a	換気量 m³/h	設計換気量 m³/h	換気の種類	換気量 m³/h	換気回数 回/h
練習室	5.0*4.0	20.0	3.3 a 66.0	(a+b+c)					
出窓 (書・物入れ)	3.64*0.455	1.65	1.5 b 2.47	70.05	0.5	35.02	36	50.0	第3種 機械換気
神棚	2.18*0.455	0.99	1.6 c 1.58						強運転 52.0 OK
湯沸室	2.73*4.0	10.92	2.5	27.3	0.5	13.65	14		
計		35.22		97.35					

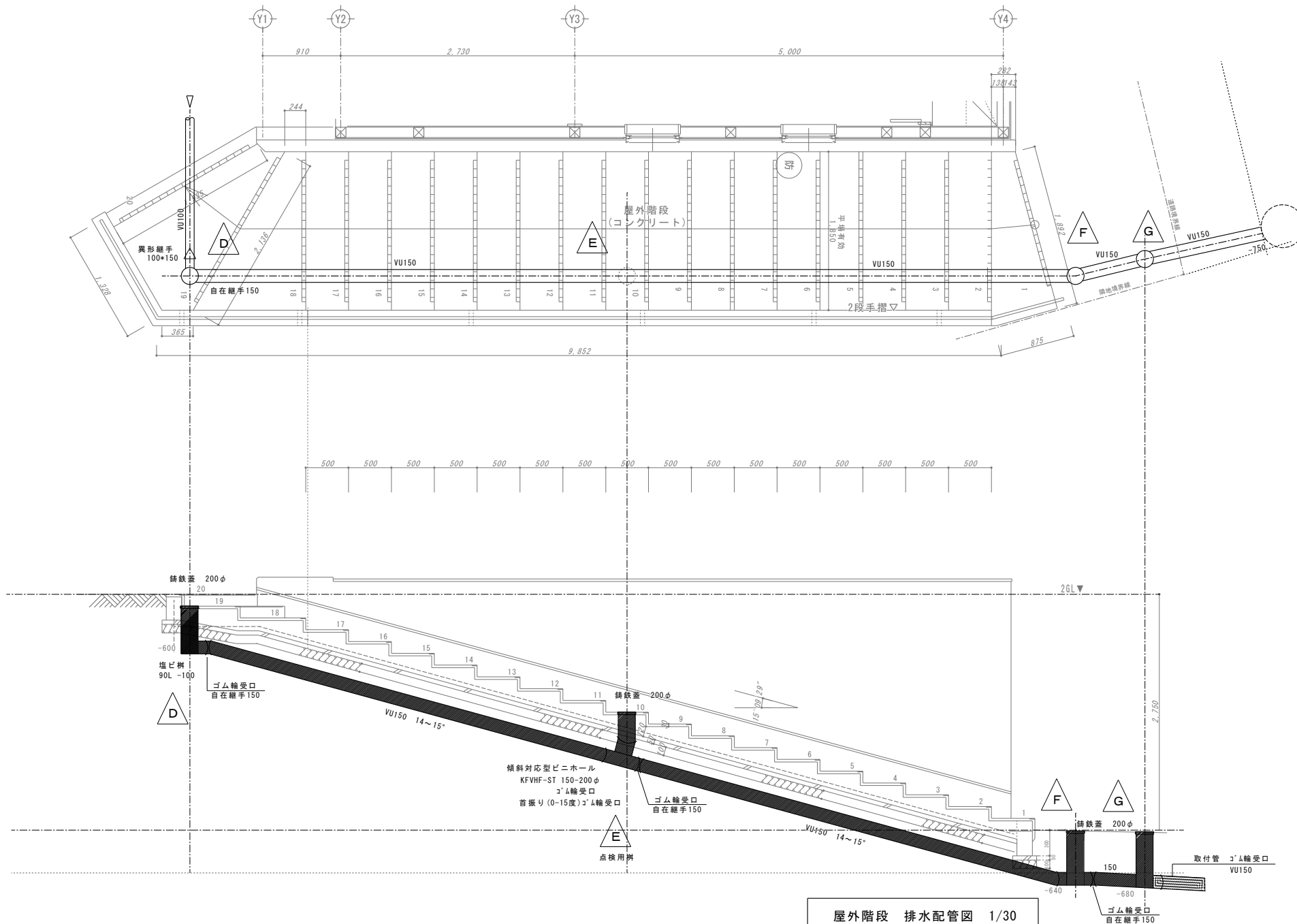
燃焼器具使用室換気量計算 (湯沸)

必要換気量 換気フードI型使用の場合  $V = 3.0 K \cdot Q$   
必要換気量  $(V, m³/h) = \text{定数} \cdot \text{理論燃ガス量} (K, m³/h \cdot \text{h}) \cdot \text{燃料消費量} (Q, m³/h)$

燃料の種類	LPガス	理論燃ガス量 (K)	0.93m³/KW・h
使用ガス器具	燃料消費量	1時間当り発熱量 (Q)	必要換気量 $V = 3.0 K \cdot Q$
調理台 2口ガスコンロ	0.4 kg/h	5.58 KW	155.6 m³/h
レンジフード排気			レンジフード排気 (B) $V < \text{換気風量}$
計算基礎数値 パナソニック換気扇設計資料より			
使用換気扇 (B)	レンジフード NBH-618KN	100V 38W	換気風量 強800/弱510m³/h

LIXIL カタログ資料より

年度	工事名称	設計者	監理建築士	統括	製	製作日	区分	図面内容	縮尺	図面番号
1	尾崎町郷土芸能伝承施設改築工事	一級建築士事務所 第277号 株式会社 カクタ設計 岩手県遠野市松崎町白根字地蔵23-1 カクタ設計金石営業所 岩手県大沢町1丁目1-1 中央ビル2F	1級建築士 登録第168469号 佐野 文男	多田 多田	1級建築士 第374554号 多田 和広 印	令和2年 3月	意匠 工事種別 新築	1階 空調・換気設備 配管図 器具表 24時間換気計算表 燃焼器具使用室換気量計算表	A2:1/50 (A3印刷71%縮小)	M-06



屋外階段 排水配管図 1/30

年度	工事名称		管理建築士 1級建築士 登録第168469号 佐野 文男	統括 担当 多田	製 図 多田	1級建築士 第374554号 多田 和広 印	製作日 令和2年 3月	区 分 設 備 工事種別 新 築	図 面 内 容 屋外階段 排水配管図 (参考図)	縮 尺 A2:1/30 (A3印刷71%縮小)	図面番号 M-07
2	尾崎町郷土芸能伝承施設改築工事		一級建築士事務所 第277号 株式会社 カクタ設計 岩手県遠野市松崎町白根字地蔵23-1 カクタ設計金石営業所 富山市大沢町1丁目1-1 中央ビル2F								